

清俗紀聞

第六

數帙

卷之十二 祭禮

卷之十三 僧徒

以上六本大

77

2773

6



門 7
2773
6

清俗紀聞卷之十二

祭禮

○先祖を祭ふは正月三月十月定式の祭祀あり夏至冬至小祭あり
 此も家廟キヤウミヤウに祠堂ありて冬三月の祭年の十二月廿九日の以王人盛
 服ホク潔淨ケツジヨウなる者一家廟に至りて神主の衣イも香一拜ハク一跪クヰ神主に
 叩ヒキひ今迎新春恭奉祭祀と告ぐ廟の側高卓子を置きお祀神主
 を暫く移して後家廟を掃除潔淨ソウジ掃除ソウジ儀儀えのちて神主を安座
 神主は後真像マコトイミガタを行樂圖と云ふ行樂圖と云ふ儀も未日案儀アンギ香爐カウロ燭臺ロウダイを傍
 付ツケ其コノ高卓子をすく大なる花瓶ハクビンも随意も用也トクイモヨウ牡丹ボタンの造花ツクリハナをいけ
 已出イデ造花ツクリハナ牡丹ボタンの造花ツクリハナをいけ儀も未日案儀アンギ香爐カウロ燭臺ロウダイを傍
 分挿ワキサシ一ヒト方カタ燈籠トウロウ電デンをか者モノ燒物ヤクモノの皿サハ苜蓿枝モクシャクサエ電眼デンガン落花生ラクチン松子マツゴ

祭禮

清俗紀聞

東瓜糖桔餅或ハ糕餅菓物種々ありひみ大根みく水仙花菊等成製衣

供物都合二十只備へ至元朝みら主人早辰み沐浴盛服を志

子孫皆姪を引領ちて家廟へ至り廟外にて盥洗燈を照し三牲

を備へ饌成進す饌ハ魚肉野菜煮物等にて饌器に盛り爵盃み酒を盛主人

跪く不盃を道し畢ちて拈香供養済ん漢人の四種満人の主人拜畢ちて嫡子庶

子伯叔父姪婦女等同居の親族志しく拜す廟拜畢ちて家内の從儀

を述己の中刻以徹饌す廟の菓子徹饌の時も主人子孫志しく拈香供養

志しく徹後を三牲ありひみ饌の徹す其余の供物ハ其後それ成製衣

十八日み至り徹す饌を徹して暮るる三牲なりひみ饌の物を煮盡して

家内強ら守會は成薦酢と進饌と元日むりありて二日より

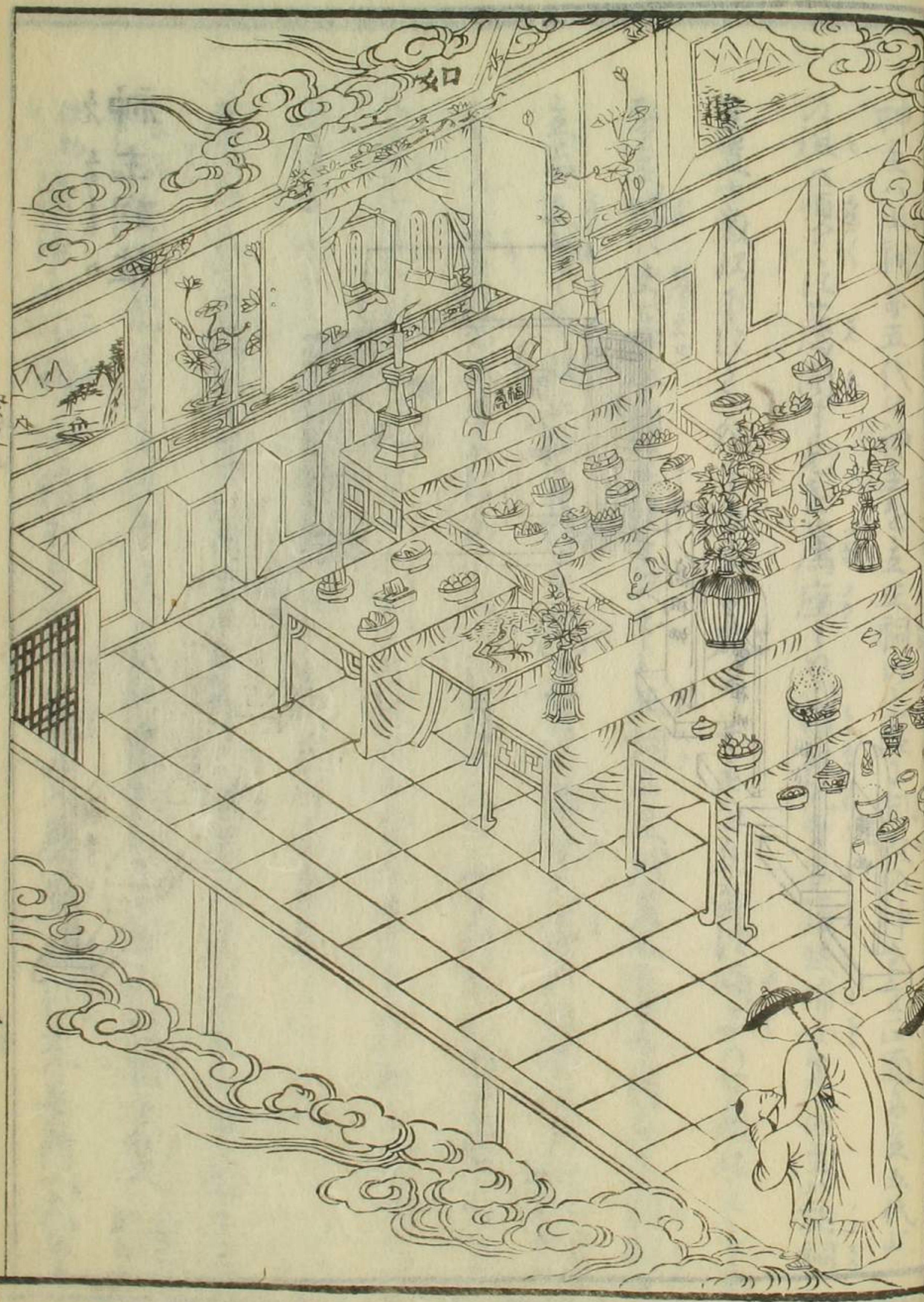
進饌眞酒等の事あり十五日上元佳節主人早辰に主人盛服

多燭以照し香成拈し眞酒寸三牲供物等を叙し十八日早辰

主人盛服し子孫を引領して盥洗し拈香礼拜し跪て神主人

恭請徹位と告ぐ諸供物を徹し廟厨の扉を開して茶の香案

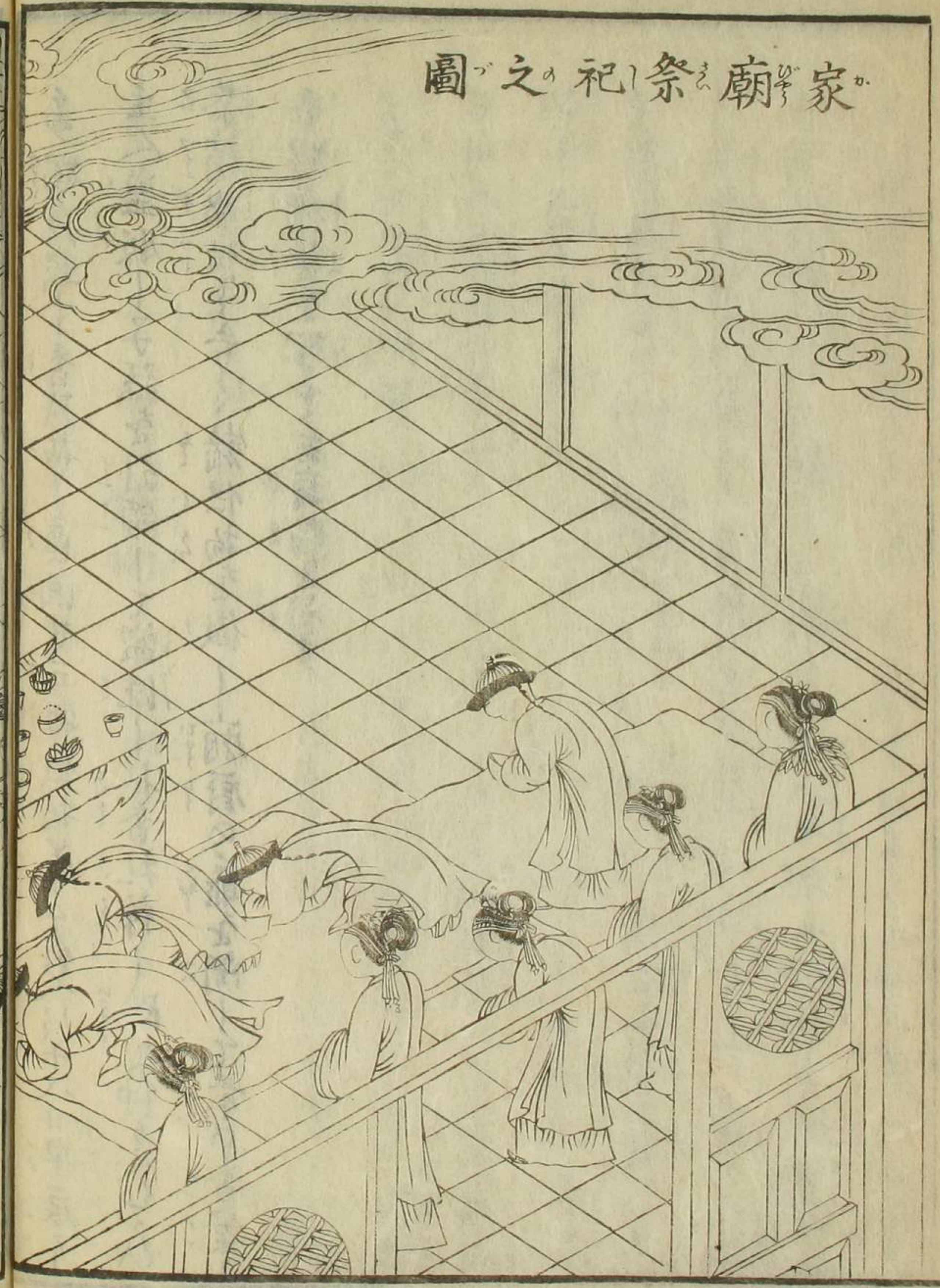
香爐燭臺を並びて廟門を開す



祭礼

三

家^か廟^{びやう}祭^{まつり}之^の之^の圖^ず



○先祖祭も致齋齋戒等の事ありなればに庶民の祭文法もちひす官

家御紳等ハ祭文を用也 ○祖父母父母の喪中ハ毎月忌辰ありひみ朔

望神々眞酒拈香して礼拝に毎日拜す事希之葬らざるせん

且弔着も柩前も拜をれ 眞茶眞酒眞茶等あり葬りてのち

喪期の内ハ神々成廳堂も立置朔望忌辰の拜のあり喪期満く神々

を祠堂も移してハ父母とてハ毎月忌辰の祭祀なり朔望に拈香を

拈香眞酒して礼拝す本忌辰 日あり とも祭事未かハ旦忌辰

子孫吃素す未れハ喪終りて後ハ周年 一周 三周年 二年 法會成執

行ハ祭事此際僧道を請ト追薦也三年後ハ十年目毎日追祭す法

會も僧道を請ト誦經もハ家廟も多クハ行ハ又廳堂ハ法會の

神々一位を移して祭事あり僧道ハ布施して銀ありハ儀を送る

是を懺資といふ僧一人一日錢百文或ハ百五十文行銀ありハ一ハ

二ハ復任持長老等ハ銀十文復任持を修法もハ口等執儀の儀ハ

三百目五百目身分に應ハ不同あり是ハ供物料も其内あり又

誦經の上齋非時の食事を此齋を早齋と云非時を晚齋と云

僧誦經の儀ハ盤木魚を鳴す此具ハ僧道も持素もあり

盤木魚の圖式等ハ傍徒 又喪中の法會の儀ハ僧道も

持素して贈ふ事あり喪中も平常の法會もなると

經文ハ大畧普門品金剛經等あり其余ハ詳み難事あり

○周年二年十年目毎の法會追祭の式の春秋祭祀も

望み々家廟ハ三牲一副魚肉菓子類十種復て主人早辰沐浴

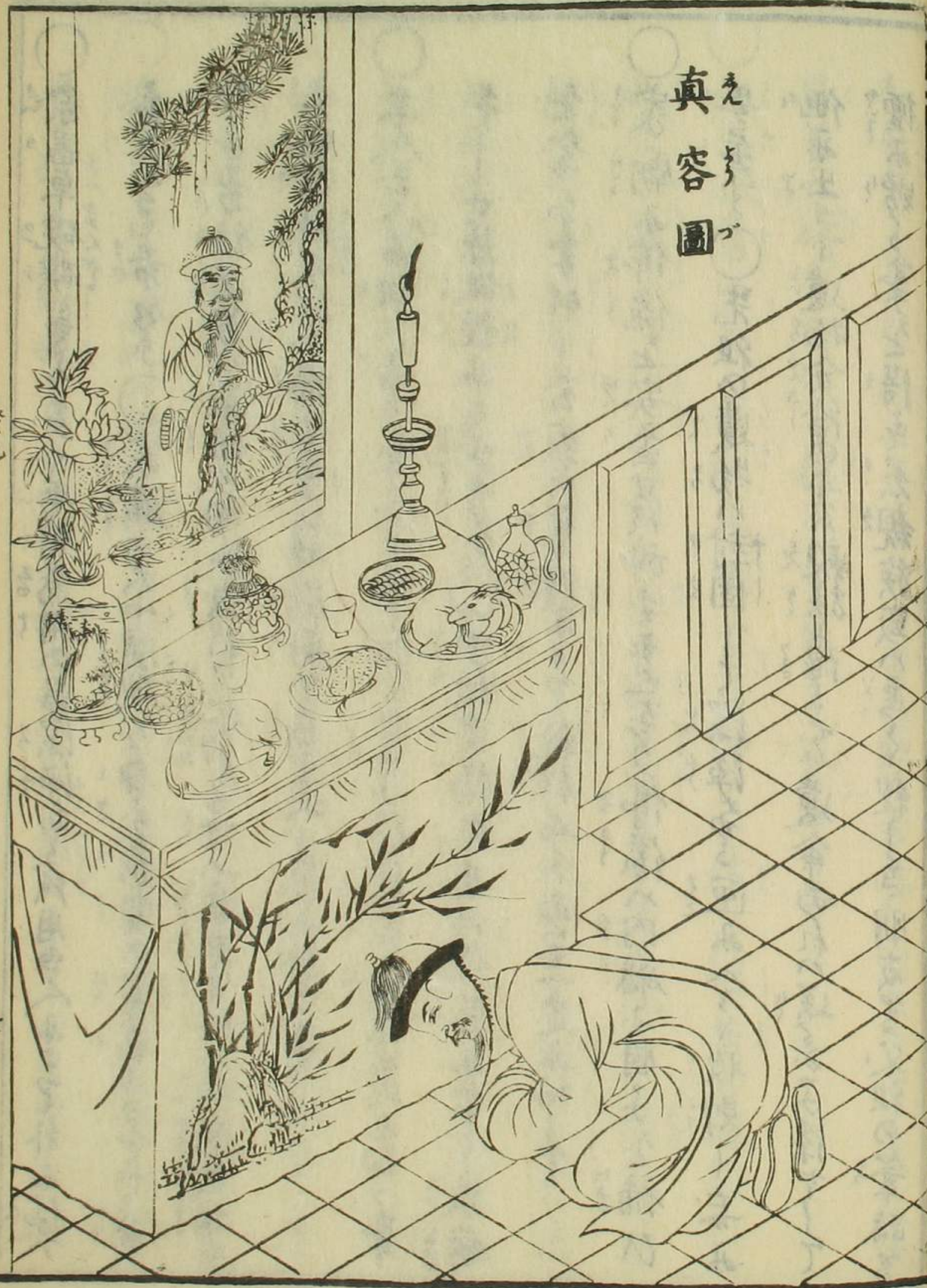
浴ハ盛服して神主とて酒を奠ハ拈香禮拜す

祭礼

六

○開祖考妣祖考妣顯考妣々其人の誕生日ハ廳堂ハ真空圖を
 香三牲魚肉菓子類をそま燭を点し饌を進し眞酒拈香し
 祭式朔望おねふし是を眞期といふ真空圖ハ父祖の末期お面像
 形跡を正写めして掛物お仕立永遠追慕して念ふぬきお祭期
 終るに在るにうまふ又五六十歳おありて自分の像をうけ
 ねくまありて我平時得意の像をうけおまふハ山水残さのまふ
 亭山中おく景物遊覧の跡をうけおまふハ琴碁書畫をうけ
 ね心類をうけおまふハ行樂圖といふ又真空圖といふ

真空圖



祭礼

○祭器卓碗碟等々多く平時需用の器潔淨なるは用也人母より外は使
ふもわると希なり ○家廟の大小廣狭を身が家貧の貧富よりして等
か守方位向きの家作の向か意は只北向を嫌ふ廟中平時の掃除黠婦
ら奴僕經手は掃除等の時廟厨の之儀をみざるもむらさ

○主人出入お祀に告ふ事なくからひお生子は節家廟お見之むら事
かし子孫做親中々必告ふ ○中秋重陽冬至の佳節おけり家廟
を祭ふ事れしを家の舊例よりして執行すをある一定おけり

○家廟お佛像を安置せし神主を祀るに佛像の内廳お厨子を補ひ
安置す ○先祖の遺物の封固して潔淨ある匣み入る收貯し去ら
他お出さず遺物分給の事お親族に遺る遺命おれり送る子孫よりして
檀お賜ふ事を得て是親族或は至る親しき朋友お父祖の筆跡を

を所望すし家廟お告り詩文章草の類の筆跡を賜ふもあるは衣被靴
具等ら務め事なく親を重んずる事おけり

○水火非常の節お而刻家廟お至り神主を残らば取集り檀箱おに
收る子孫お姪附随ひ難を逃し親族朋友又は寺院等へ預る死難
静る後廟所恙ある時移して祭祀を執行し是是廟所燒失流
失破損等あり後を事あるは外お假廟を設け安置し臨時お
祭祀を執行す是を厭上敬馬祭祀とてお取集る時ハ事急あるゆへ禮
儀お及むはいつちお急難たりとも家廟を收るは取内ハ外事り
及むは ○唐禪の祭祀し小洋大洋と則周年二年あり

○城隍と古く其地お徳を誦ふ各官卿賢を城隍神と崇め其地の守護
とて諸省府州縣ともお廟あり知縣以上の官到任して三日おあり

五日め小春詣を是を城隍齋宿より祭式の前日小禮房官川縣も六部を司る官吏を指す

舊例の儀注を中出三牲等の供物を極々祭文を伴うた是を五日め本官ニクワ

縣多しハ知縣知縣ハ知府也吉服辯振して禮房官執事人役を引領して城隍廟知縣ハ知府也

小至門口より馬轎より中至神前より至る禮房官供物をそまへ

酒を眞一燭成上より早して本官三跪九叩首の礼をわらふ以其地の

安全を祈願し祭文をよみおま焚化を祭文ハ讀祝官よみよま拜礼早執事人のうちあり

さて廟祝の宅へついで茶成飲志をく休息して帰館以廟祝ハ其地にて扶持をあて初

代く廟祝を伴ふ朝廷の官よりついでハ不扱の事也もつとも城隍神古来より其地ハ名賢等あり

所々近縣近府の神祇をらりて安並に惣じて府内の城隍を知

府小視へ絲内の城隍と知縣小視へ城隍をほりふ也城隍神といふ

知列知縣ハ生民を司る官をわらへ陽官と呼ぶ一城隍ハ陰府を

孤魂を司る官をわらへ陰官と呼ぶ三月清明の辰内并七月十五日朔日定式の祭

祀此祭日ハ城隍神を大橋小茶系ありせ郊外度より請り祀孤の為

兼く構わら廟壇廟壇多ハ不草其月の後屋を遷座せり本官を始り衙門の諸官

御曲の老老を引領して祭ふなり或は三牲魚肉野菜菓子類等數十種

使燭を点し本官拈香礼拝を次み諸官吏老老等拜する諸官吏ハ

帰館す其政諸人と兼詣礼拝は是を祀孤といハ陰間の孤魂の事也

祭ふ意あり祭終りて其日の申れ刻以廟へ歸り奉る廟にての祭を

到任齋宿朔望中秋冬至より外を中一中秋冬至より三牲供物を使

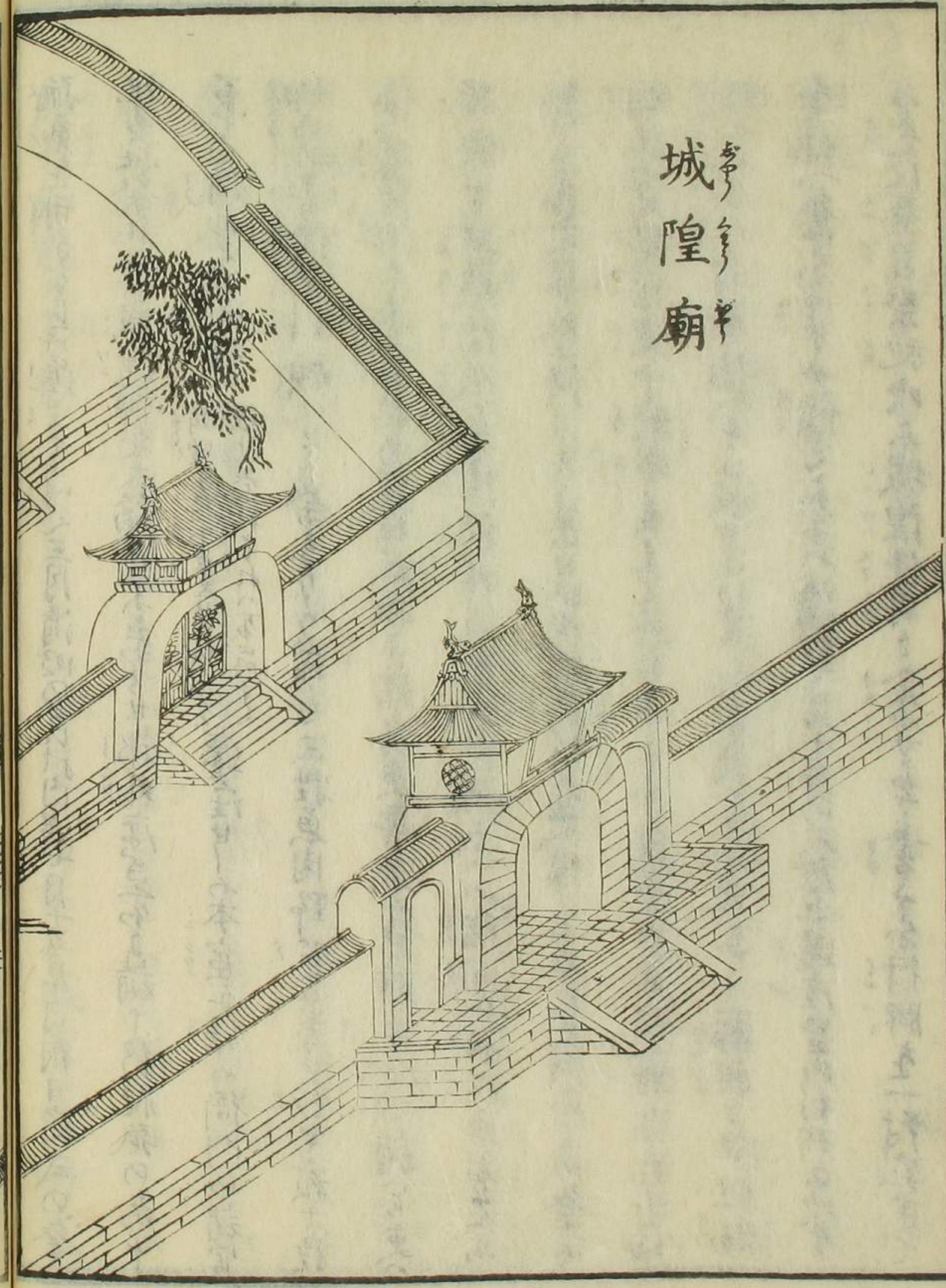
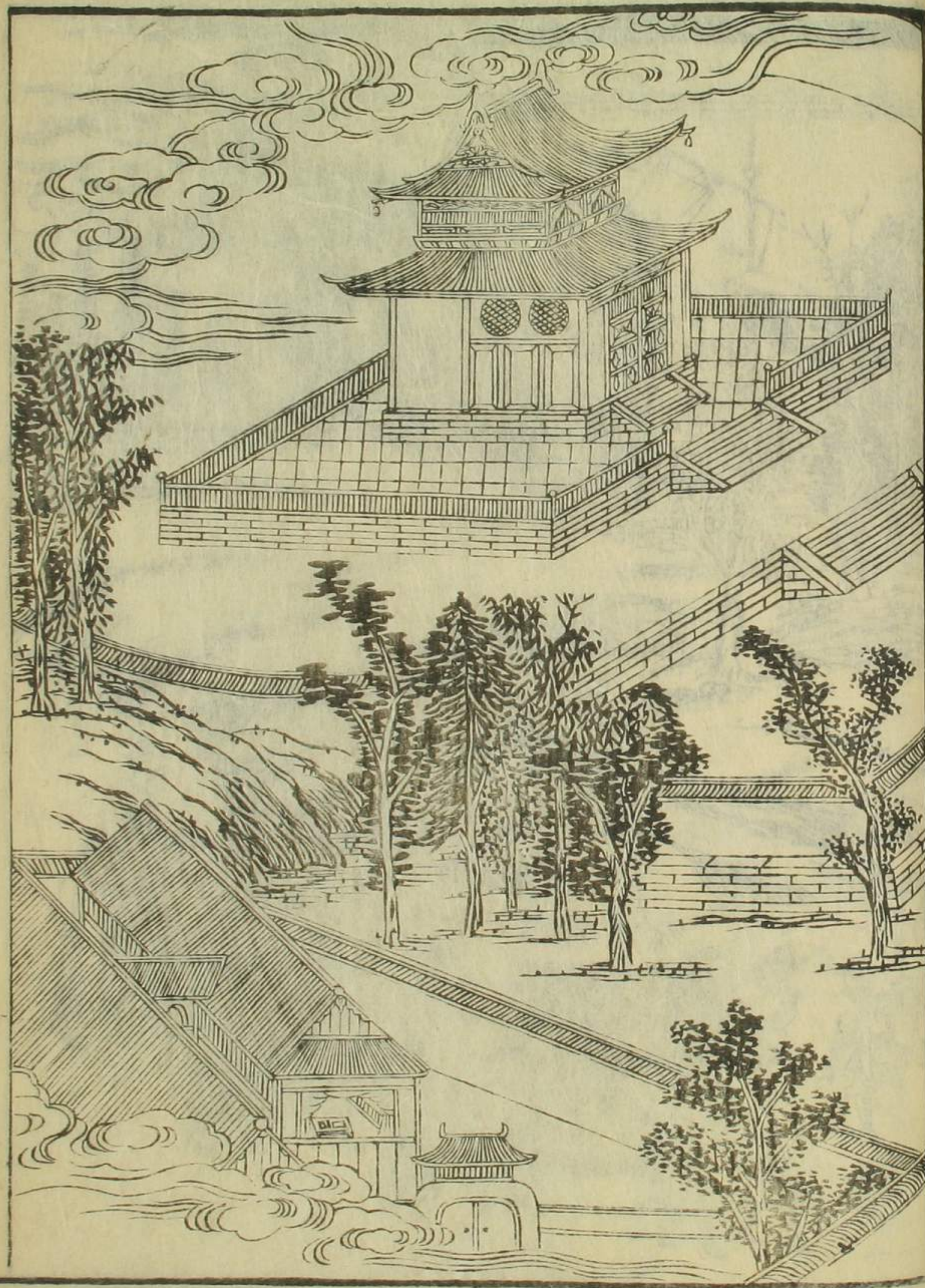
朔望より三牲を使此祭より官人兼詣を奉る廟祝より供物

を使祭ふ官小願ふ祭ハ清明七月十月の三祭也遷座の辰行列の儀

を先に奉旨祭祀次ハ城隍使司と金字をて書る行牌を一對宛建て

祭礼

九

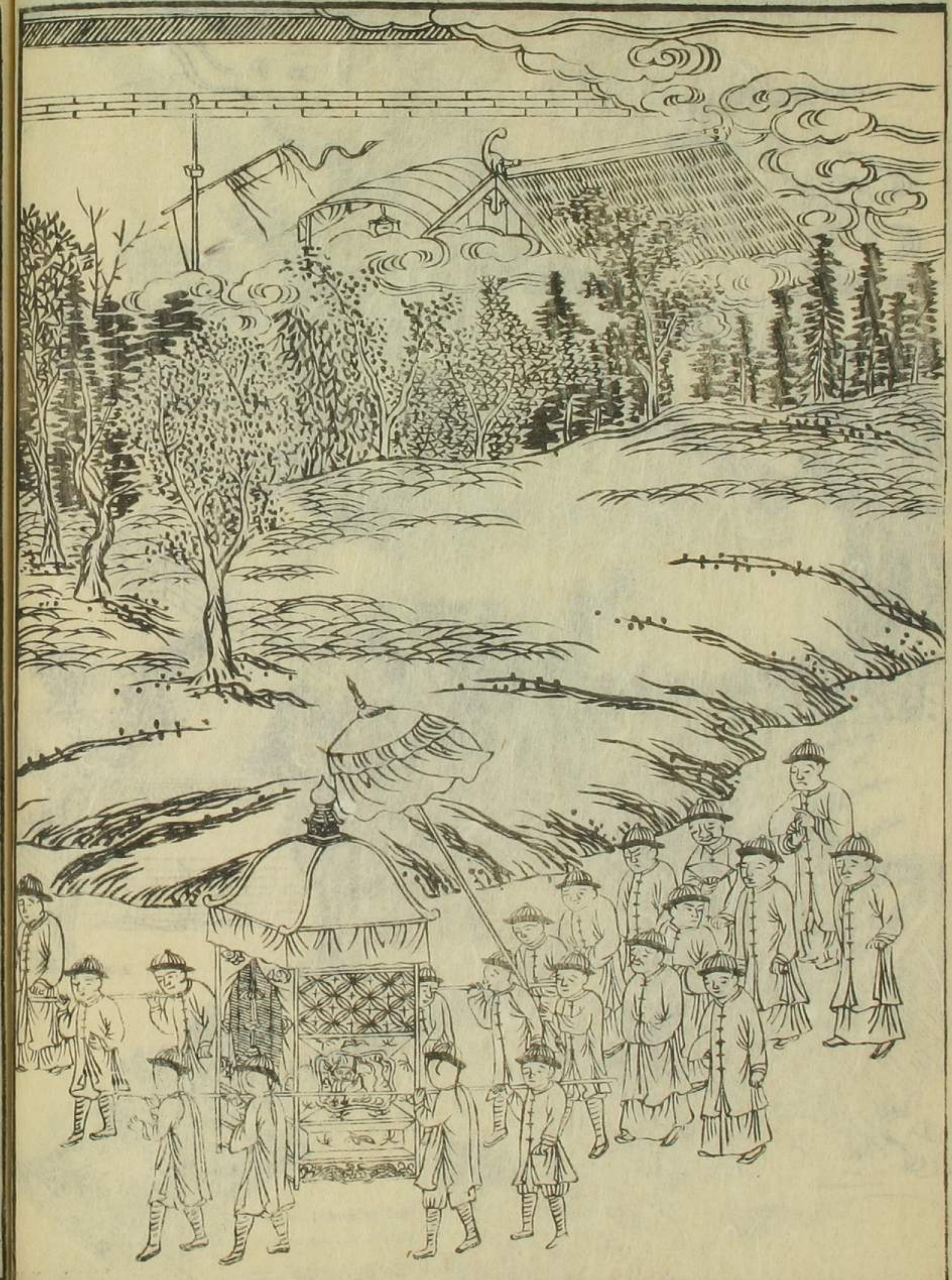


城隍廟

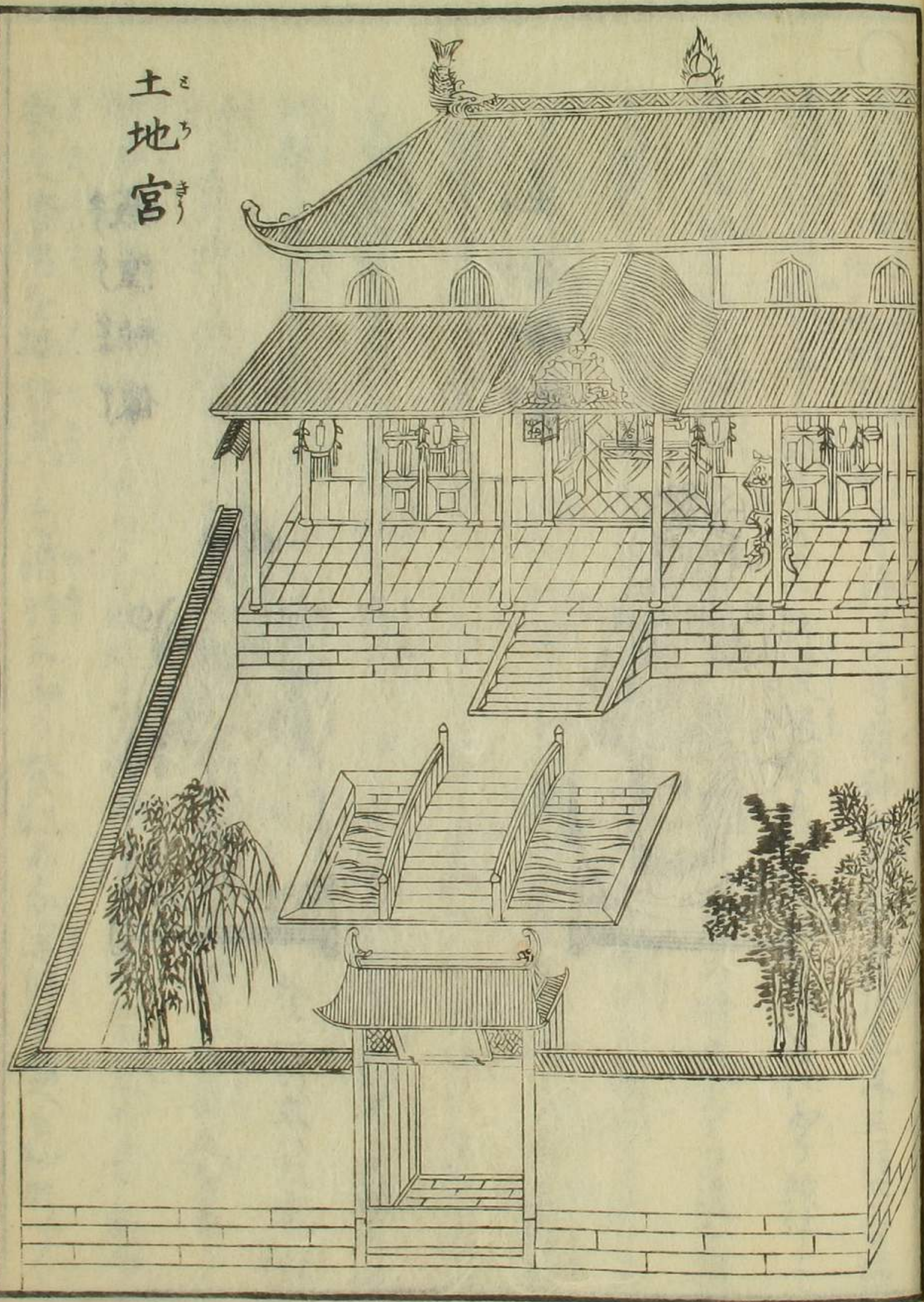
請城隍神郊祀

祭礼

上



土地宮



祭礼

土

執事旗鼓涼傘あり通すら音楽を奏し
 度ノ祭ニ紀スあリびニ廟ノ竹ノ年分の供物科香燭科ねひ祝官ノ俸米等
 其地ノ物成み立開銷す城隍ノ像ハ本あり刻ミ手足三同願運動ス花二
 指府列縣の官銜品級み随ひて衣冠を刷ひ並中み泥塑ノ像も之
 唯神之残立銘むり書ますち都て神像あり

○土地宮 土地宮と稱し土地の守神あり其郷里村落と之も土地神祠

多れをあり守たる自家地面の内中も土神祠を造作し安妥以廟宇土地
 の大小一らりとて不同あり二月二日聖誕生日らて祭祀す
 種々便香燭を忌日祠官奠酒礼拜し祭る諸人系諸男女群在守朝廷の

の致祭し遊ぶ故官亦止るまる祠官俸米等の度も以祭祀香燭等凡
 科ハ諸人喜洽して祭る一年分の供料祠官の過活等不足あり

祭礼

城隍神像



土公神像



○天后聖母

一云天后は又娘を以て
佐小媽姐娘々といふ

專海上の守護神也宋朝建隆元年三月廿二日福

建興化府湄洲あり誕生あり父と林氏宋初み仕て刺史の官にあり致仕して

後天后誕生あり后幼少より智慧賢徳人み起十六歳の時道士より道を授

け修行し二十八歳の年九月重陽白晝に神と化し湄洲の高山より昇天

して世々神靈感應著し信仰祈誓するに應せざるまじり代々の帝王封賜

の勅あり康熙廿三年みありて天后封賜春秋祭祀免許の上あり湄洲

と聖誕の地ありと大み廟祠を造営し神を安んじ其外京師并み諸省付

別縣亦み廟あり廟門前に下馬牌を建下馬牌ハ朝廷より
賜附ありて建ふ祭祀の式ハ大牢羊豕

承を承を其外種々供物を供へ玉帛香燭を奠し祭る其地の官員之を兼り

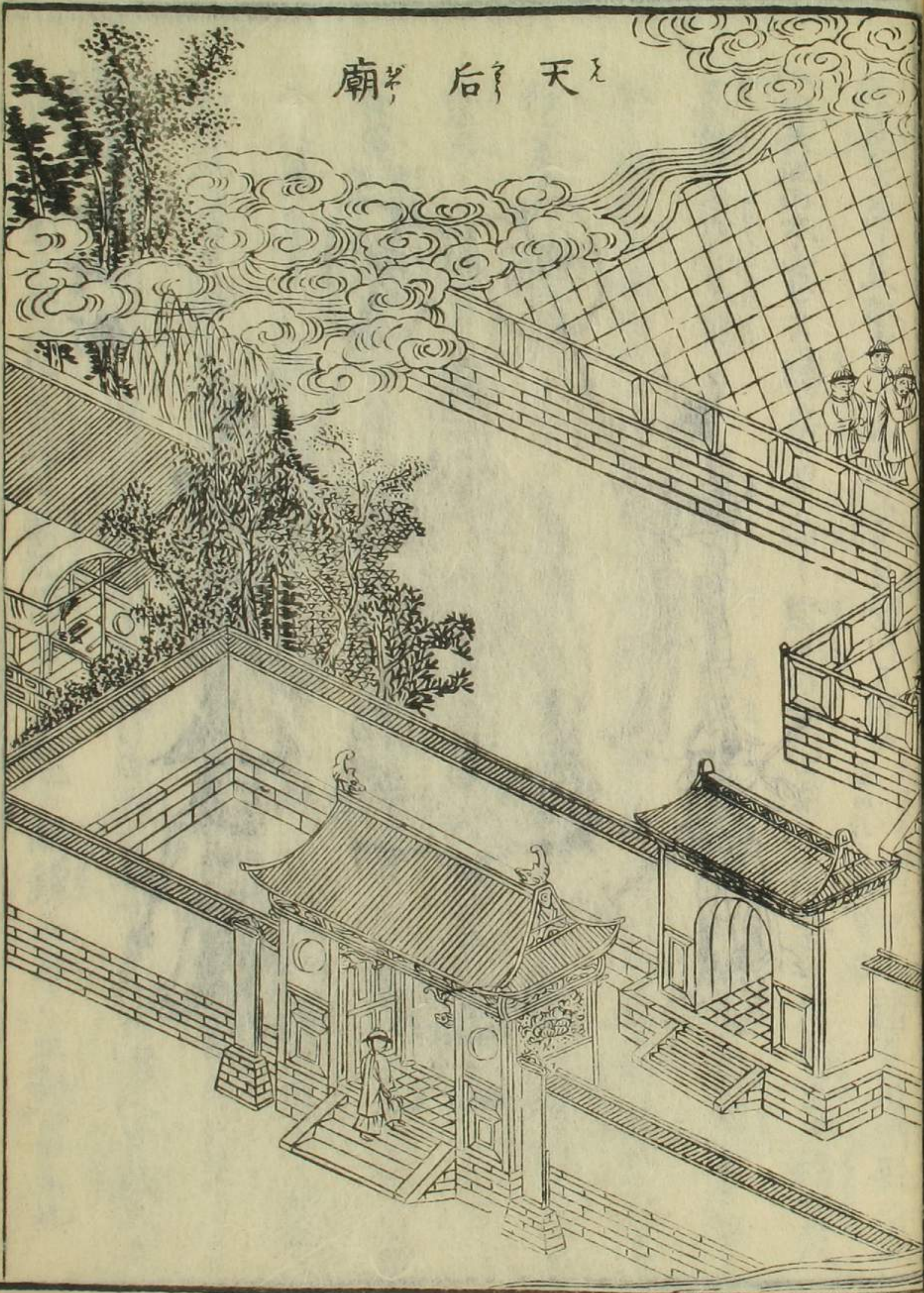
執事人員を支配して司り朝廷を禮部官の内兼祭宦より勅命

祭文香帛を捧欽恙して湄洲みあり祭祀ある京師の廟も亦あり

祭礼

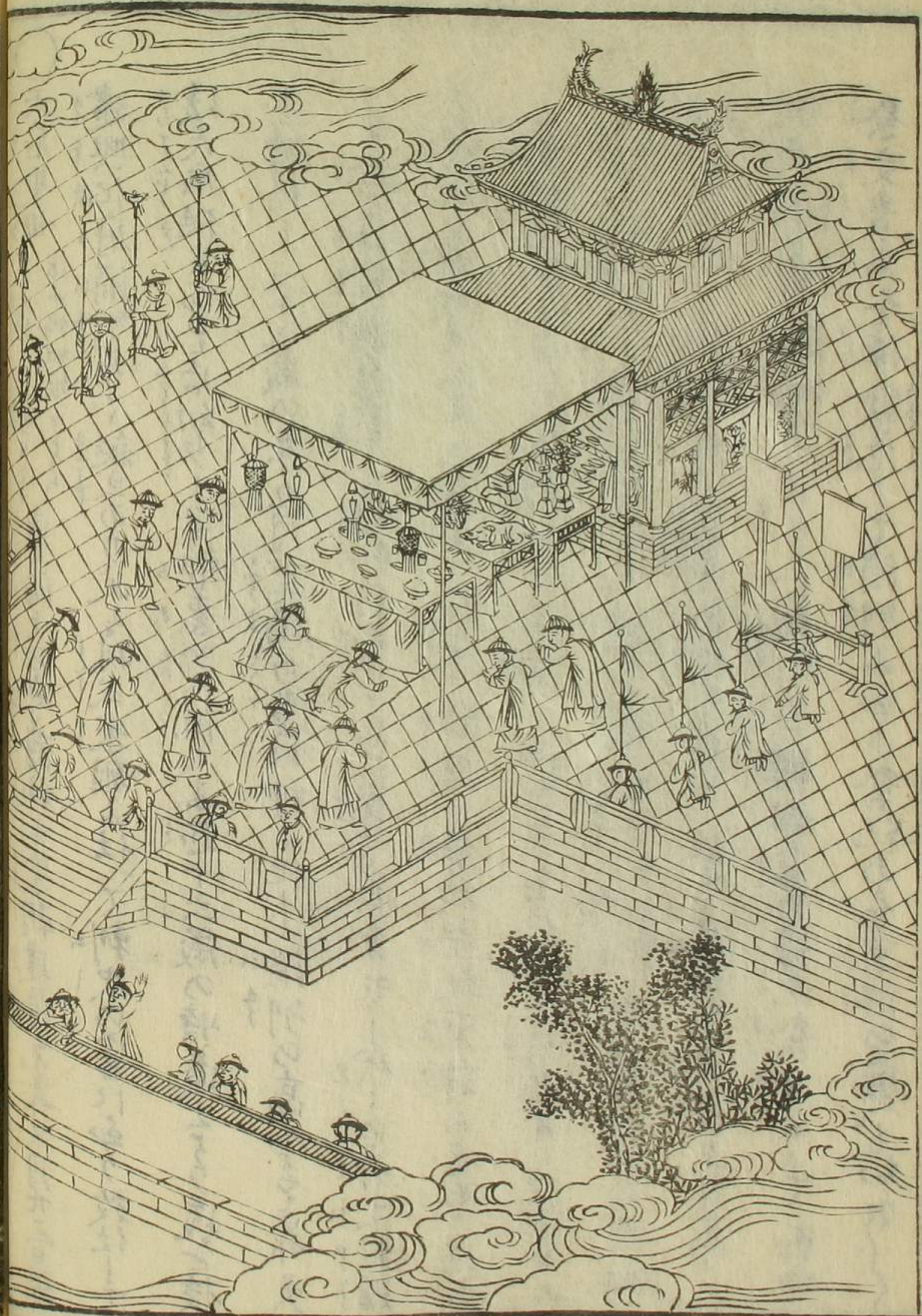
三

天 后 廟



祭 禮

西



天后聖母像



欽差を立ち上り祭らしめ天子も氣深きは

天子を始三跪九叩
首の礼をすむ

諸省州縣の廟

（其地の本官より禮房官命一祭祀の事を司りし祭日の本官并諸官人

系籍出官人系籍早く諸人男女並稱群集也本府別縣亦大宰をりし

祭の神前の供物數十種香花燭餅明也祭日の三月廿二日翌日祭祀春

秋二季の二月八月の上亥日を用也兼祭官等系籍の次第の祭日諸執事人員

齋戒して高日早辰沐浴吉服して廟前の廟祝燭を点し香を拵し早きて

長官諸官の
頭をいふ少中其餘諸官執事列班す正席
あり贊禮官亦方々三跪九叩首起坐の式を唱

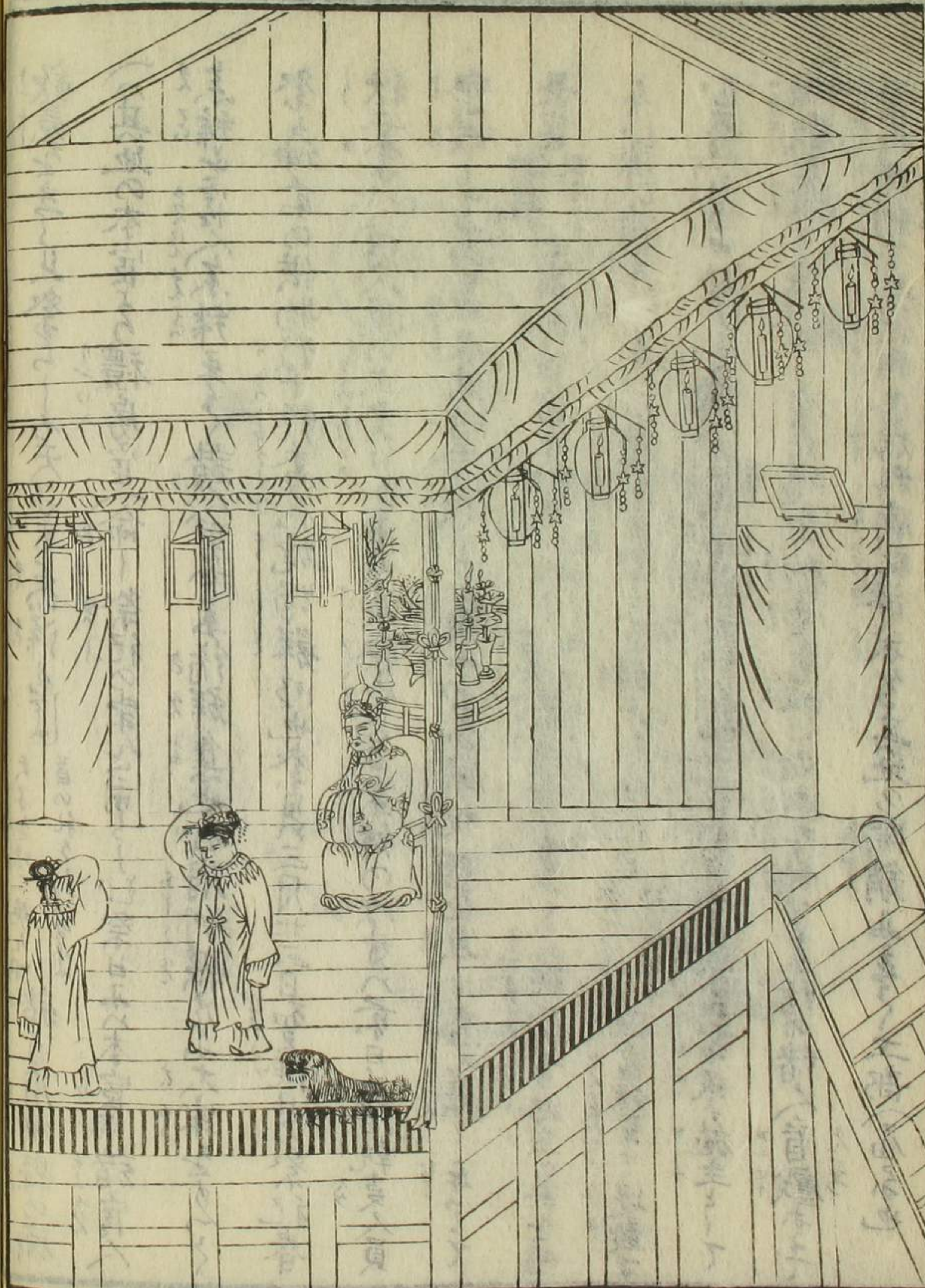
ふに値ひ諸官礼を以て讀祝官祭文を讀早く極化す祭文の時
値ひぬ也諸官群集して退散す

を其地の保甲命して諸人の口角争闘を禁む祭日の其家室に民を施主として

做戲を催し廟門外の廣に場を設け做戲を献す系籍の諸人看戲もして

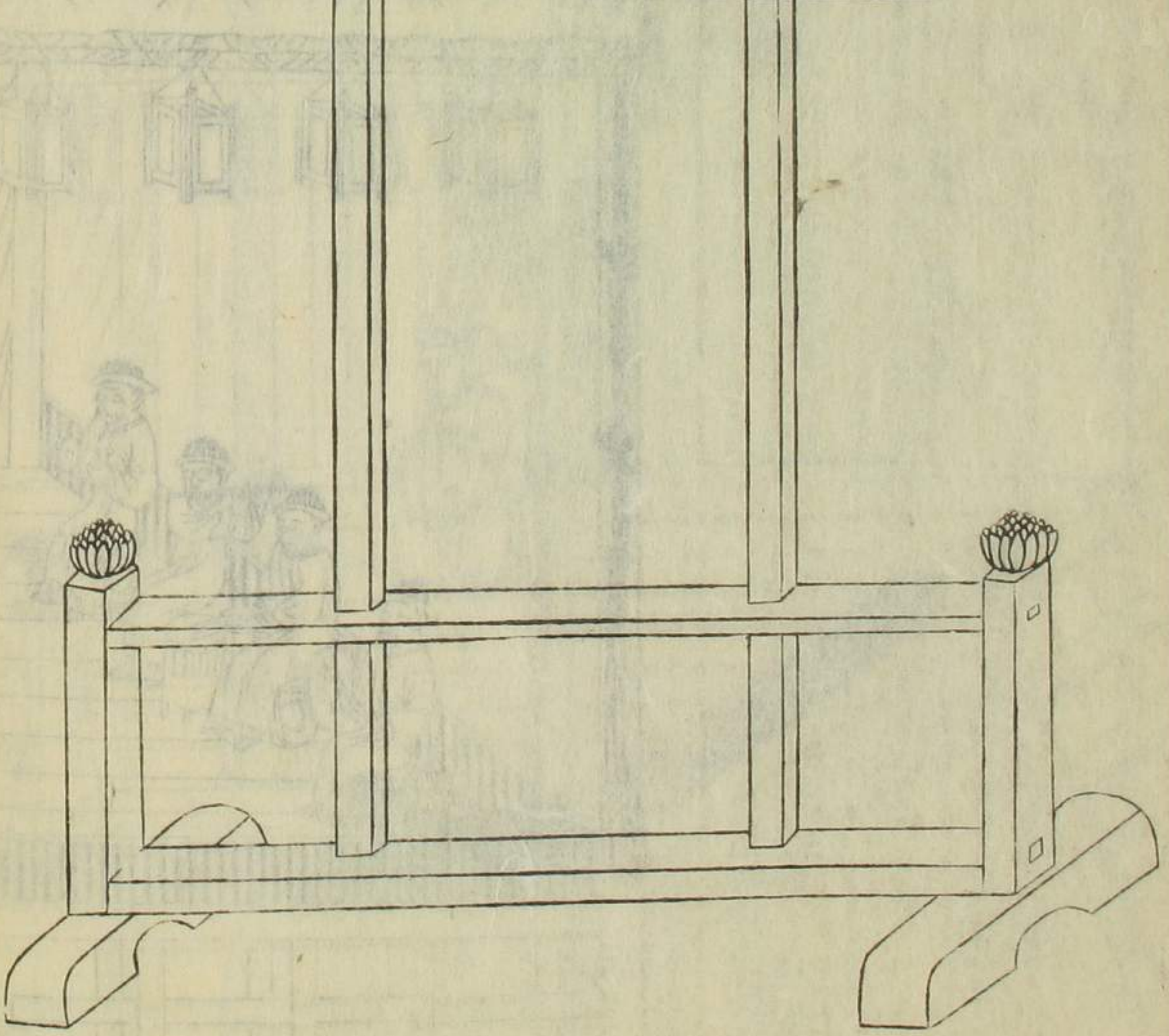
昼夜開動す祭祀科香燭科廟祝俸米等其地の開銷みましく工部（由來也

戲臺



天后聖母

奉 春秋祭祀 旨



○關帝（關聖帝君）武運のち獲神として威感感靈著し一軍事を以て祈誓して

愈せらるるは武臣の勿論也外官民信仰す故他の神も起諸省府州縣に廟を建安

並す武廟と唱（御里村）唐の唐（と）天子作せしは雍正年中に崖湾の賊徒起りて

靈驗ありて速に平靖せし故靈佑大帝と加封す春秋祭祀免許也廟門外下馬牌を

大軍を以て祭ふ祭日五月十二日歸天（薨去）の日を定祭日とす春秋二祭二月八月上戊

日を用官祭奉て諸人進詣す男女を極せしを做戯を献すも祭式祭科も八開

銷の奉（天后廟）同（テ）○天后廟関廟にみ靈載と云物も（一）籙（シ）子（シ）本或ハ竹を以て札

を以て凡百枚ある百と番を以て箱に入て收す人先を振出して吉凶禍福を以て

別み其番を以て所れ吉凶禍福を示したる神託を詩句に綴りて書記したる板

を先を籙訣牌といふ籙を振出し番を認り籙訣牌の番を以て一行も此

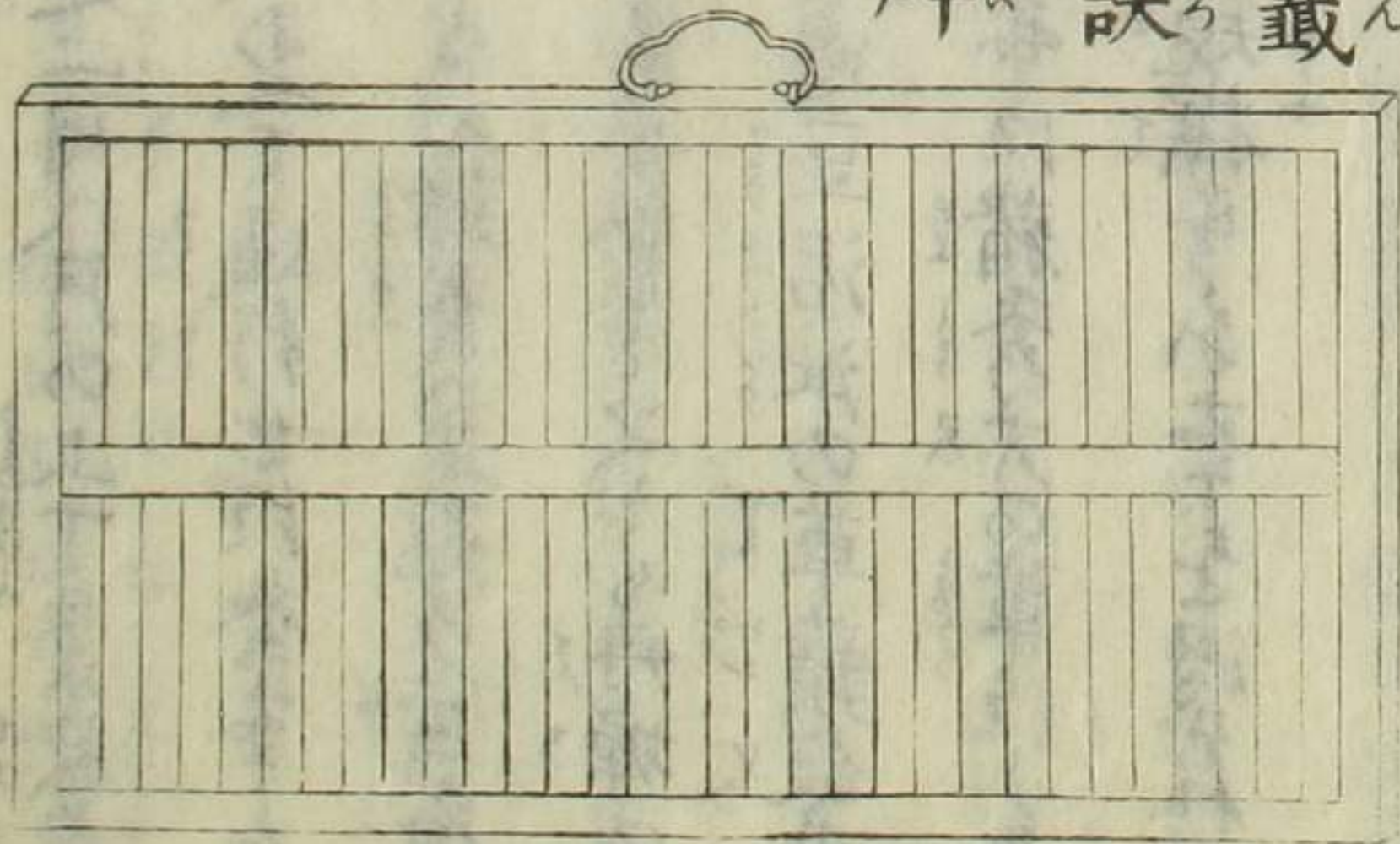
へ入りて吉凶禍福の意を知らるる也

關聖帝像

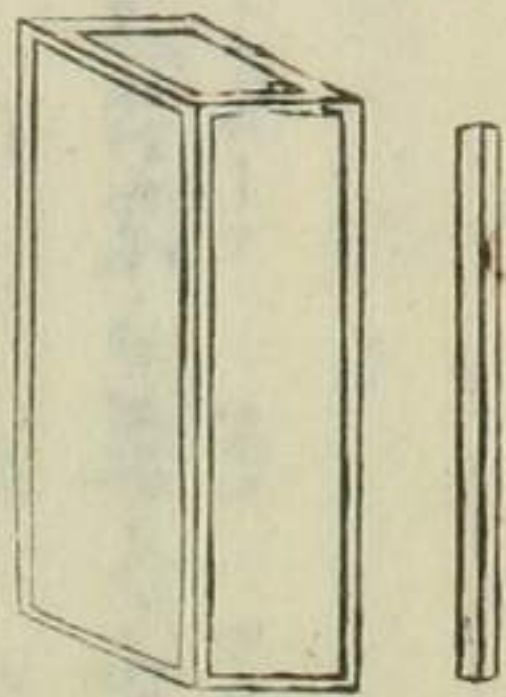


祭礼

籤訣牌

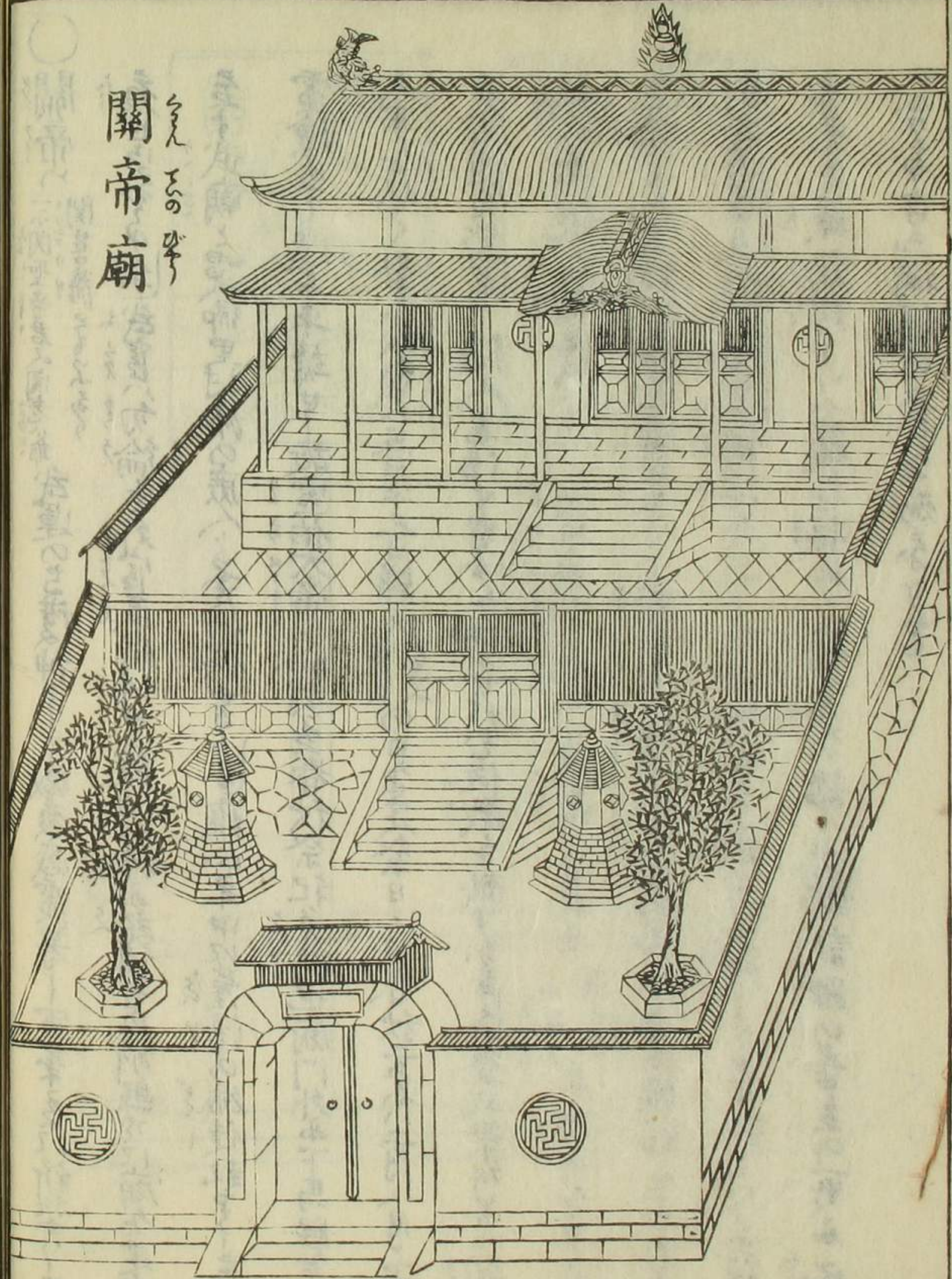


靈籤



六

關帝廟



黃谷路關帝廟卷之十二

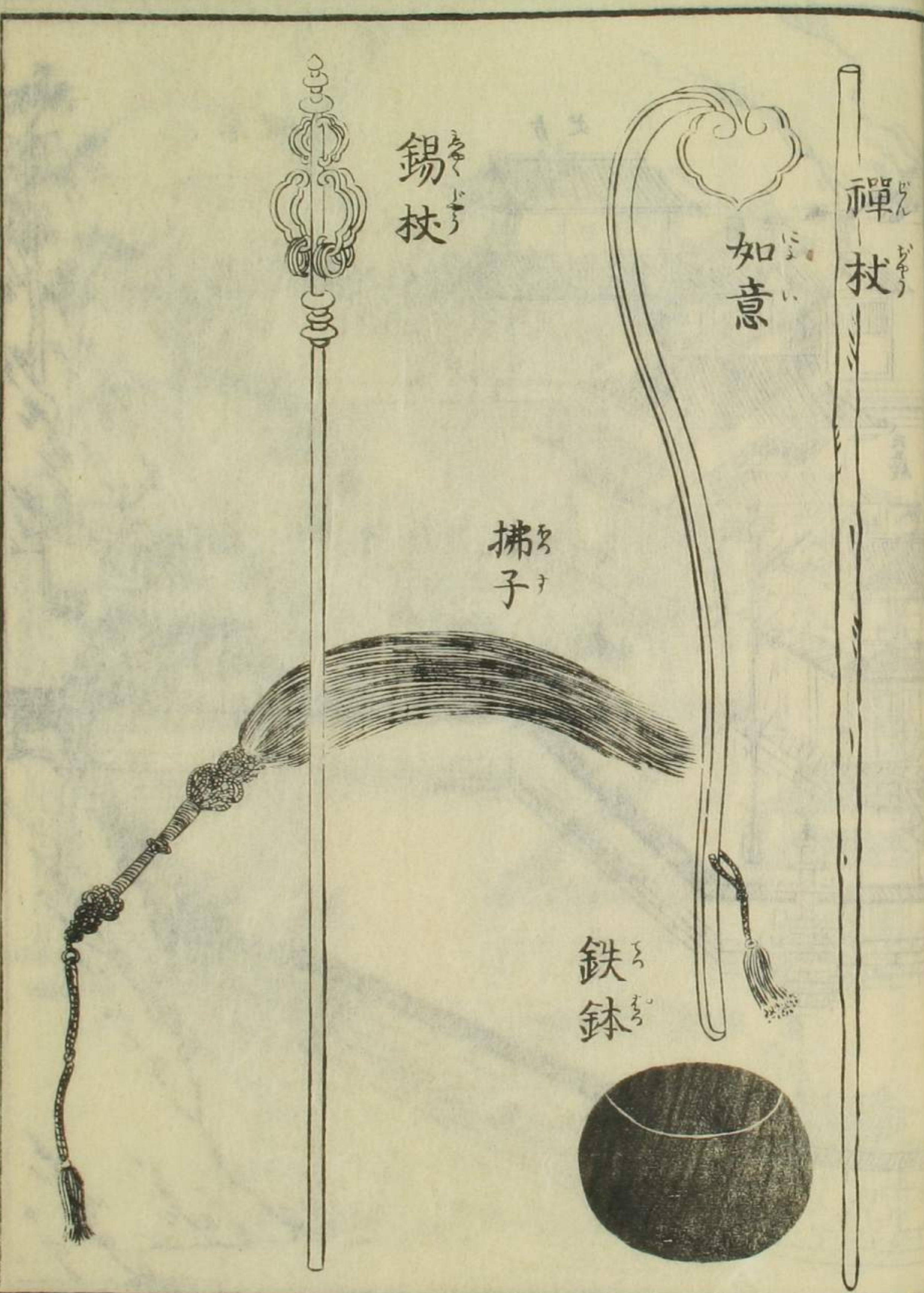
や去記して去金銀り奉山末寺等の制なく大寺あふ所の地名山号に付るが
寺成寺寺と以碑之ハ普陀山觀音寺ハ奉山ゆ其山中ハあふ所の寺ハ末寺也
一山の諸尊と其奉寺ハ預るふらあり大寺ハ住持の外首座都寺監寺典座知
客副寺等ハ重之ハ役僧ありを老僧ありハ世事を請く又ハ病者等
めく勤めがた僧ハ銀子成納免勤免免之
過ふもあつ首座都寺以下ハ役僧ハ寺法ゆく付る名目ありハ寺内ハ
の品級あり此方ハ僧正檀林あつふむとハ官位且紅衣紫衣觸頭獨攬此
格式とてもれハ随従ハ官人のまじり奉事ハ車轎形ハ格式めく奉事
あく多くと歩ゆハ老僧あつひとハ病者ハ遠行ハの昂ハ轎ハあつ奉事あり
歩行の時ハ侍者一人の外僕を連ふ奉事も稀あり寺中役僧ハ時ハ習代
まハ勤之ハ見多任持とて若圖して昇降成る且僧隨身の品ハ如意拂

子禪杖鉄鉢に於ける僧の奴僕とてかか奉事あり
寺院の構堂々大門二の門天王殿奉堂禪堂開山堂鐘樓鼓樓齋堂
浴室方丈客殿役寮厨下等あり都ハ一堂宛別楹ハ建む役寮齋堂浴
室等ハ一楹の内めく仕切取あり且梁間等ハ定もれハ大門外ハ不許堂
酒入山門と記しハ石牌を立並奉定法あり大門めハ何ハ禪寺とハ
額成奉奉堂ゆハ大雄寶殿と書るハ額成奉其外殊額等ハ文字あり
定法ハ一勅額給賜の寺ハ二の門或ハ奉堂の内ハ打並六門ハ勅額を奉
奉事ハ止ハ下馬牌等ハ奉事ハ大門左右ハ金剛二の門左右前後ハ四天
王正面向彌勒菩薩正面の後ハ韋駄天尊を安置奉奉堂の奉事ハ釋迦
兩側ハ羅漢を安置奉奉事ハ前ハ皇帝萬歲萬歲と書るハ牌を
立並是を龍牌と云此龍牌ハ寺院毎ハ奉奉定法ありハ序ハ由也

僧徒

あり別み朝廷より免許し不事ありては寺法ありては依て
 龍牌の供料とて朝廷より寄附給賜等此事あり
 天子皇后より龍牌（上使等）奉指の事あり天子位牌紳主等三
 並みありて其所の官人年頭みす寺院へ奉詣り此龍牌を拜て
 自ら朝廷へ拜賀すか意あり

天下の寺院を統領するは禮部の官なり諸筋等其末に知縣あり
 彼に知縣より寺院へ遣はし僧侶の諸願するに破戒不戒法の僧尼方等此事知
 縣に申し出れば知縣より裁判し輕重の事あり知縣切ありて執行し其重なる事ありては上
 司より達し禮部（伺ひの上）取しおたり多く一山限り寺法の通執行不脱衣の控
 わかりし形止しも詳め奉事能らば度牒を寺院の任持と知縣へ願出せば
 聞知れ上並に知縣衙門にわたりて渡さるる事あり五枚十枚宛頭請を剃度の



錫杖

如意

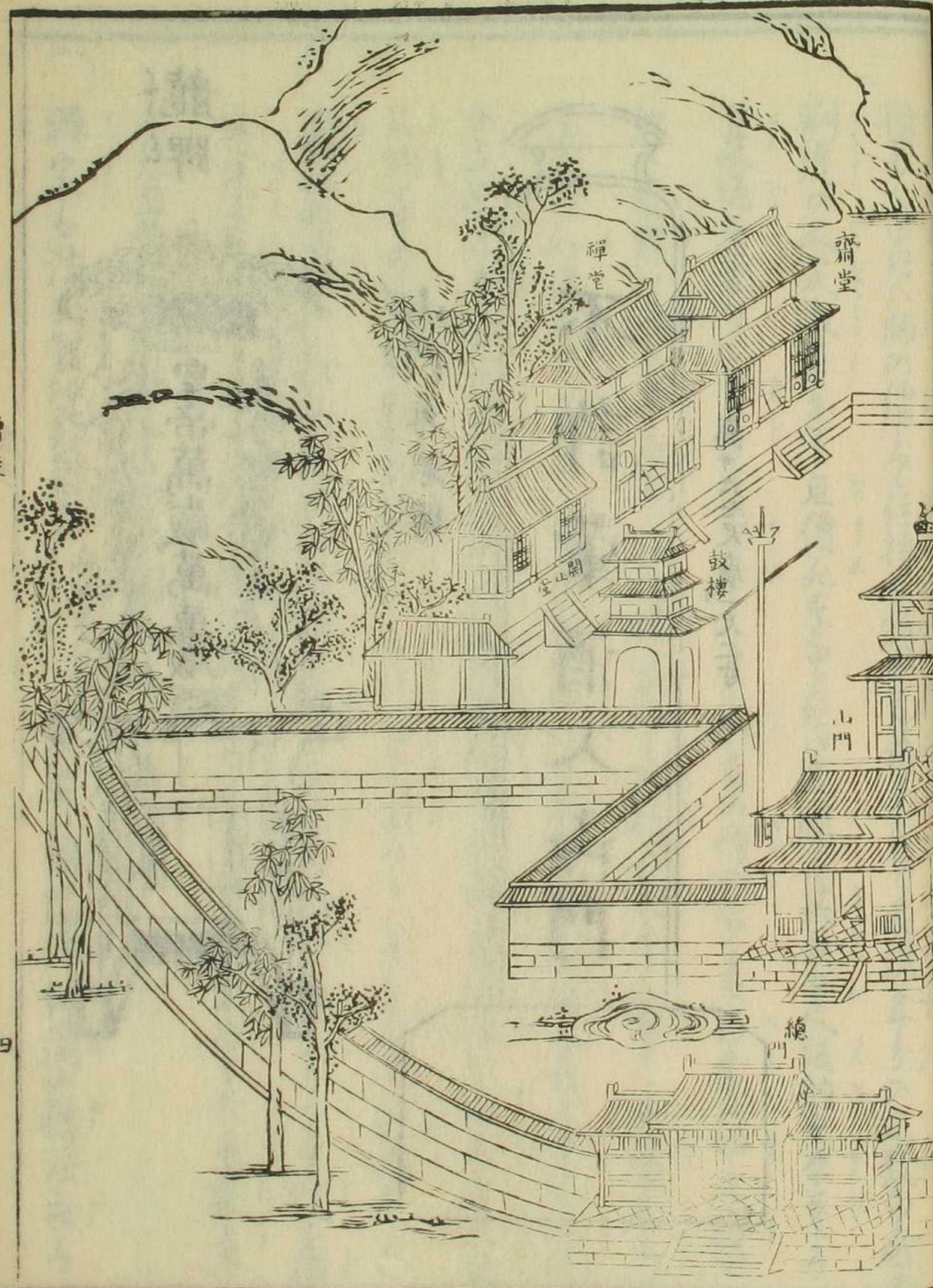
拂子

鉄鉢

禪杖

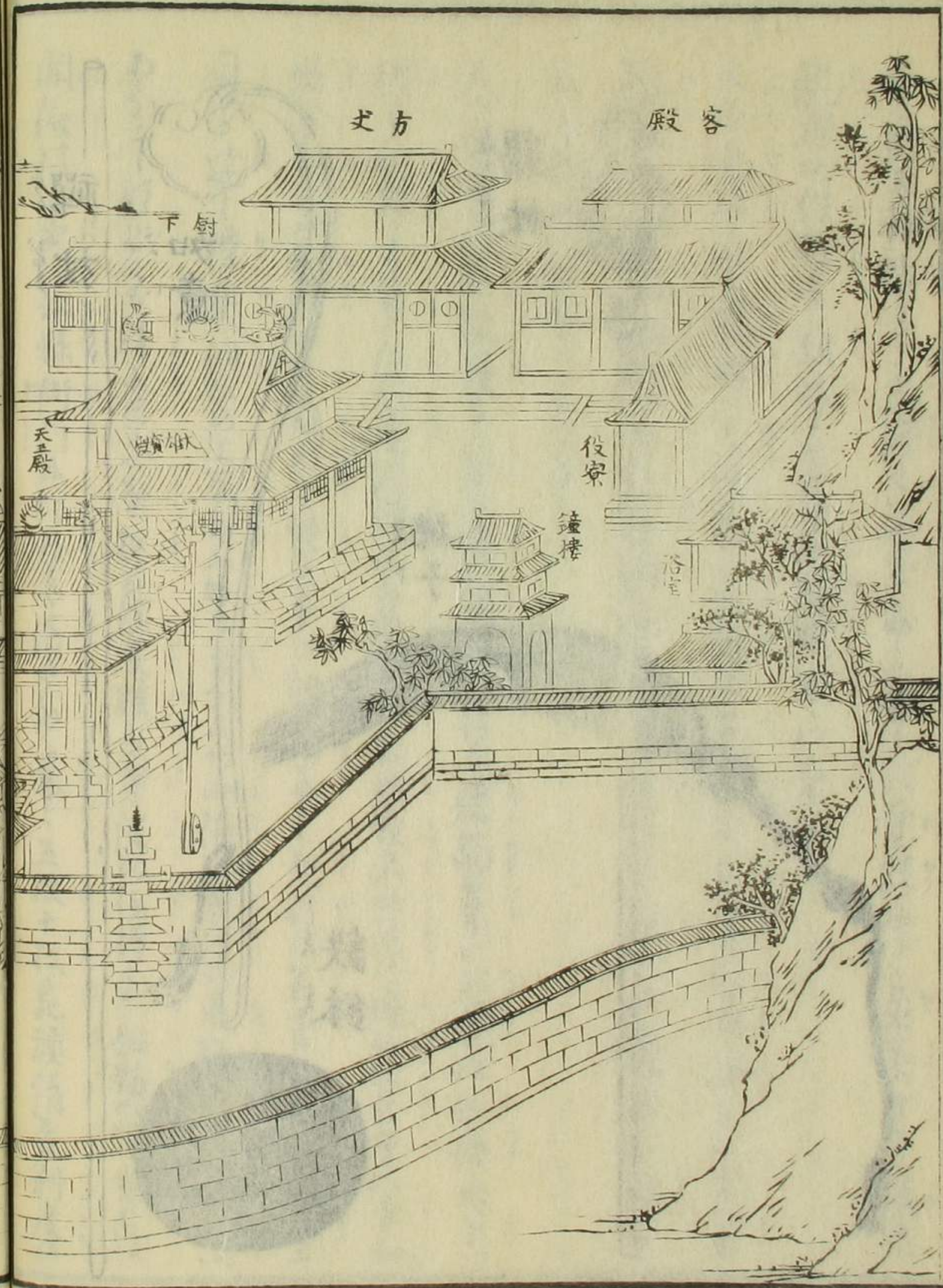
僧徒

三



僧徒

四



方丈

客殿

下厨

天正殿

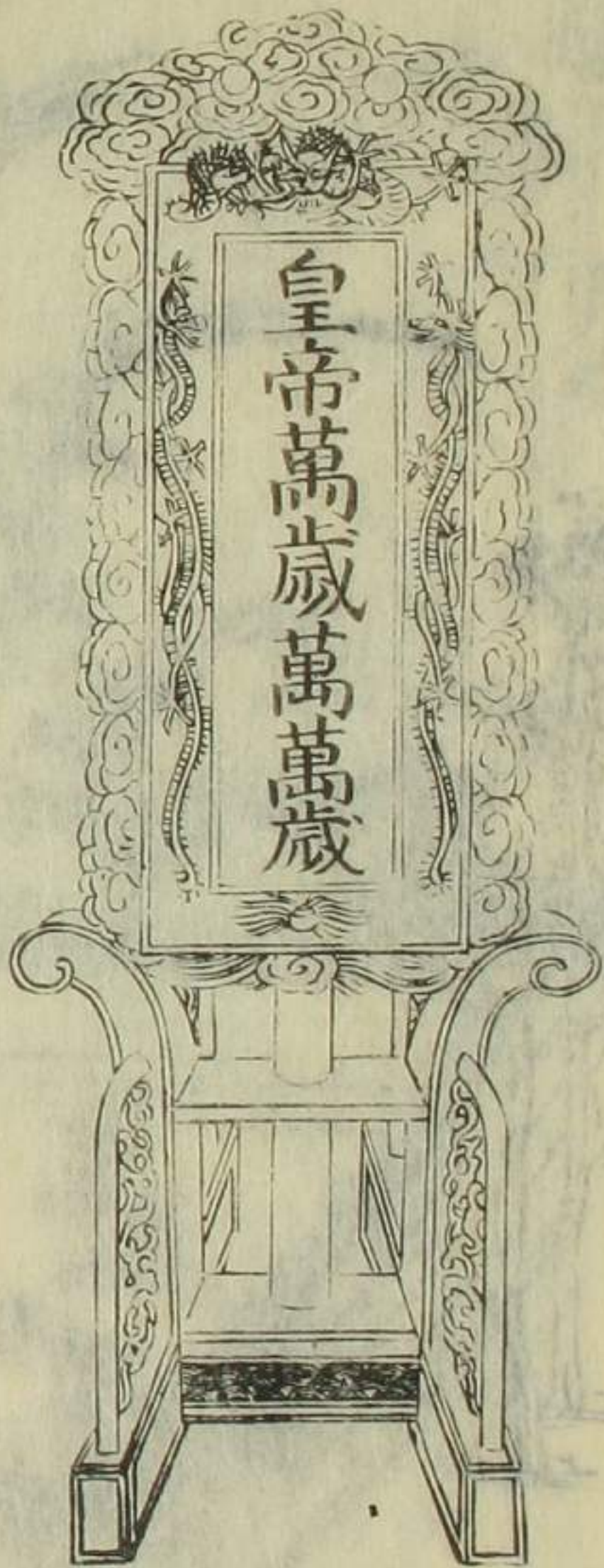
役寮

鐘樓

山門

橫門

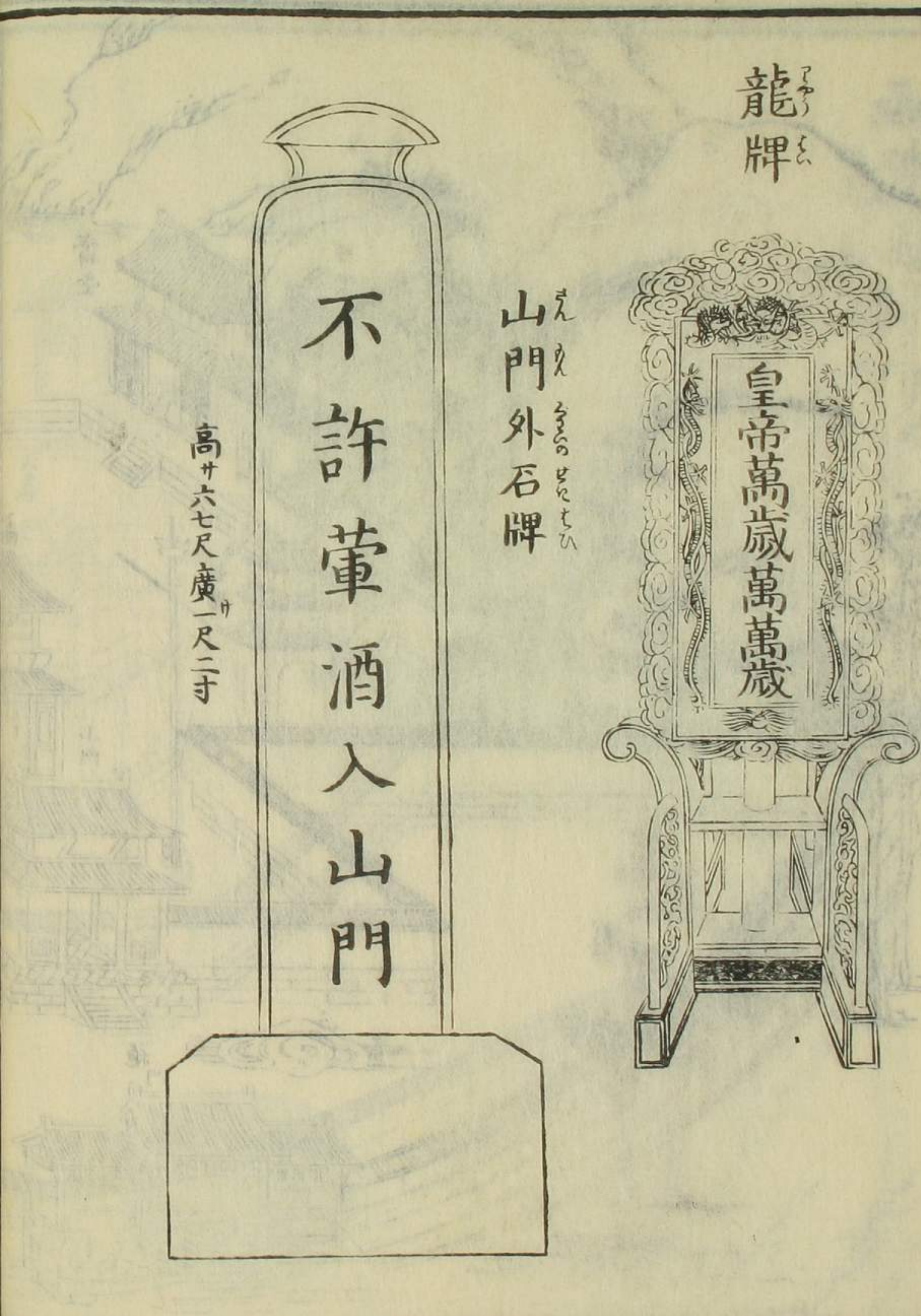
龍牌



山門外石牌

不許葷酒入山門

高廿六尺廣一尺二寸



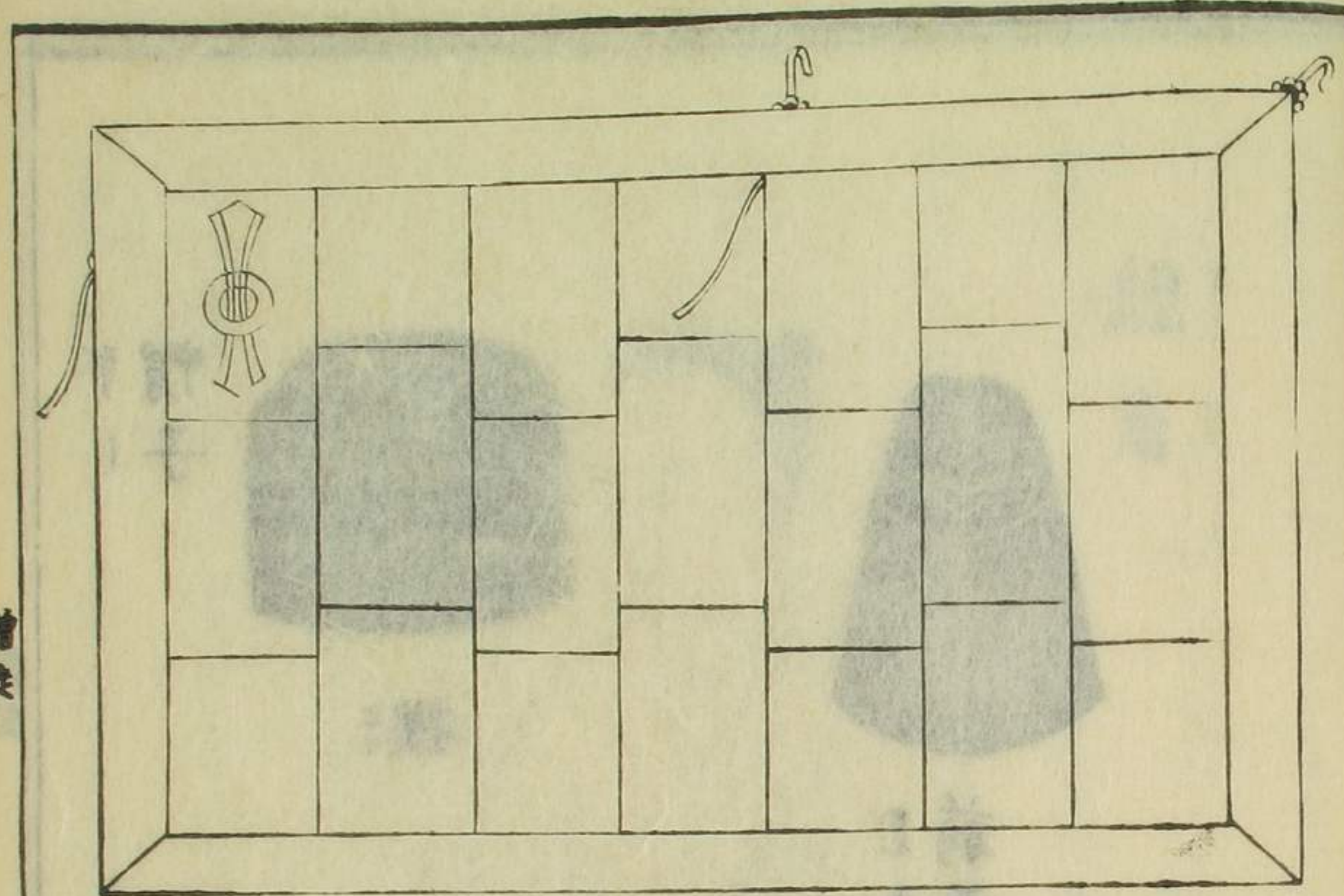
僧あふと師の僧を任持し頭出と請ふるに度牒年分の定数ありて
 剃度の人定数等あり且僧死を中へり度牒を其寺寺へ返納し寺寺より
 度返を事なく寺寺に届せしむる剃度の僧あふと名を成切之流す
 然り度牒式を官府ありて僧家の之取扱ふ支めく兼く見及ふ事
 ありふと事ありて ○僧家の田比を都て僧に支配ありても民は絲
 の支配し寺院の田園を民間へ貸耕化せしめ年貢を収むる年貢未進
 不納等ありて各縣へ願出裁判ありて某園ありて人夫を雇ひ行化せしむ
 新法邪教ありて各寺中へ兵器及物を在りて其寺に割據ありて寺院を標
 本建てる事ありてあるは寺院の数を定む書留ありてありたる建てるの
 事ありて其地の知縣ありて其地國海の之造営あり
 ○禪宗に法衣加衣沙衣を著し 此方のクワと 袈裟の錦縹綿紗綾の類法衣を

僧徒

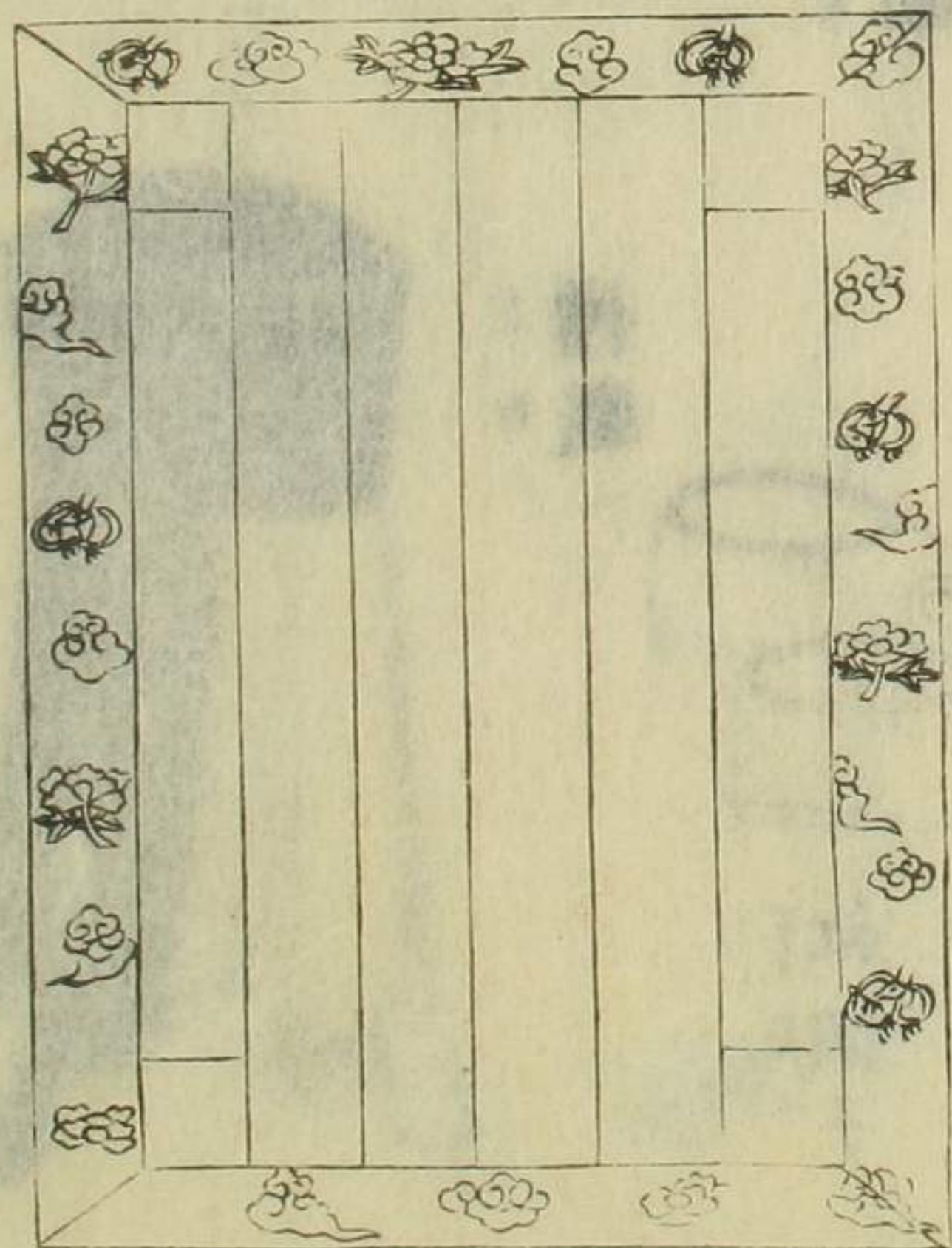
緞子縮綿等子く仕ふちり法衣の制住持ハ黄色を用ひ長老以上は色
衣成用ゆ各等かへ平僧と素衣あり右色衣み定りたる制あり服と棉扱を
袖短ハ明朝の衣服のぶく絹地の衣服と制扱あり大寺ハ住持も有る事
を得ぬ帽子ハ法或みあつてふ表をさかむてハ用ひて寒中も有る者す
おもあつて鞋と僧鞋とを別みあつて

○在家の子を僧とあすまハ度人み得ぬ士大夫以上も父母の大病あつて
よそ子供成僧とあすまハ祈執あり或る母子の好む所早く親み放止或る
家貧くして子供多く老ら短命ありて月さふらむ僧とわすあつて
とも惣領る僧とわす事成得ぬ二男以下あらまが年寄を以て某寺み頼
入し住持とて見ゆひと父子の僧へ引受て師の子孫み傳ふ利發せまふ
此ら後ハ法住も惣領る或る後角等ゆく留ふ事あり先選僧堂とて

初め生一五成習り世回書五経成教念經熟讀せ十五六歳み至る能く習ひた
る時判度そ若共肉試て菜向み許さく又出家成好き者ハ親と返
す事もあり能習ひ得る者ハ判發の言成定し住持を塔寺中の僧徒らハ
本堂の佛堂へ出排班し式の如く誦經等省て右の新僧と成へき者後連なる佛
弟みありて頭髪を剃髪を剃りて髪は細か分格ホ云師の僧法名成書佛堂へ住して
其法名成度牒み書入新僧と成へ法衣加染衣ホを着せりて世尊佛を拜
せり此師の僧成拜を師の僧時唱言成授け五戒三帰等の清規を教世後
大衆を拜謁して佛成退き選佛場へ入師の僧住持ありされ共日師の僧と今
日何某後判度すべき住住持へ入規式の通執行ありと返言あり一山の僧へ通達あり
て式の如く執行ハ右規式手止ハ一山の僧徒寺内みわたり祝儀の御食應等あり親
よそ加染衣成る瑞物業麩粉の物身み懸り師の僧みわたり選佛場あり



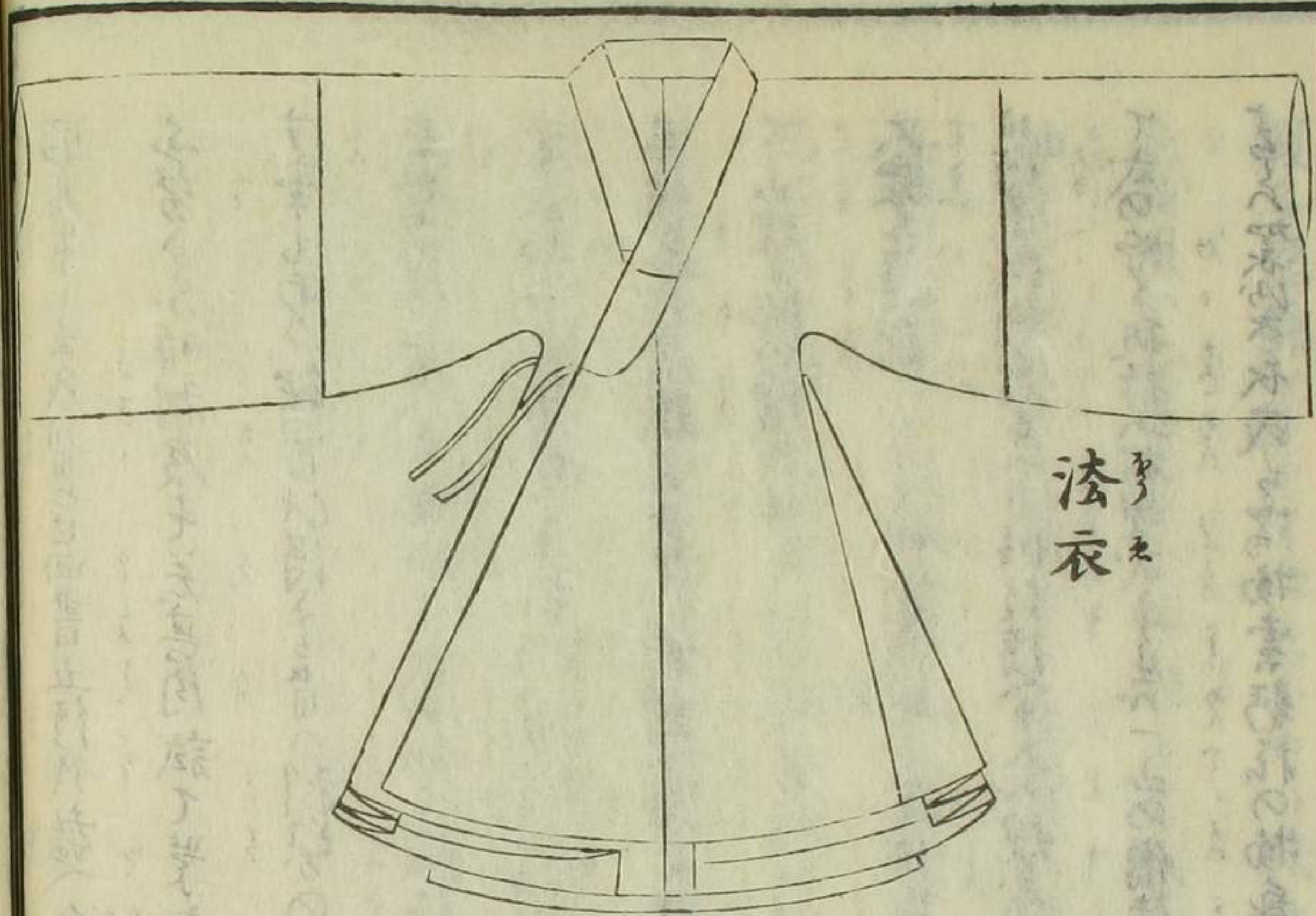
僧徒



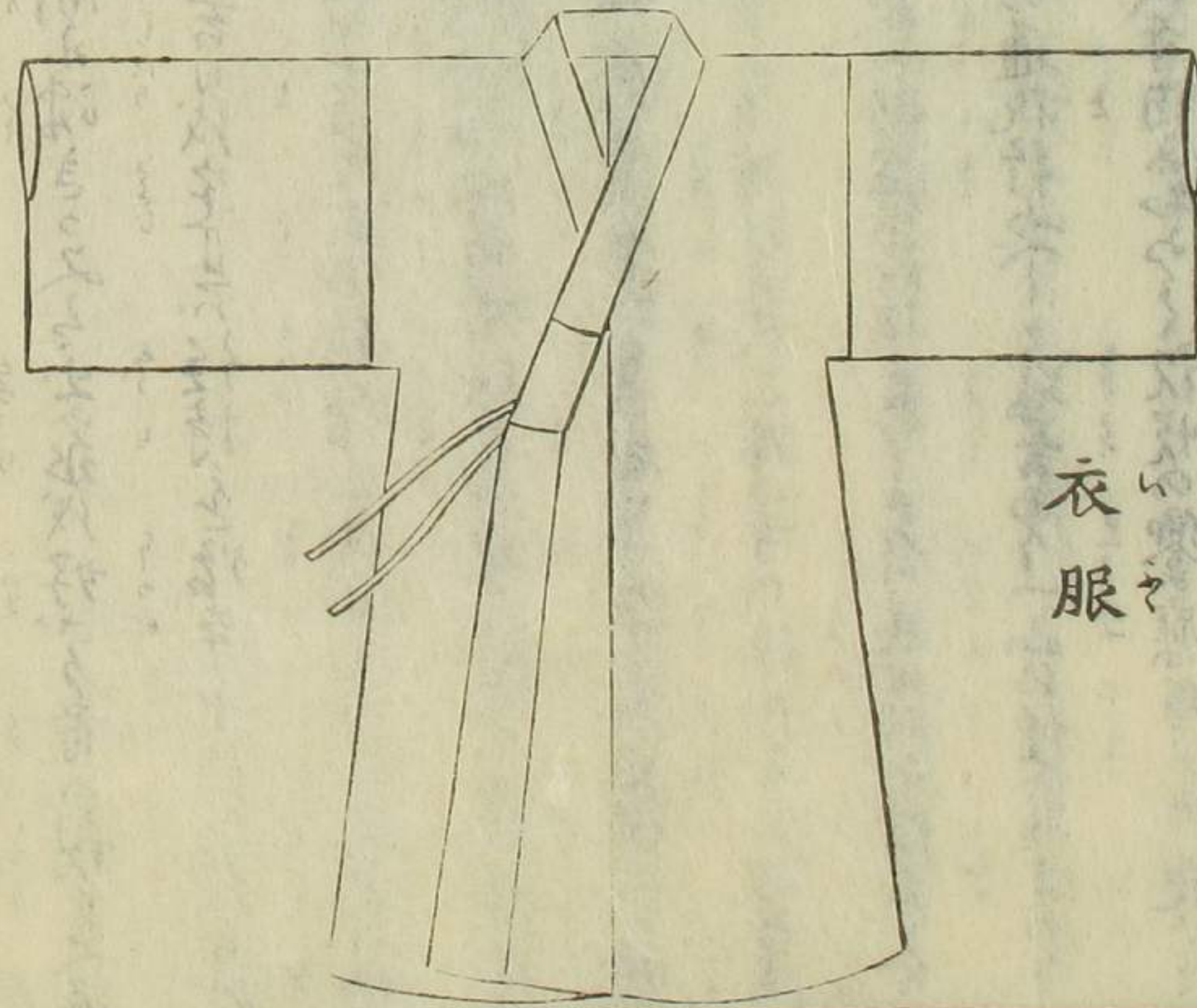
袈裟

座具

七



法衣



衣服



總角くわかく

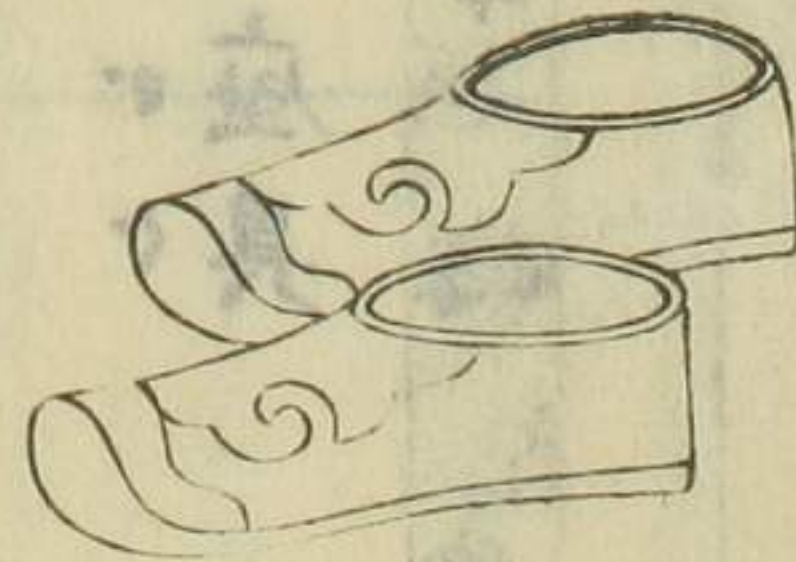


前面ぜんめん



横よこ

帽子ぼうし



白しろ 緑ろく

紅べに 緞じゆん 子こ

僧鞋そうげ



誌公巾しこうきん

小沙彌



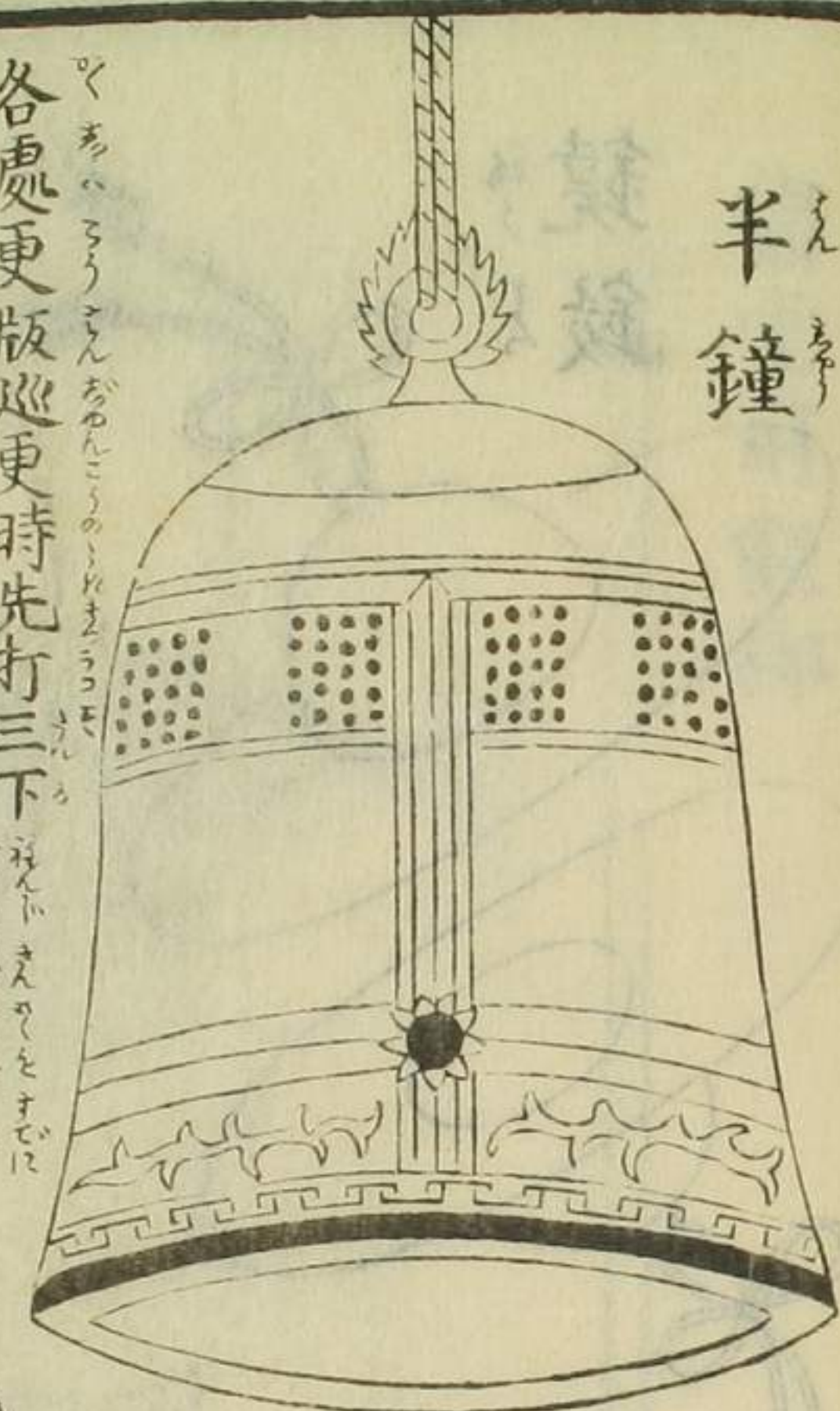
蘇魚

座禪間念佛誦經等の勤學を多しし年若の内々小沙彌小僧と云ふ呼小僧と云ふ諸事諸事み
 うけかふ○日々勤め々巡照とふ役僧とて夜不妝を勤め夜中木魚を敲き
 無常迅速一心念佛南無阿彌陀佛と唱寺中夜巡り一更と母み本堂ありびみ
 禪堂み掛たふ更版とふ板を叩き此板み書りふ文を寫りみ讀諸事み觸り
 五更の更版を叩けば司鐘司鼓とて役僧鐘樓鼓樓み登り鐘を撞大鼓を亦
 其内み殿司後僧の各佛之燈明を點し香花を供打掃潔淨を年止はる後半鐘と
 亦半鐘を聞く首座以下寺中の僧徒らば本堂み集り誦經始ふ大衆の内より
 一人大木魚一人銅磬を鳴く年若僧とて小磬小鏡鼓を鼓成鳴く誦經の内
 住持提爐を持佛殿並み皇帝の龍牌及靈廟其外諸佛拈香一方方一帰ら
 明方み誦經年々てまくの寮に入典座後僧の各齋堂の若み飯擲とて魚の形に擲
 ち掛るる成叩き又雲版とて物成叩けば住持成始り首座以下僧々の序

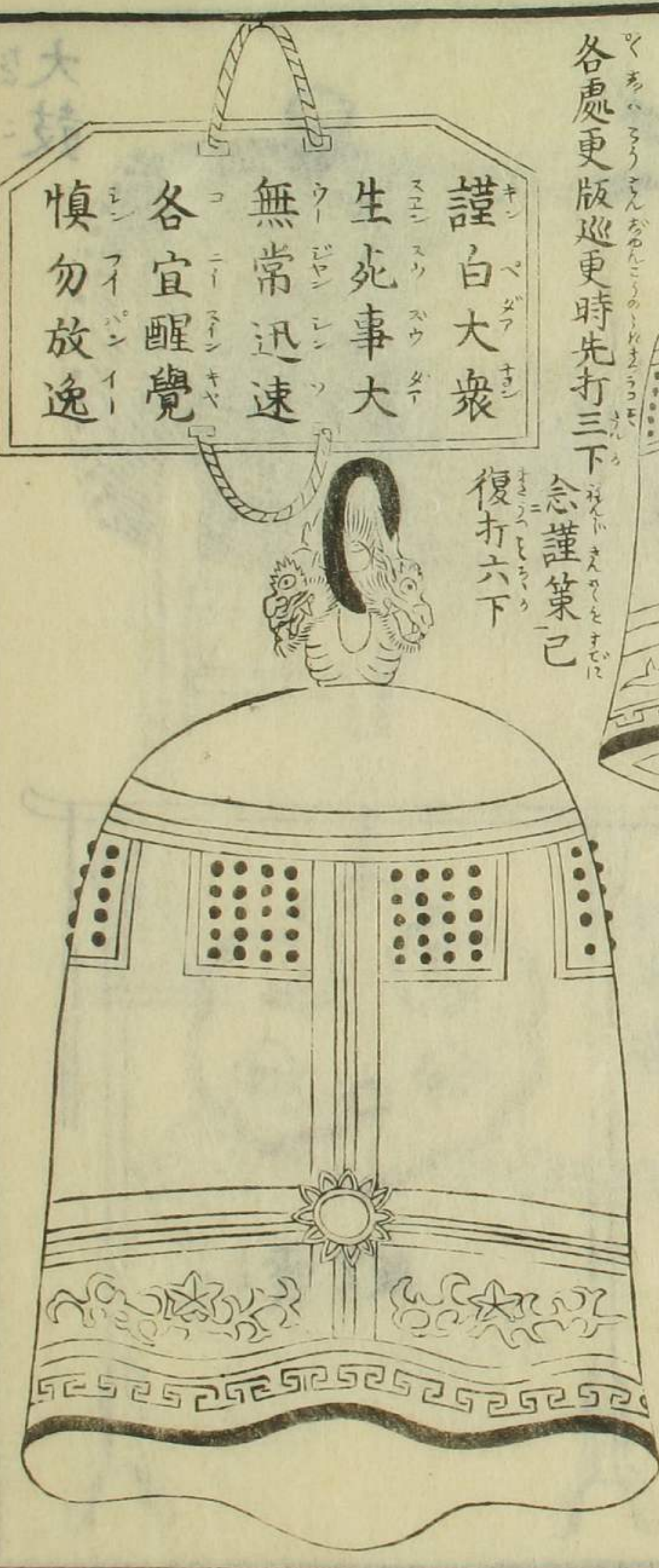
僧徒

寮の僧引磬を打齋堂に集ると位は此の鐘を以て戒師の戒を授けしなり之の
 寮に入り座禪修業を修むるにあり又托鉢を乞ふにあり又七日の時めらるる堂に掛
 るる半鐘を叩けば朔の如く諸僧集りて彌陀の夜一更に鐘樓の大鐘
 大鼓を打 静に開 二更の更版を聞く座禪を止め休息は
 佛の供物に毎朝菜飯點下飯の初徳成供の朔日十五日の菓子野菜類四時
 宛供ふ事定むあり 法會執行の時い多少をせしめし
 昼夜寺院の鐘を七時七時夜五時此三度より外時刻を生かす事あり
 出世成志の僧の遊方僧とて諸國を巡り知識を尋ね其寺に掛錫し重り
 座禪回答成修を此向成行者とて修行進を悟りて道を開け其禪を
 知識を乞ふ師と行先師の事を受業師と唱ふ行者の間の中切の有發して
 修行専あり此行者の内より多く名僧出たりしなり

半鐘



大鐘

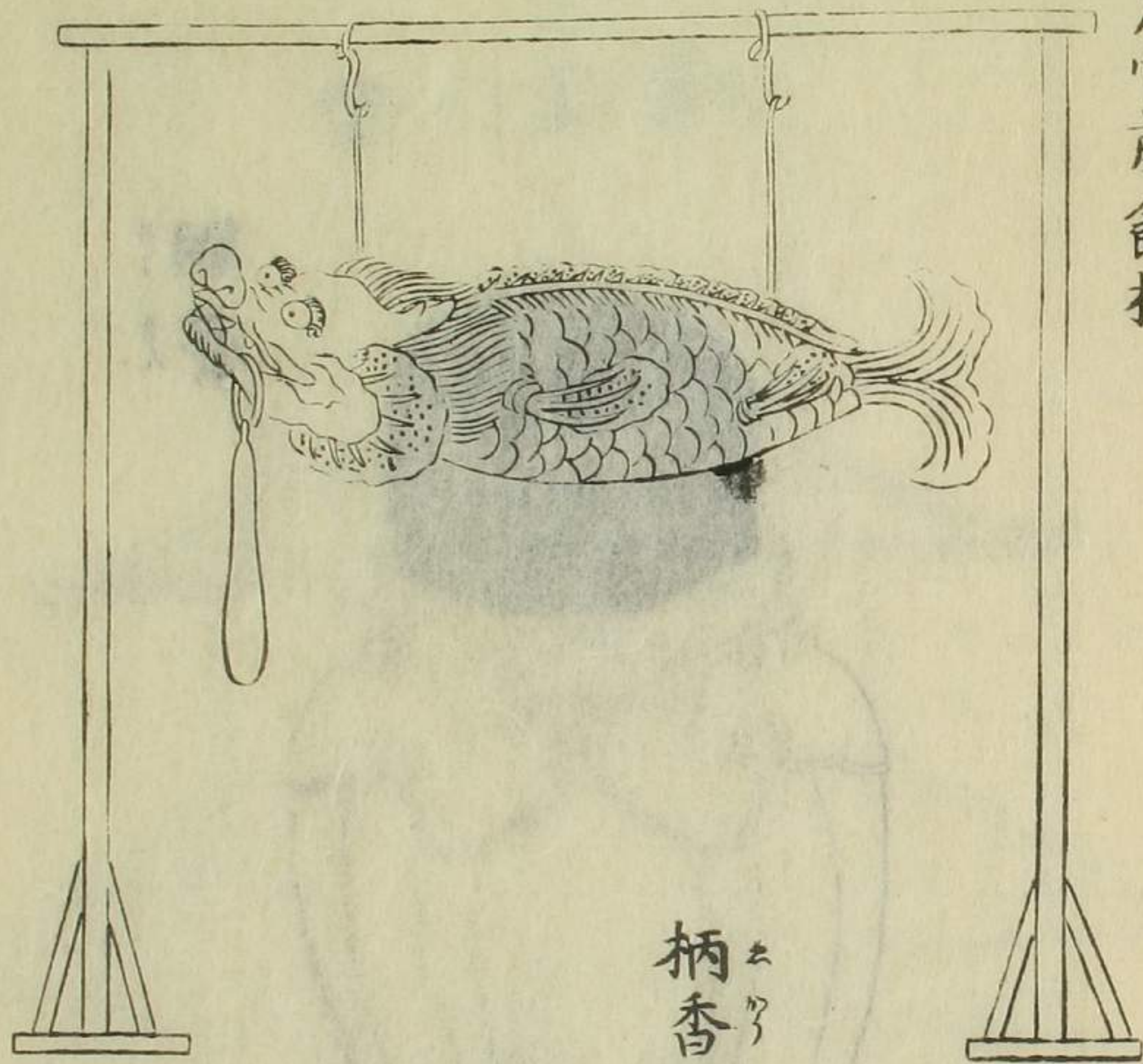


謹白大衆
 生死事大
 無常迅速
 各宜醒覺
 慎勿放逸

各處更版巡更時先打三下
 念謹策已
 復打六下

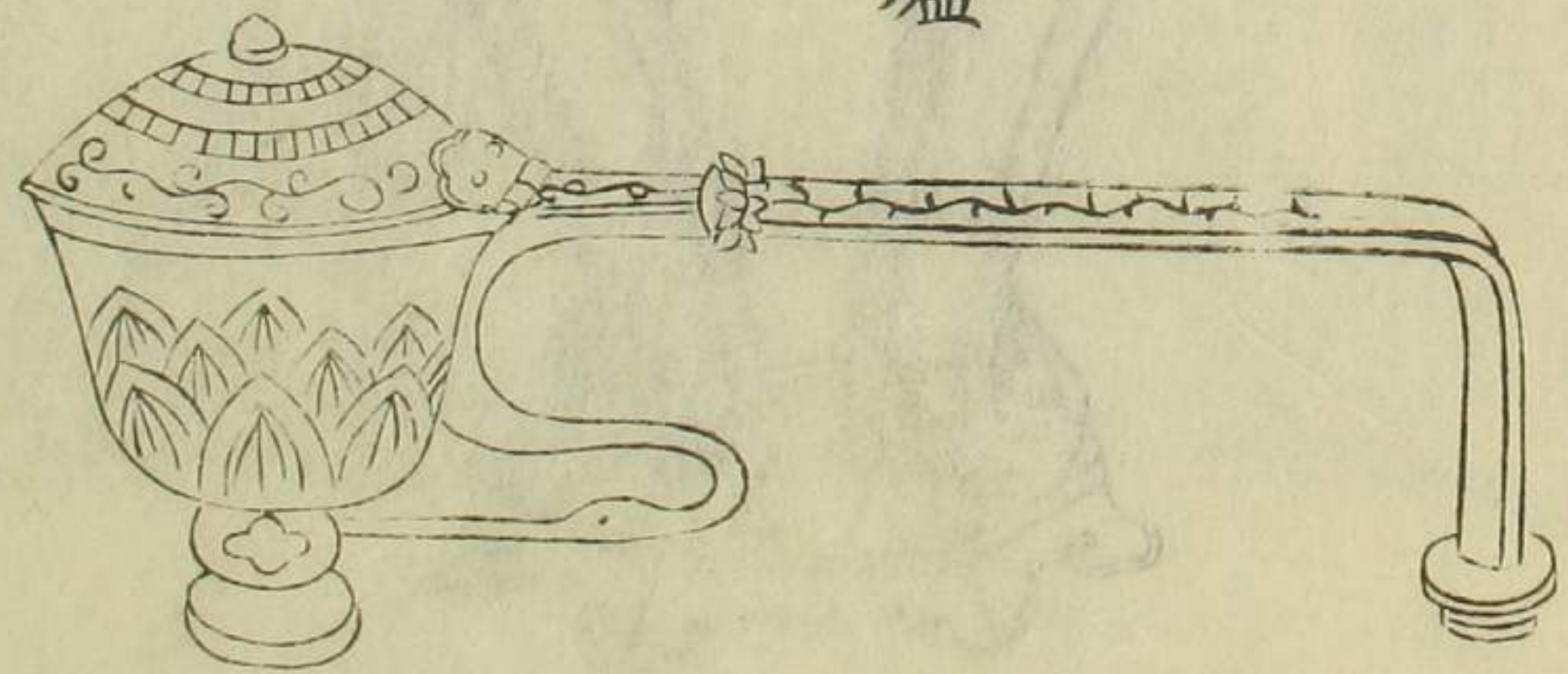
僧徒

十



齋堂前飯柳

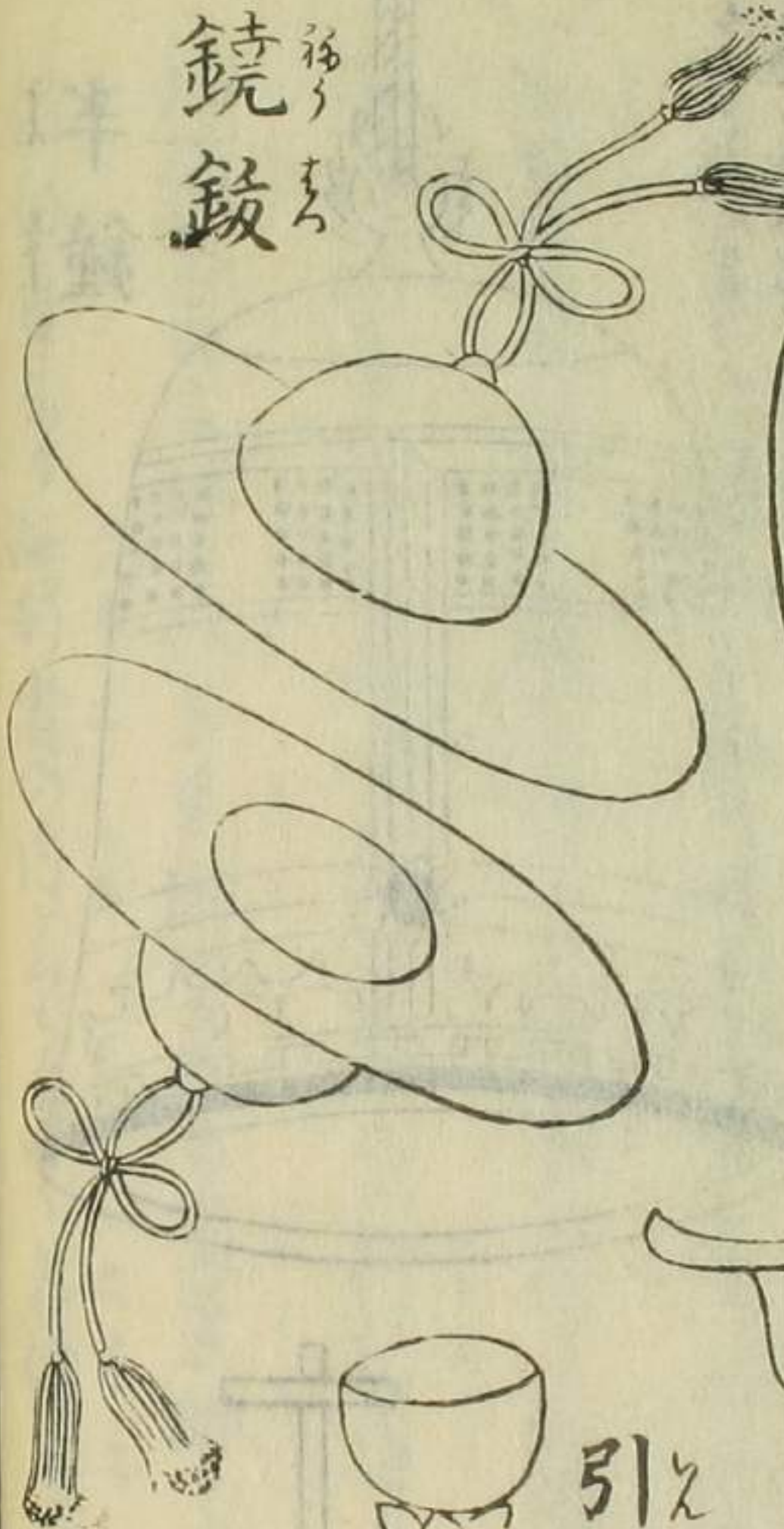
柄香爐



僧徒

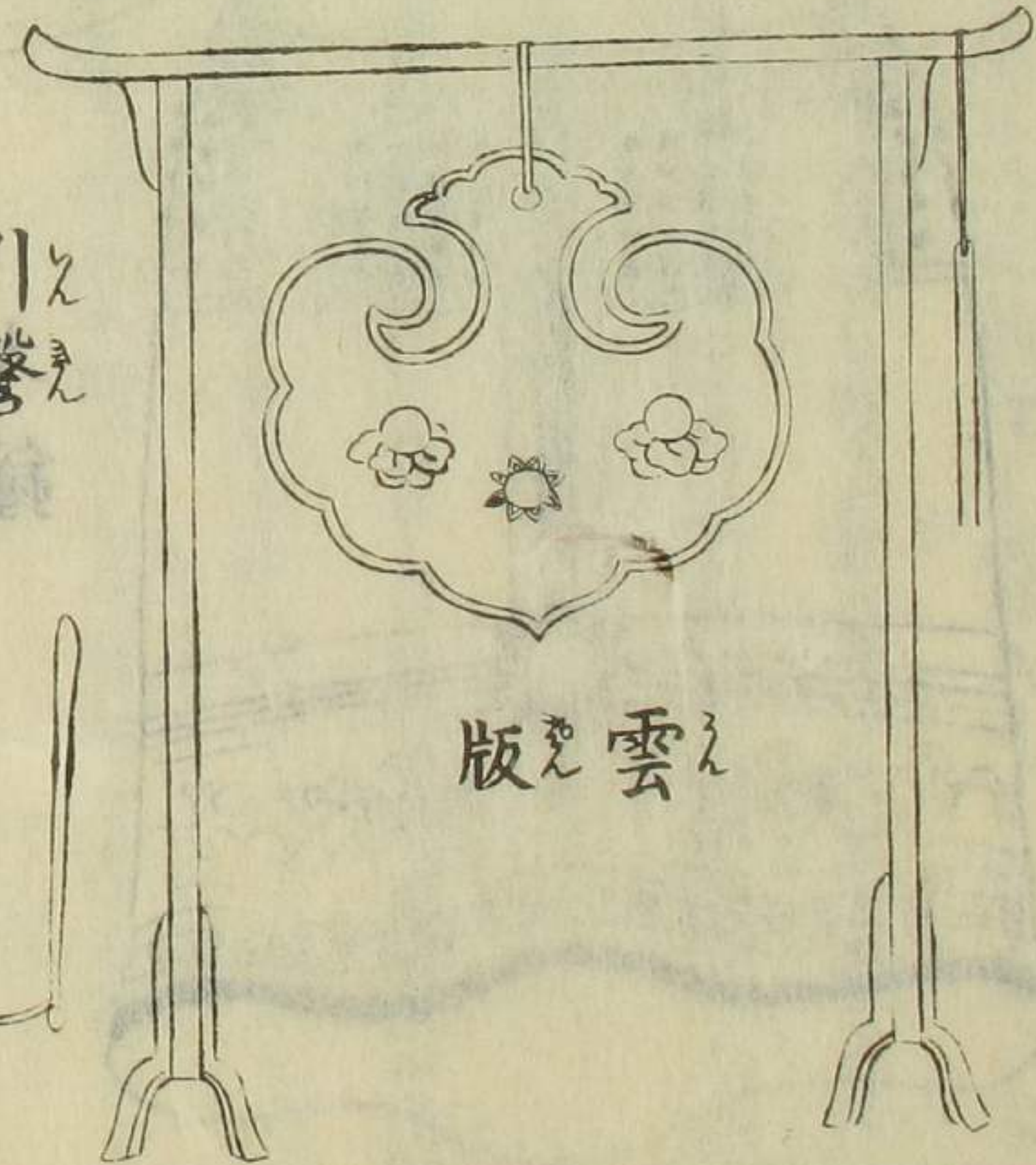
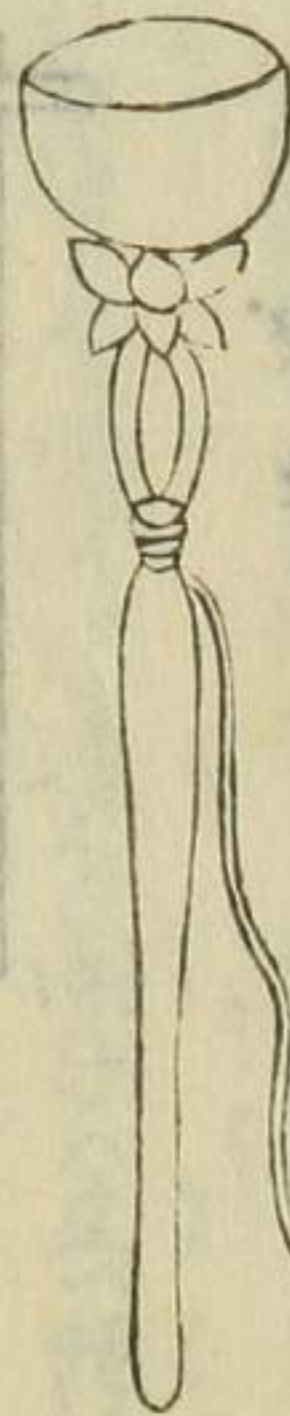
十一

鏡鉦



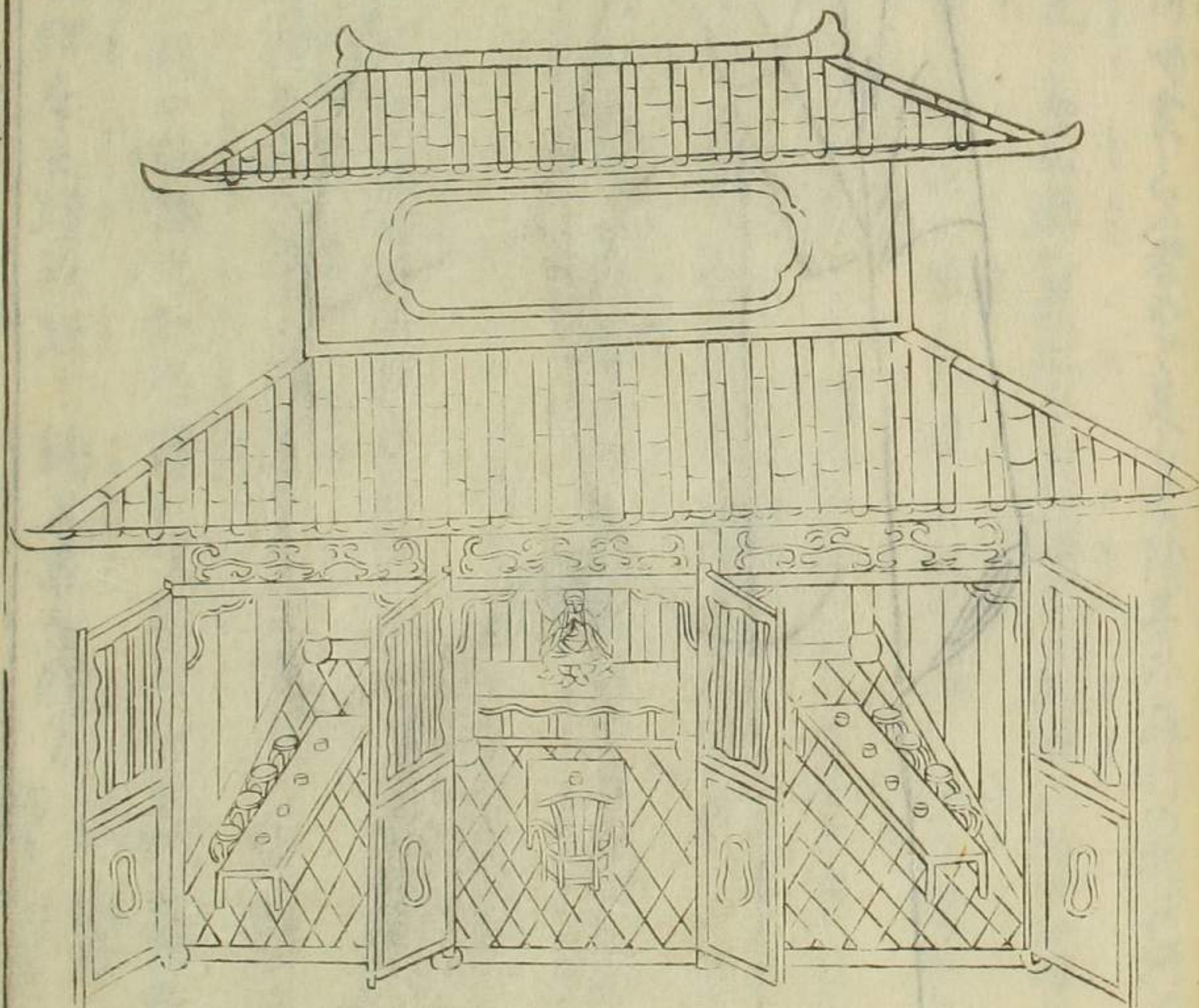
大鼓

引磬



版雲

齋^え吃^ま堂^が齋^え

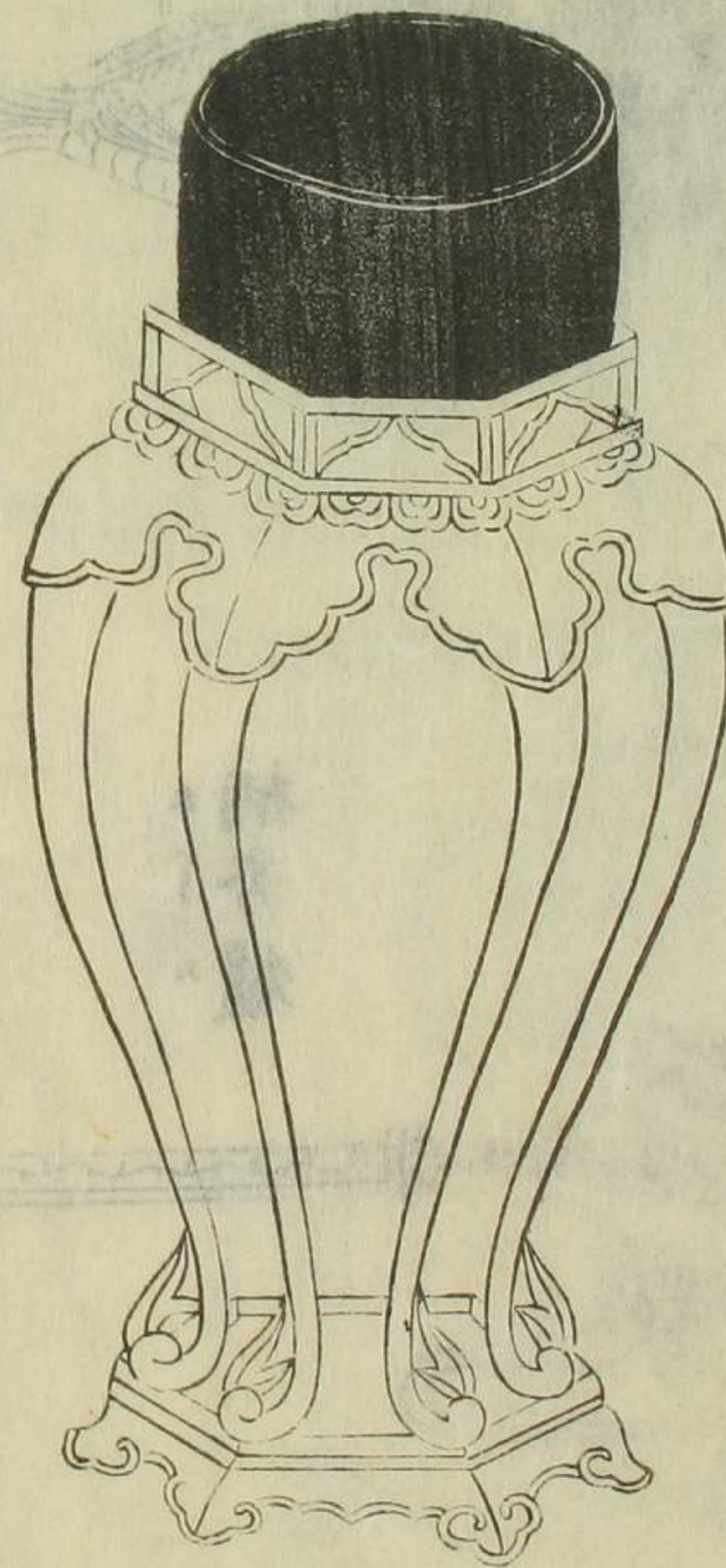


僧徒

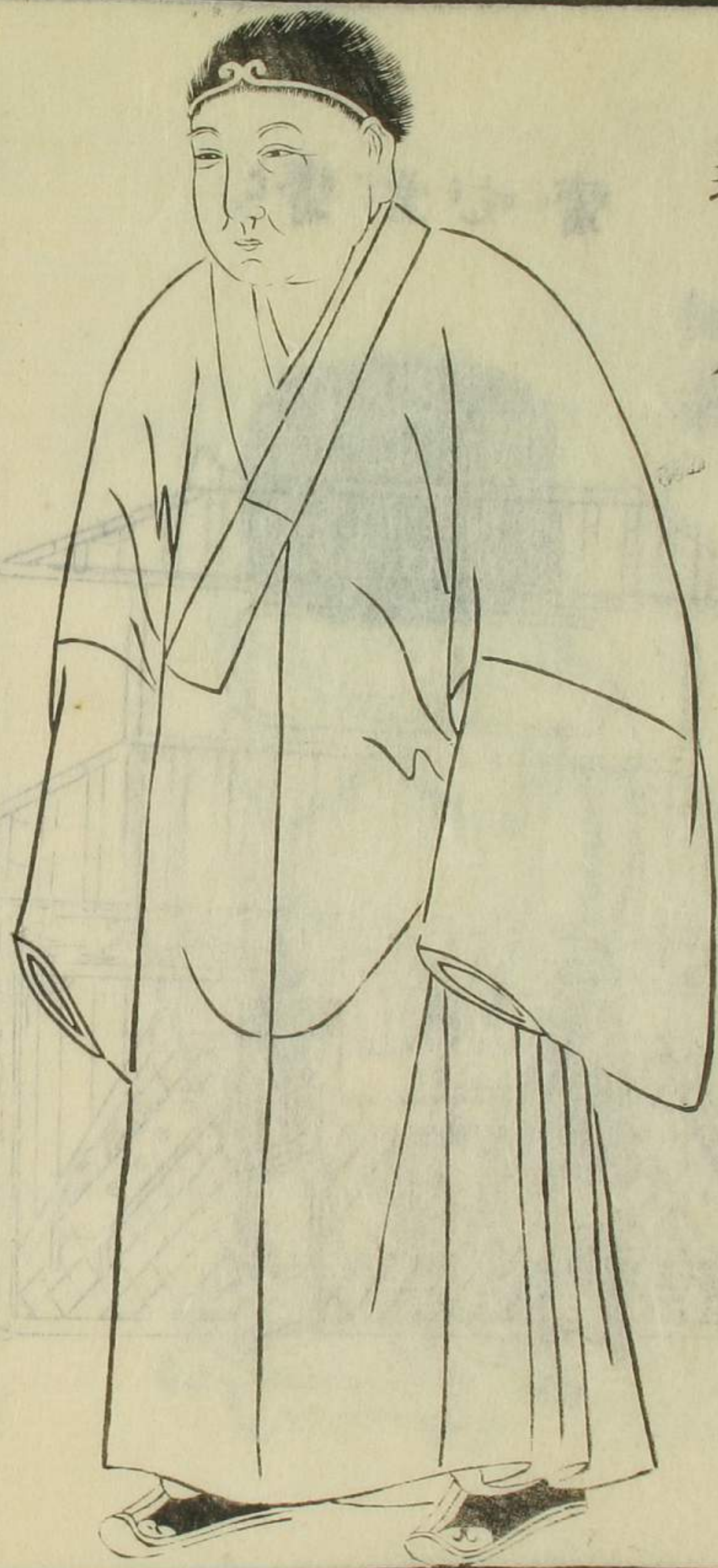
十二

齋堂前繪

銅^{どう}
磬^{きん}



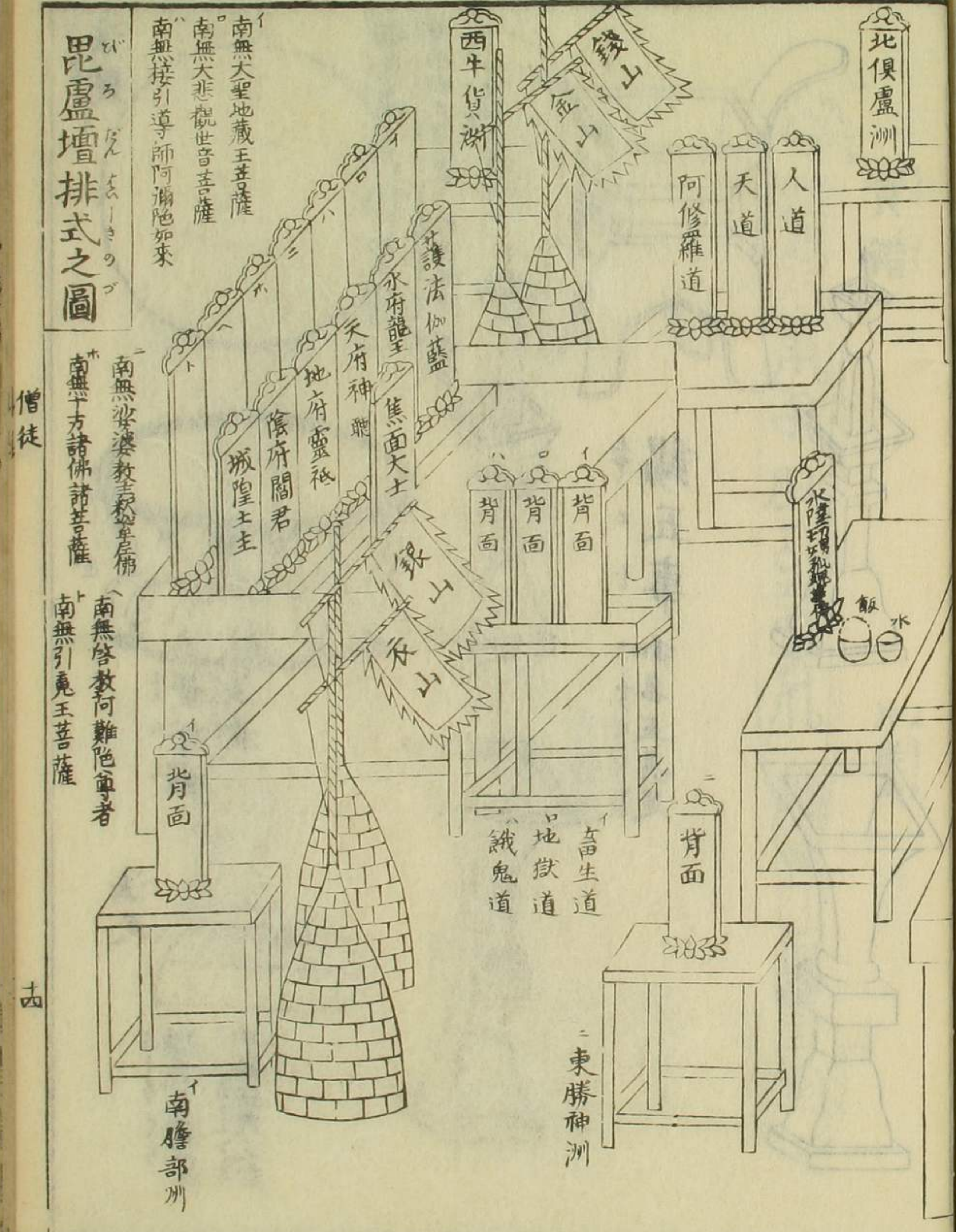
遊方僧



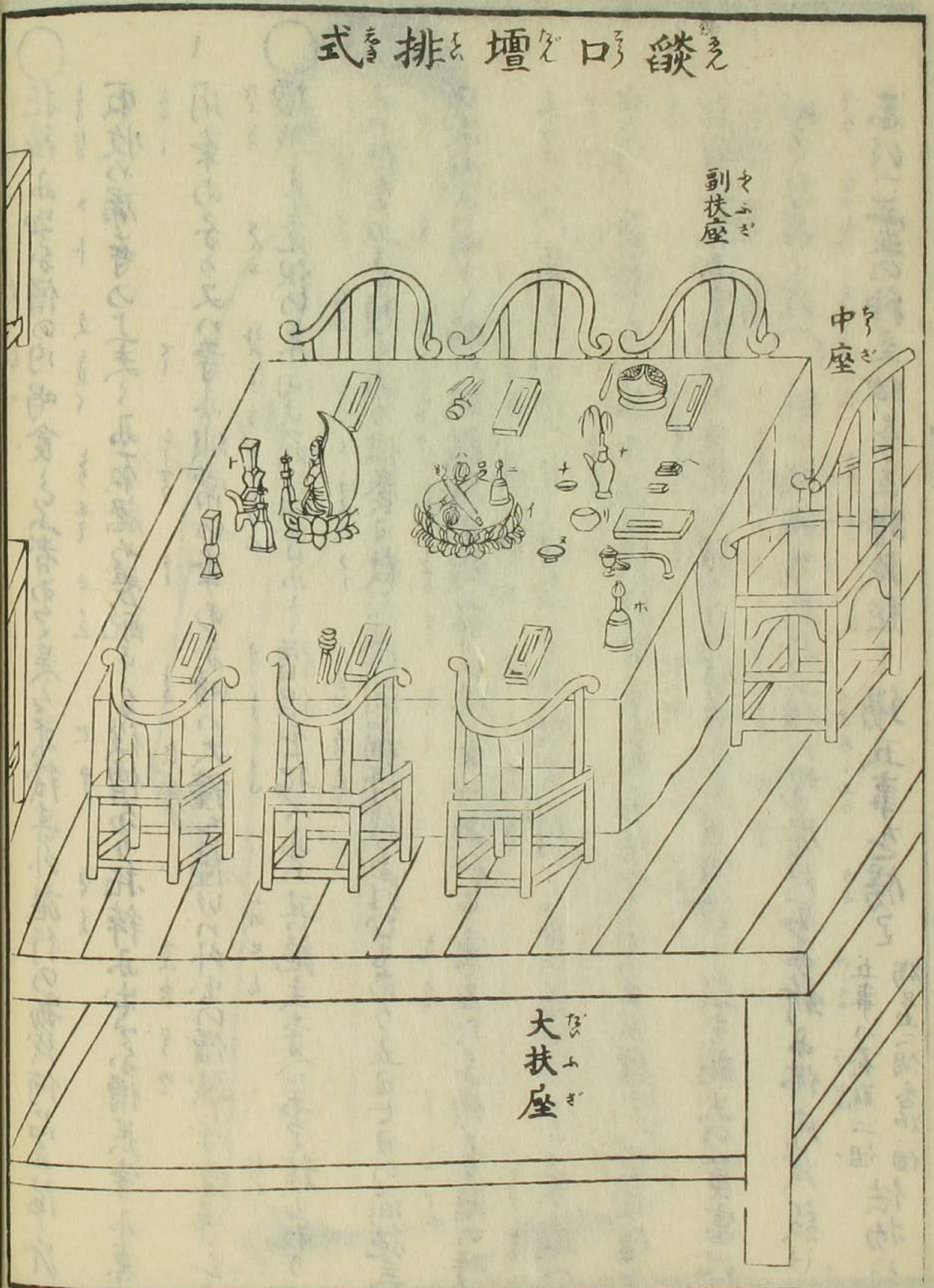
○托鉢み出さ僧の内唱食とふ者あり是と云錢其外施行の物或何品み限らば
 取收り席寄の上まゝぬ取認り差配さか役僧あり托鉢み出さ僧云寺み急
 用事あり又い寺み非常の事ある時ハ大鐘を撞けハ外出の僧或は寺堂席を
 檀越より先祖の年回す外法會かゝ僧侶を招くハ其施主寺へ参り頼もあり
 又い住を以て頼もあり供養日数三日の間誦經成ありむもあり五日七日の間施主
 の求めみ同く焰口施餓鬼水懺等の佛事成執行せ重立たハ僧來旅の時
 主人門前まで出迎ひ互み袈裟を述廳堂へ請へて古代進め参りて家廟へ
 案内し靈茶あり拈香誦經法事等ハ布施わして一日み僧一人ハ茶平僧ハ
 錢百文百五十文住持長老ハ銀十文程送る足成懺資とふを施主の貧富ハ
 同く等かゝる○焰口施餓鬼執行ハ時の境度ハ新ハ佛座成設け
 志ハ亡靈の神主牌を五燈成點し錫五事を傍に
 五事ハ花瓶二個 供物ハ
 燭臺二個 香炉一個

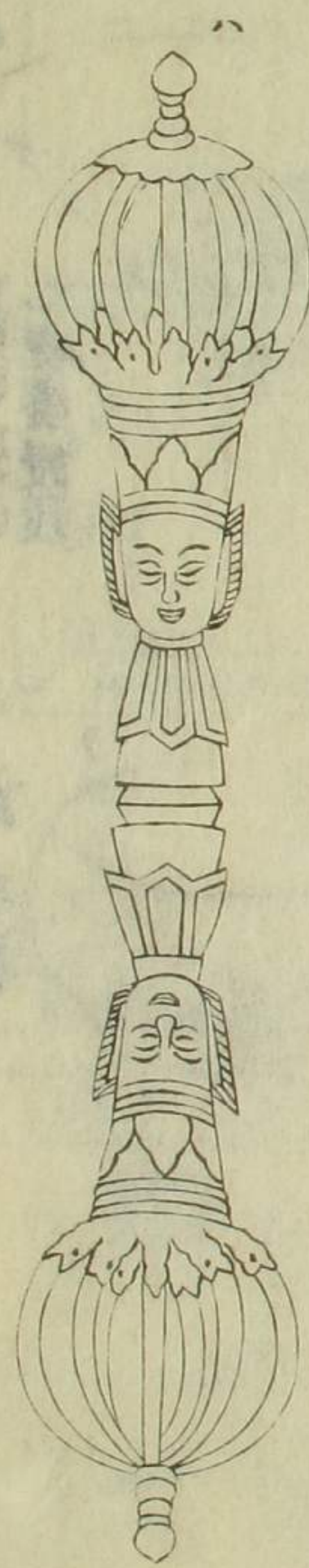
僧徒

毘盧壇排式之圖

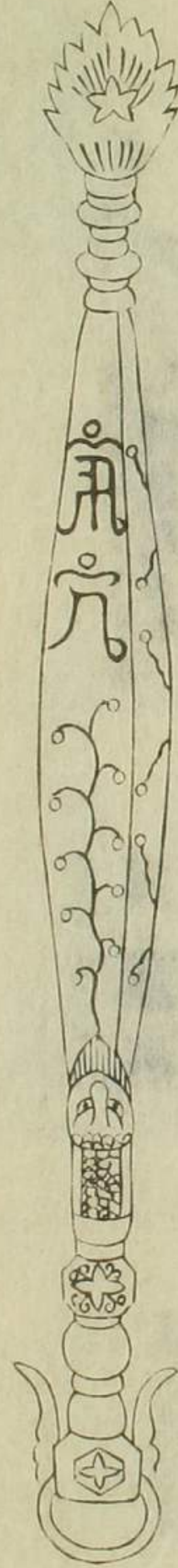


式排壇口燄



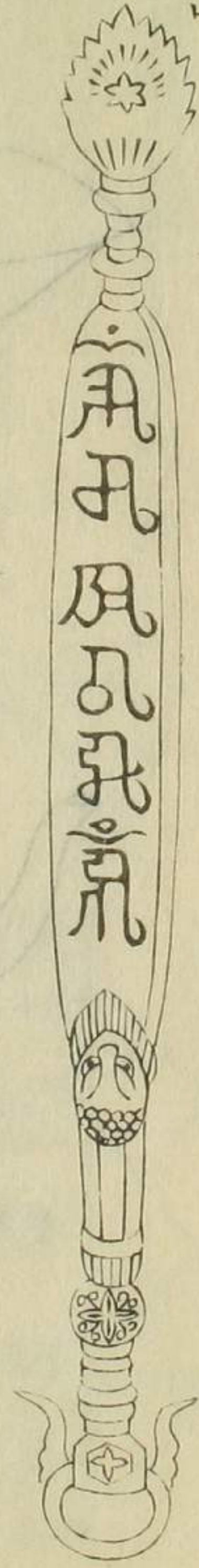


金剛降魔杵



同

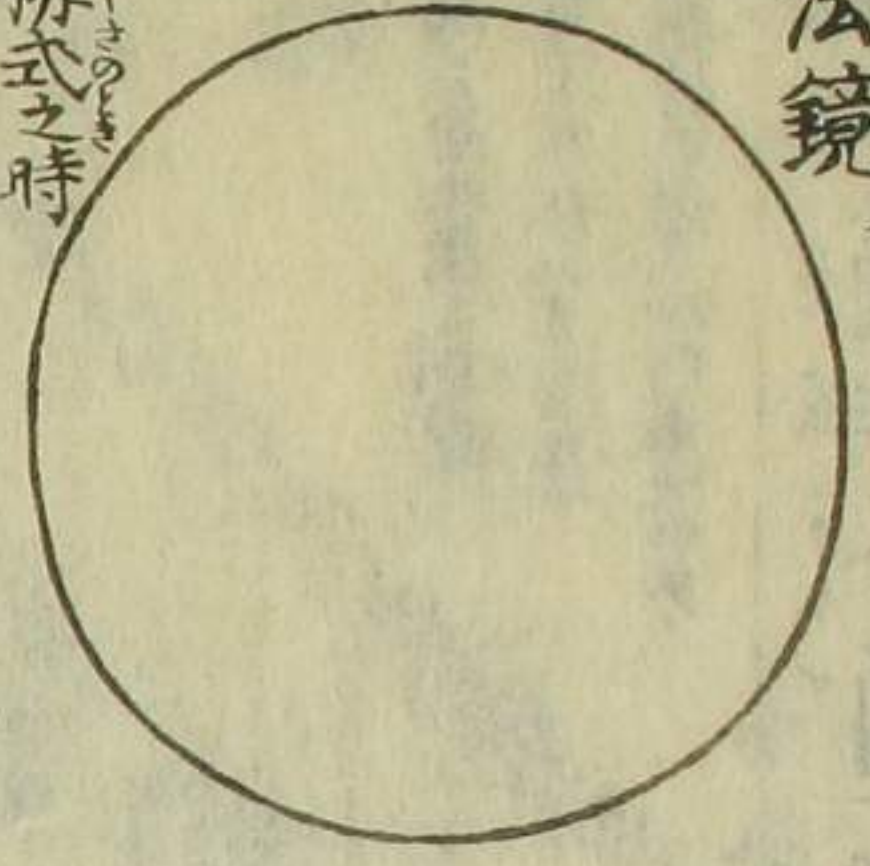
方樣式



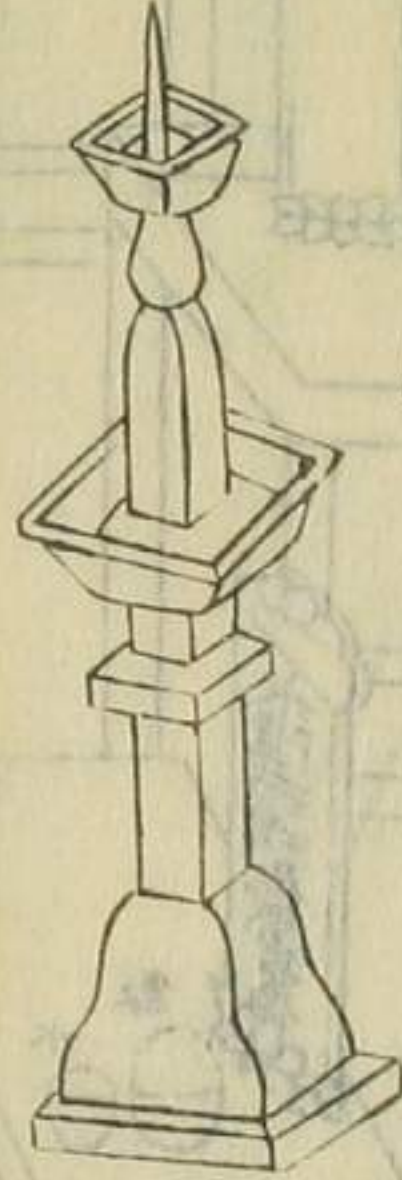
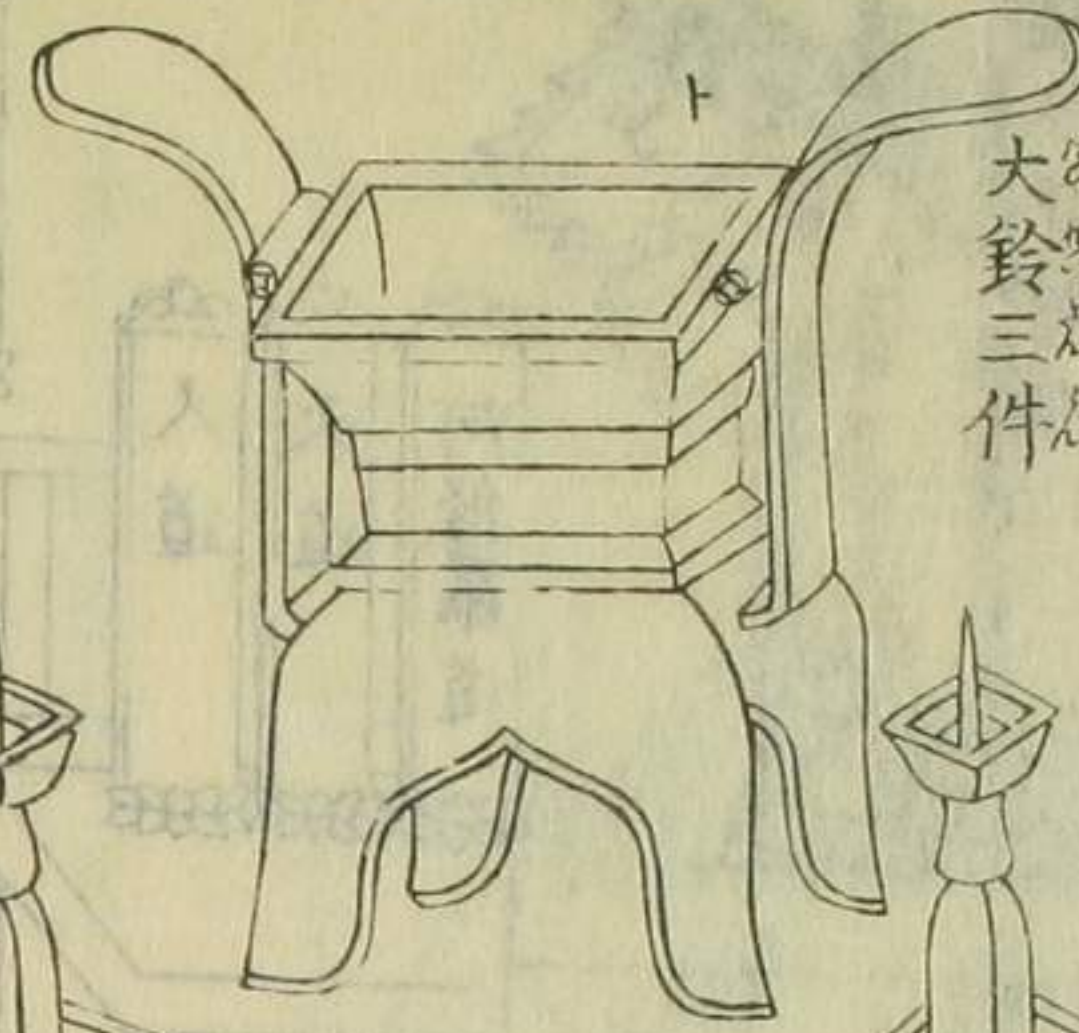
寶錯

片樣式

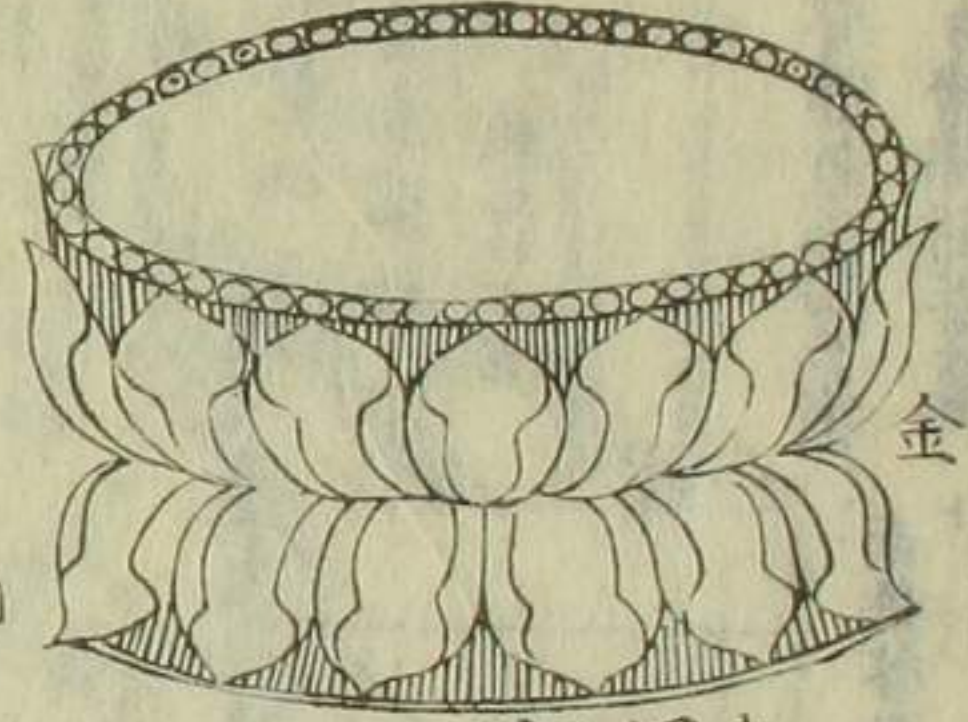
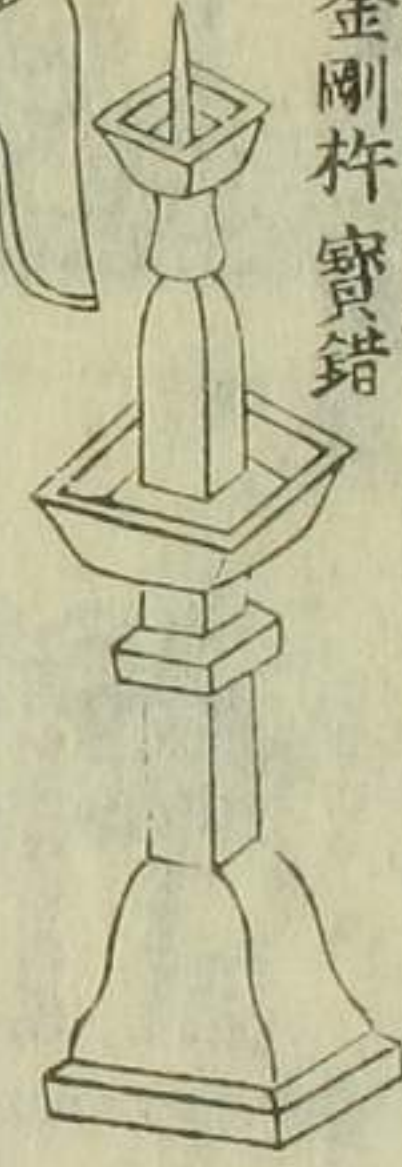
法鏡



排式之時
鏡面朝天置臺上列金剛杵寶錯
大鈴三件

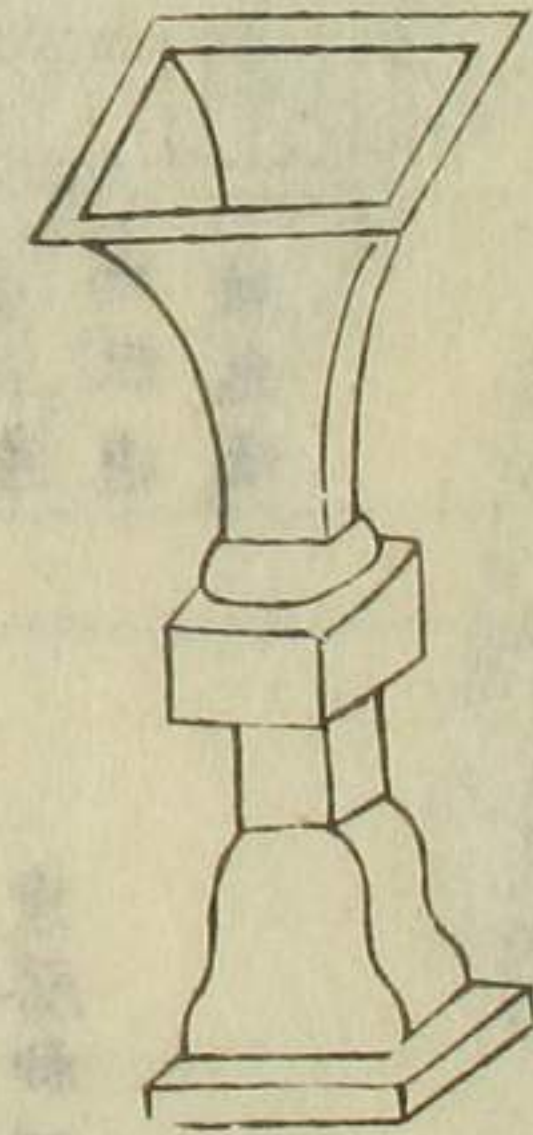
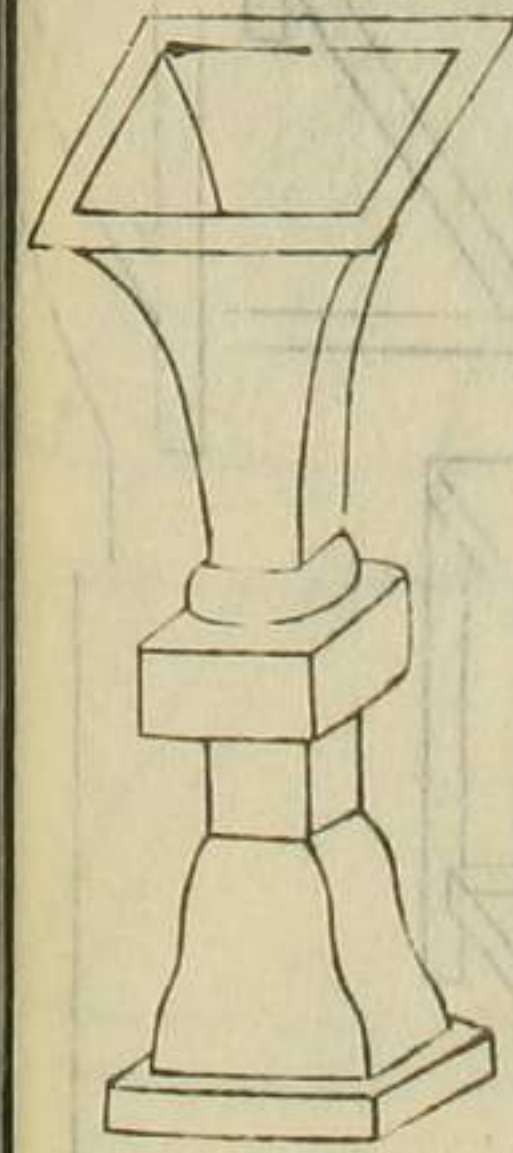


錫五事
和名五具足

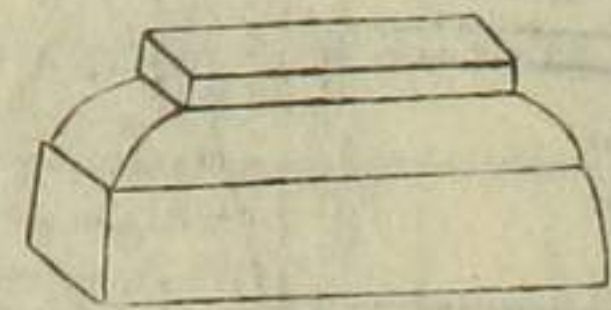


曼拏羅
法臺

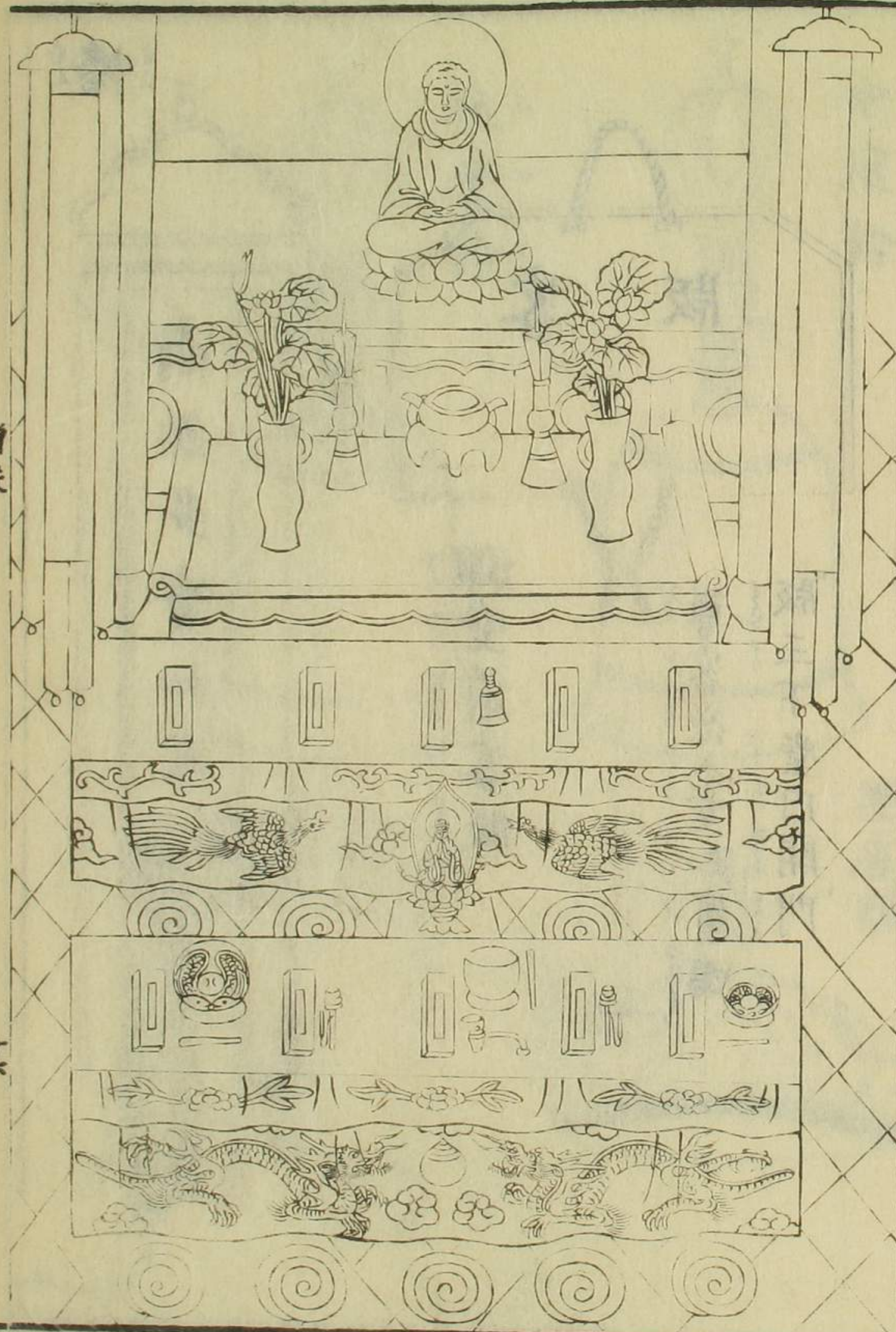
金



法尺



排式之時置
中座經典之右



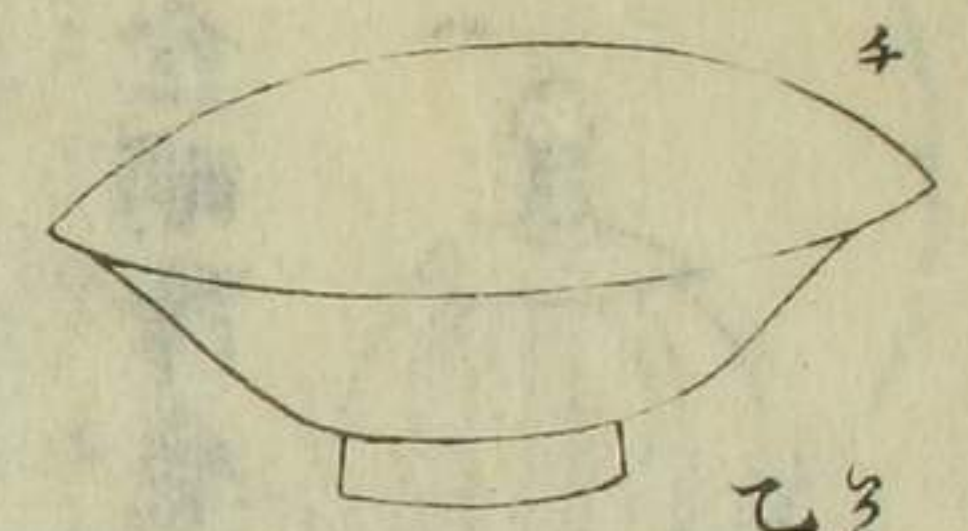
水饌排式之圖

中尊佛觀世音

僧徒

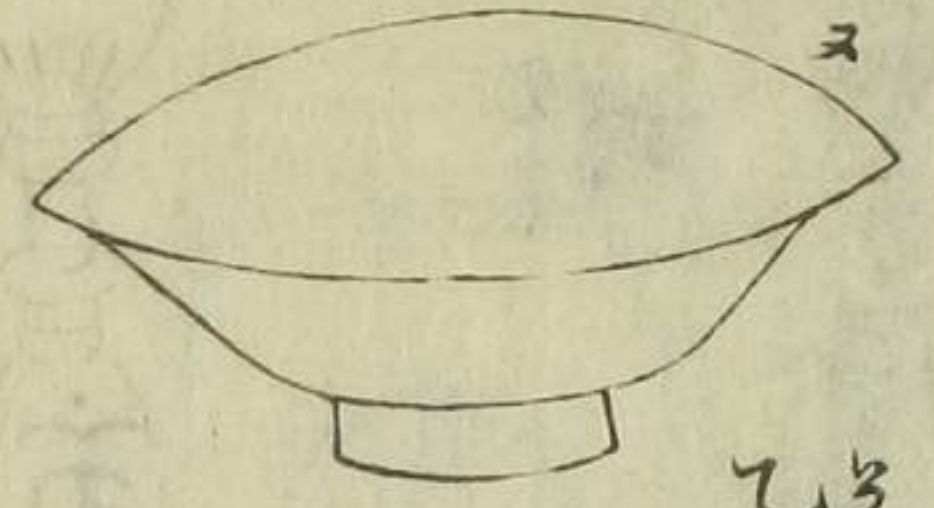
十六

花米碟



乙碟盛饅頭

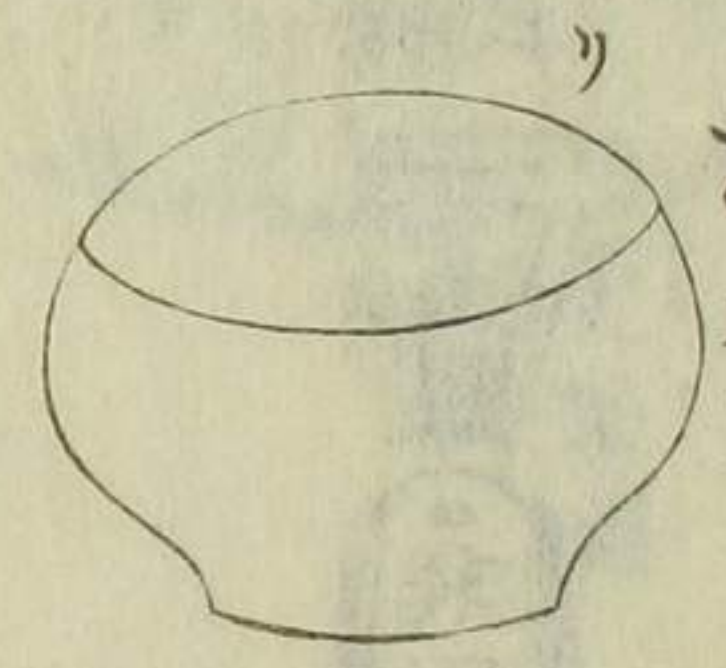
全



乙碟盛花米



甘露瓶



洒水器

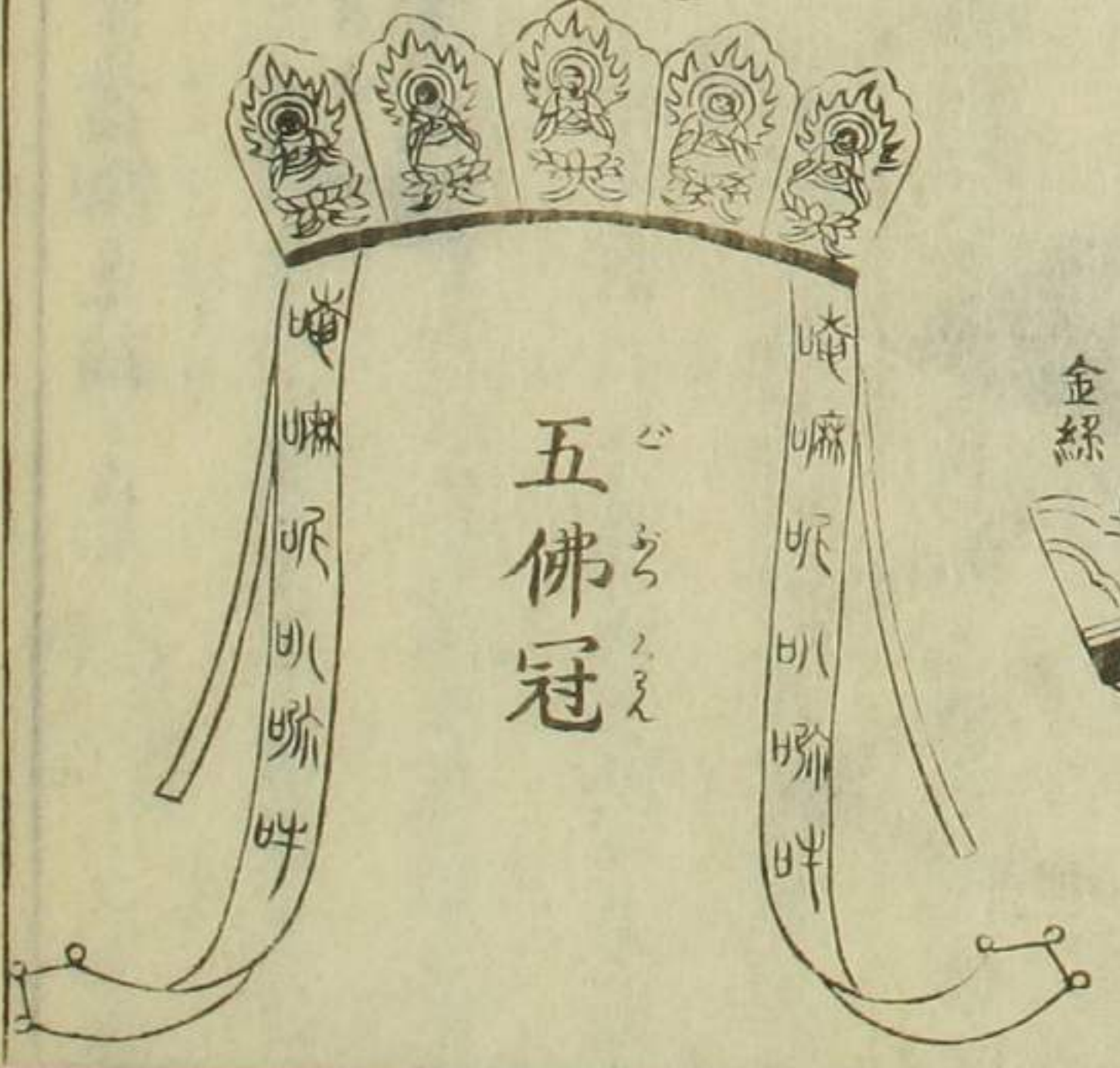
排式之時
挿柳枝



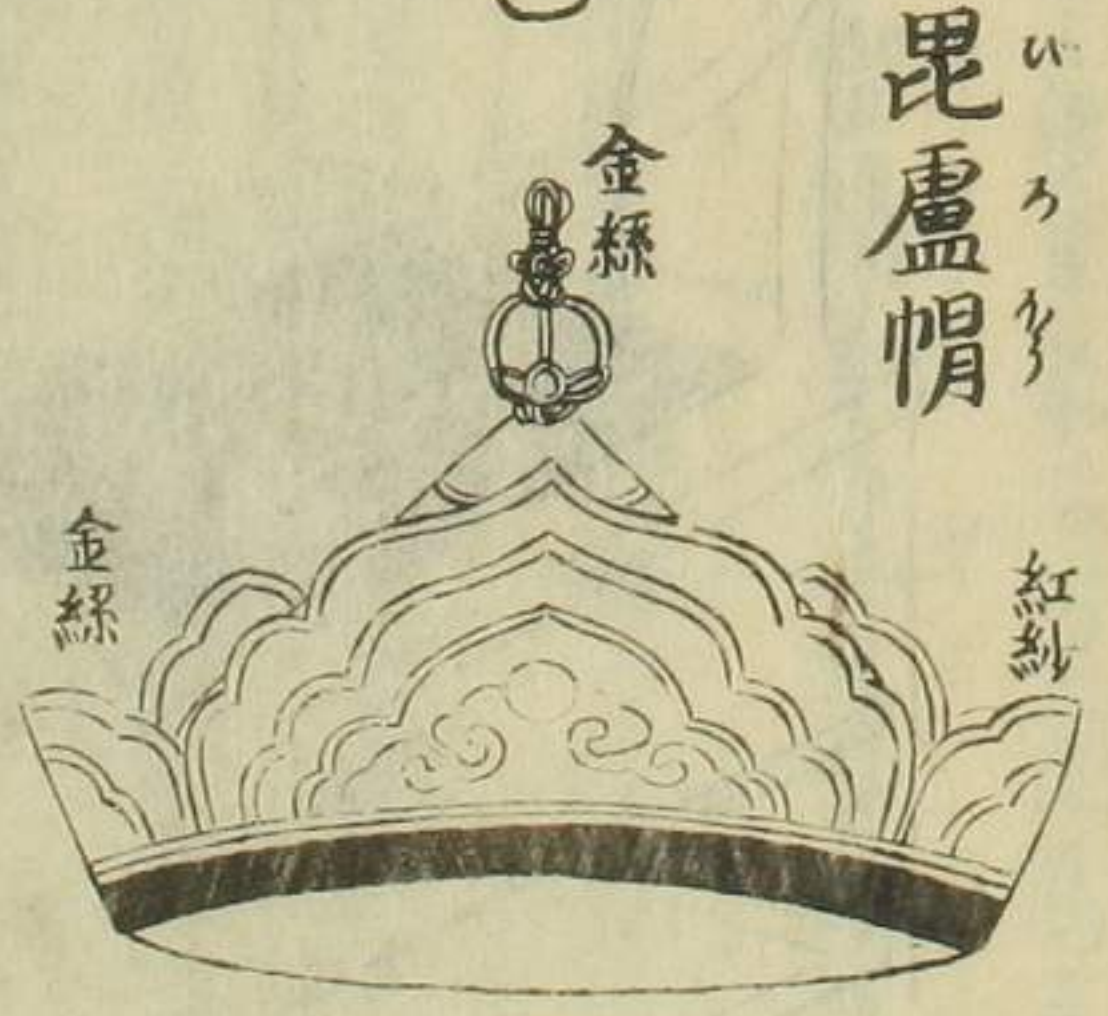
扶座鈴



中座鈴



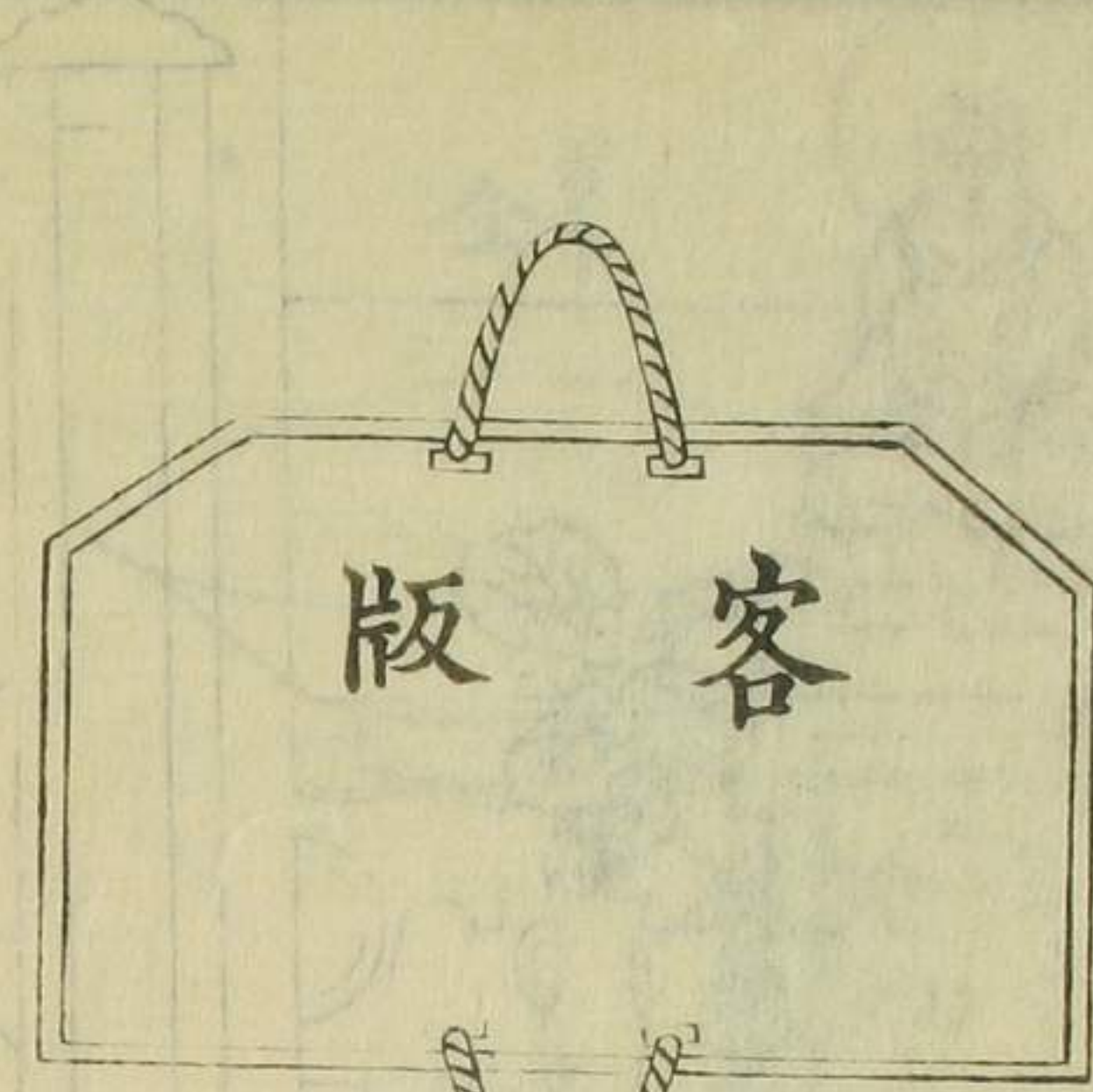
五佛冠



毘盧帽

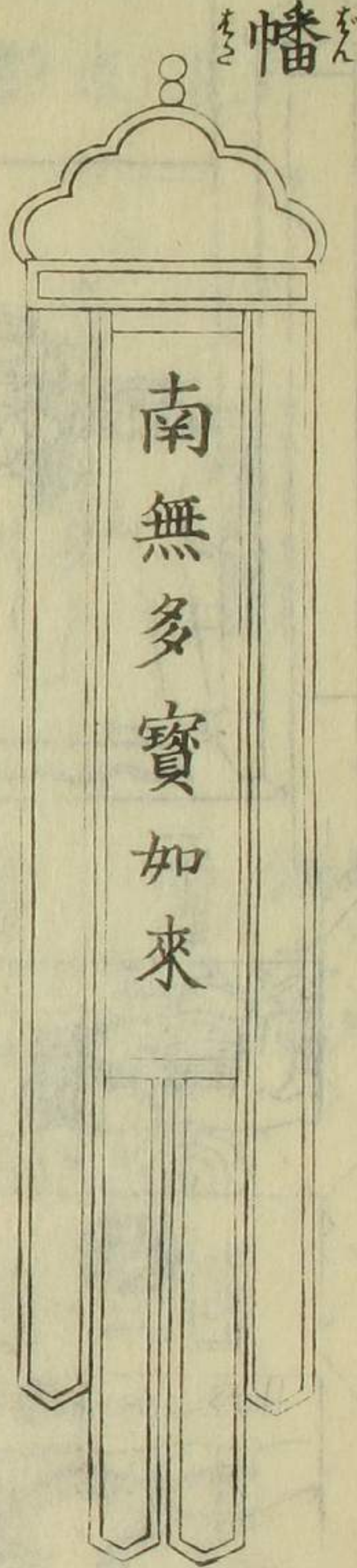
僧徒

十七



客版

禪堂前客版
 尊客欲入堂知賓鳴
 版三下堂內開門

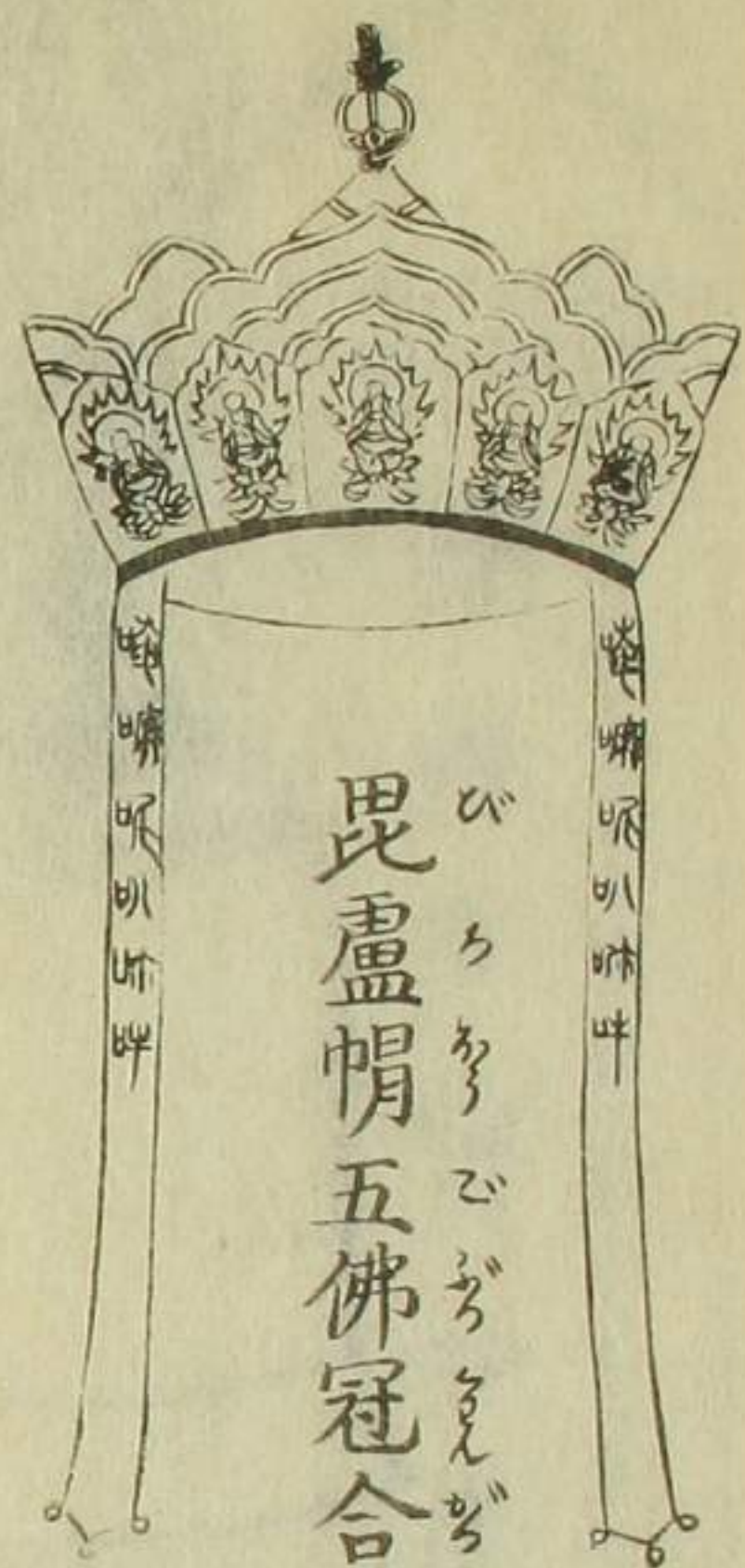


幡

南無多寶如來

木蘭林左之圖

中單州讀書音



毘盧帽五佛冠合帶之圖



椅子

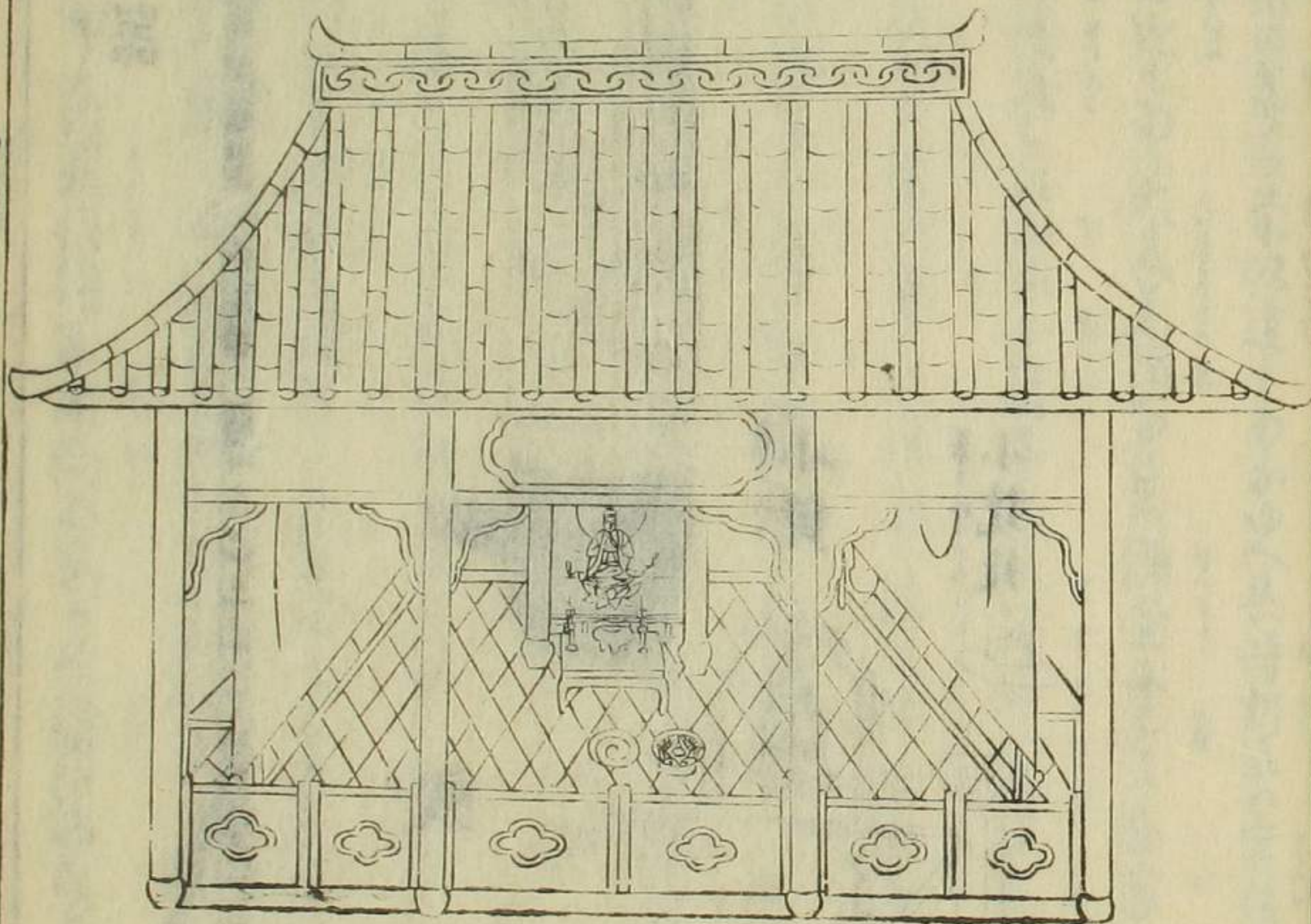
橋新 杜綱 其外砂糖菓子時候の菓物移く供具亦方二間高き二間高きの
 胡批 茨の花生 焰口壇を設け正面に觀音の像或安置し寶鏡等の佛具を傍に
 香花點燈供物見合供物を定式の供物みれば一盃饅頭七の酒水一盃此二品を
 供壇の向中と同く 焰口壇の毘盧壇を設け上壇に七佛の名號を書き
 牌を傍 七佛の釋迦觀音阿彌陀地藏 下壇に面然大士護法龍天の牌を
 香花を供點燈供物等亦のぶを定式の供物亦一昭み又九半牌符を
 さ二尺程の食其を設け水陸一切男女孤魂等位と書記し香花點燈供物亦
 前のおとく定式の供物みれば大に飯を堆く盛酒水を多く供く其
 前高き二間廻り九尺程の竹籠を山の形に拵く金銀の箔紙其外錢帛
 眞衣紙等みく張たる成二を一と金銀山一と錢衣山と記したる符成之
 經の僧七人 略すは五人 焰口壇みりて奉位を金剛上師とす 一名成中 九ハ大

僧徒

杖座有副杖座と不淨乞乞其法(並び)何止も椅子み坐し下は大轆小磬
小鏡箴等傍付あり或誦經み連く大衆の内一人あり鳴中經の僧ハ魚引聲有打冥府の亡
魂起度のた先借(並)不淨乞誦經中次第く取捨酒水成以く饅頭み林字を
書食臺み向く投捨尚又冥途ゆく金銀錢衣服を捨ふ意ゆく右金銀山錢
衣山錢燒捨ふ此法は在家ありも至くそと夜寝みおるふ元三回時寝もかか
水懺とく同く佛座設け香花點燈供物等縮けみおれくを正式の供物
ふくも幅半同み長さ二回及の量成二行み至其ふ僧五人宛都合拾人の僧
夫は佛具成持何止も跪ん誦經あり此法は省界す止一日かも海又と二日と
縁ふもあり縮口水懺とくに年忌法會み限るは家内安全土柄と氣平念恩等の祈
禱みも執り何止も絶至のち何せく自定めくも執行ふ其時と法具諸道

具寺より持越其供養み應じて僧の多少ありを其時親類朋友をも招き
僧侶打込齋非時等振養奉あり法事早止其日數み多ぶ(並)勞金おりて
僧一人前二三十日と以下僧の高下施主の身分み應じて送ふ事等くは若居
宅狭きり或は故障あり寺に佛事を頼む時と前度菜料を納むは施主
の求めみ應じて供養あり其時と寺ゆく齋非時の用意を以て施主ありび施
主の親類朋友み施養あり此とれと施主の方より男女ともみ奉ふ少婦女の間と
別間み志門の附奉ふ奴婢等終仕して僧侶と到來は捨捨禮儀おれを
此間み入る(並)○在家の位牌成寺院み安んず奉奉をれは奉よる位牌
堂とてれしきり格別寺みおるく切あふ檀越ハ別み位牌成安んずあかく
香花を供養する奉あり○在家喪中の時ハ日く誦經頼むもあり又七日毎
み頼むもあり何止も絶至の求めみ應じて喪葬の時と僧七八人もあり

禪堂之式



僧徒

二十

樞の先かまふ事お指めくましく久ふか幡を持二行めあぐび墓所近は

添誦経はを定式おあぐの檀越より頼されば行事おし

七月盆ゆき寺院おあぐの施餓鬼執行すか所もあり其寺の古格めく執

行せむか所もあり ○十二月八日を臘八といふ朔日とて八日の曉まで昼夜一山の僧

禪堂おあぐの座禪おあぐの八日お菓茶の粥を炊は

何れも吃し懇意の檀越も送ふ事あり

御祈願所おと差極もか寺院か御祈禱の節ハ勅諭めく何れ

何寺ハ付しおあぐの其寺(頼遣は又ハ官前の見斗ハを以て終行

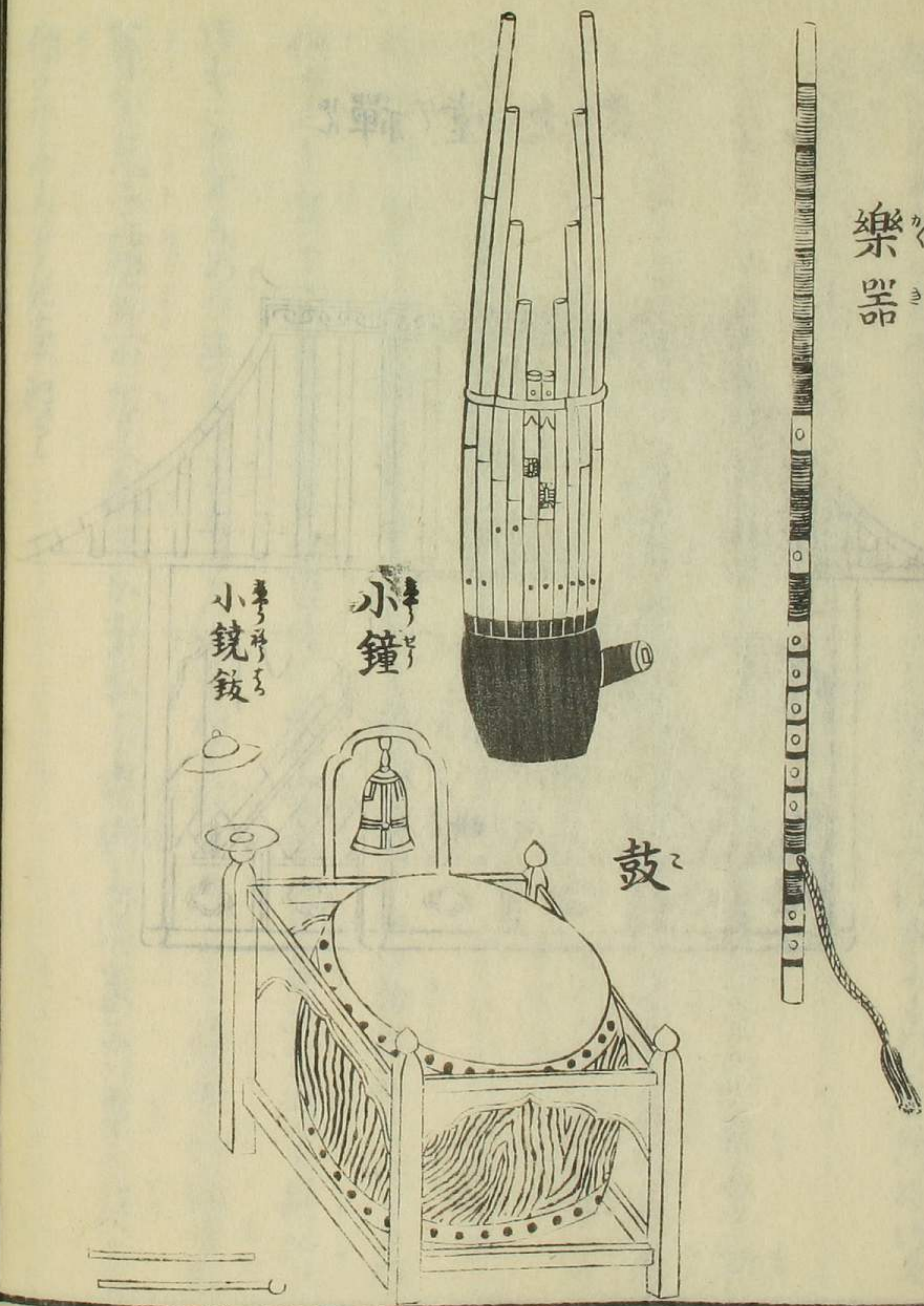
りてふ事もあり其下はめあぐの一等かづの寺院めく護摩神圖守札

等を二天子諸官前等ハ獻すか事か可術と道家ハ専ら行へも

僧おあぐの事あり

...

樂器



○官人素素詣の節は前以達しわが火具時刻の官位の高下による位持並に

後僧山門中に出迎しあつた大夏末清を止む御堂おそく客版とふ階成叩けは法堂

の門代軍は法僧残らぬお小官お止む後中出迎ふ大夏れ時と種接の鐘成

撞を鼓を打あつひは樂代養して佛殿請け佛拜手を加客の御案内して

虫に方丈一俵の掃子を設け座成請く位持對座し知各側お侍る值座の各

茶菓子其外時候の菓物等差出はたしひ小寒暖の挨拶あつて御食應あつむ

酒烟をわ杯あつておさげ帰めえのぶく山門をわお此れ空の家及ふ

香金とて多少おつて金銀成るはけり守

○庶人茶請の時の先佛殿お禮拜し虫お帰ふもわり又を客殿ゆくおわりく

休息を止む客め應し值座して茶をわつておれもわり或は菓子菓物等お

あつて其の品等わつて美位持お用向あつり又訪ひのた先見くもれ節と値

僧徒

座(有次氏)相(方丈)みまの面後(以)庶人(もろ)とて大(戸)の人(を)監(寺)知(安)言(の)送(近)此(禮)あり貴(賤)高(下)み拘(り)以(客)殿(み)至(子)人(を)銀(錢)の(差)列(り)見(合)香(金)を(了)る(並)あり又(と)線(香)蠟(燭)等(邊)あり婦(女)事(指)の時(も)佛(拜)の(も)中(に)坐(す)み帰(る)も(あり)又(暫)く(客)殿(み)休(息)す(も)あり(且)つ(て)僧(侶)一(人)も(と)り(て)婦(女)の(休)息(所)に(列)み(設)け(わ)る(美)業(は)く(も)と(り)て(は)十二(三)歳(の)小(沙)彌(持)出(る)都(く)寺(院)み(婦)女(徧)徧(す)る(事)望(く)官(制)あり(不)請(近)の(事)の(苦)し(か)ら(后)宮(の)官(女)等(寺)事(指)の(儀)と(天子)御(系)指(る)且(つ)バ(附)随(し)事(指)す(止)や(も)官(女)ぢ(り)事(指)す(事)あり

○年(始)と(も)官(女)也(如)事(事)く(檀)家(に)任(持)自(身)年(禮)み(事)あり(又)る(役)僧(の)内(に)某(山)某(禪)寺(某)叩(き)書(き)事(指)持(り)事(事)あり(外)に(札)守(守)たり(事)あり(元旦)と(て)二(日)と(く)在(家)み(事)あり(在)家(懸)念(の)方(の)常(み)徃(來)談(話)す(事)在(家)の(者)に(異)事(事)あり(又)歳(暮)ふ(に)檀(家)野(菜)菓(物)稻(漬)砂(糖)漬(等)たり(事)あり

○卒(山)組(合)等(の)事(事)御(朱)印(地)と(り)事(事)あり(且)後(任)成(定)む(事)一(山)の(役)僧(評)議(し)て(任)み(堪)も(り)任(務)を(選)み(其)地(の)知(縣)へ(回)り(知)録(一)存(中)後(任)中(後)事(任)務(事)任(務)あり(時)に(崇)德(備)い(と)る(他)國(の)知(識)此(名)成(二)人(輕)も(書)出(一)官(一)更(中)出(一)官(下)の(指)揮(み)あり(た)る(有)役(傍)中(も)願(望)官(事)中(評)議(あり)役(僧)中(に)選(出)した(事)名(事)の(内)又(外)子(官)一(列)の(存)有(中)其(有)役(傍)中(達)一(雙)方(一)更(上)後(任)成(定)む(小)寺(の)官(下)此(評)議(み)及(む)也

○後(任)進(山)の(時)の(吉)日(代)擇(り)入(寺)以(其)時(を)首(所)以下(の)役(傍)山(門)外(ま)出(近)此(時)格(式)の(法)治(わ)る(互)み(札)拜(身)呈(て)寺(内)へ(且)鐘(を)撞(太)鼓(を)敲(き)知(客)より(諸)堂(案)内(に)拈(香)一(式)法(漸)く(方)丈(へ)入(暫)く(休)息(

座(有次氏)相(方丈)みまの面後(以)庶人(もろ)とて大(戸)の人(を)監(寺)知(安)言(の)送(近)此(禮)あり貴(賤)高(下)み拘(り)以(客)殿(み)至(子)人(を)銀(錢)の(差)列(り)見(合)香(金)を(了)る(並)あり又(と)線(香)蠟(燭)等(邊)あり婦(女)事(指)の時(も)佛(拜)の(も)中(に)坐(す)み帰(る)も(あり)又(暫)く(客)殿(み)休(息)す(も)あり(且)つ(て)僧(侶)一(人)も(と)り(て)婦(女)の(休)息(所)に(列)み(設)け(わ)る(美)業(は)く(も)と(り)て(は)十二(三)歳(の)小(沙)彌(持)出(る)都(く)寺(院)み(婦)女(徧)徧(す)る(事)望(く)官(制)あり(不)請(近)の(事)の(苦)し(か)ら(后)宮(の)官(女)等(寺)事(指)の(儀)と(天子)御(系)指(る)且(つ)バ(附)随(し)事(指)す(止)や(も)官(女)ぢ(り)事(指)す(事)あり

○年(始)と(も)官(女)也(如)事(事)く(檀)家(に)任(持)自(身)年(禮)み(事)あり(又)る(役)僧(の)内(に)某(山)某(禪)寺(某)叩(き)書(き)事(指)持(り)事(事)あり(外)に(札)守(守)たり(事)あり(元旦)と(て)二(日)と(く)在(家)み(事)あり(在)家(懸)念(の)方(の)常(み)徃(來)談(話)す(事)在(家)の(者)に(異)事(事)あり(又)歳(暮)ふ(に)檀(家)野(菜)菓(物)稻(漬)砂(糖)漬(等)たり(事)あり

○卒(山)組(合)等(の)事(事)御(朱)印(地)と(り)事(事)あり(且)後(任)成(定)む(事)一(山)の(役)僧(評)議(し)て(任)み(堪)も(り)任(務)を(選)み(其)地(の)知(縣)へ(回)り(知)録(一)存(中)後(任)中(後)事(任)務(事)任(務)あり(時)に(崇)德(備)い(と)る(他)國(の)知(識)此(名)成(二)人(輕)も(書)出(一)官(一)更(中)出(一)官(下)の(指)揮(み)あり(た)る(有)役(傍)中(も)願(望)官(事)中(評)議(あり)役(僧)中(に)選(出)した(事)名(事)の(内)又(外)子(官)一(列)の(存)有(中)其(有)役(傍)中(達)一(雙)方(一)更(上)後(任)成(定)む(小)寺(の)官(下)此(評)議(み)及(む)也

○後(任)進(山)の(時)の(吉)日(代)擇(り)入(寺)以(其)時(を)首(所)以下(の)役(傍)山(門)外(ま)出(近)此(時)格(式)の(法)治(わ)る(互)み(札)拜(身)呈(て)寺(内)へ(且)鐘(を)撞(太)鼓(を)敲(き)知(客)より(諸)堂(案)内(に)拈(香)一(式)法(漸)く(方)丈(へ)入(暫)く(休)息(

僧徒

吏丁と奉堂の之を設けお酒を登り柱杖を安拂子を持侍子みかき
侍者兩人尤右女從(衆)傍の祥を受ふ此れ一山の傍心く如く法徳成以
種々の事成尋問をまじ教示あり其香成如て禮拜の規式を官度(福)み其
後檀越も自身より入寺指露あり此所(福)み其物の物たり事あり

○僧は妻を禁制ありむ應付僧とて妻をあるはれも肉食の傍あり
市中女住居し在家に法事誦經等類み其下執り以む應付傍とらふ
名住古くこの中へ之めくいり如ふ事ありのれ

○律宗ハ甚稀あり天台宗ハ天台山一山限めく外あり律宗ハ重み新
儀成修し綿服を着し氣色の本綿加長法衣を着し鉄錫を持食事の傍
鉄錫み飯茶共み入箸代用ハじめく吃す天宗の傍ハ法式ハ律宗ハ同
僧道兩持の寺院あり寺院ハ僧侶よりあり

○寺院内み菜店等ハありとも狂言芝居等の事ハ出でてふ狂言芝居角
力輕業等の事ハ社内み限り具行也

○道家ハ有髪めく道冠を戴き法衣を禪家の如くめく何正も綿服あり
業化ハ密法を修し祈禱成專や此内太上老君の修法成行者者ハ清
帯めく別張天師の類あり此正一道士とも其外雜部修行の分也
書茶肉食は多く市中み住居を火居道士とも業化ハ別ふ事あり

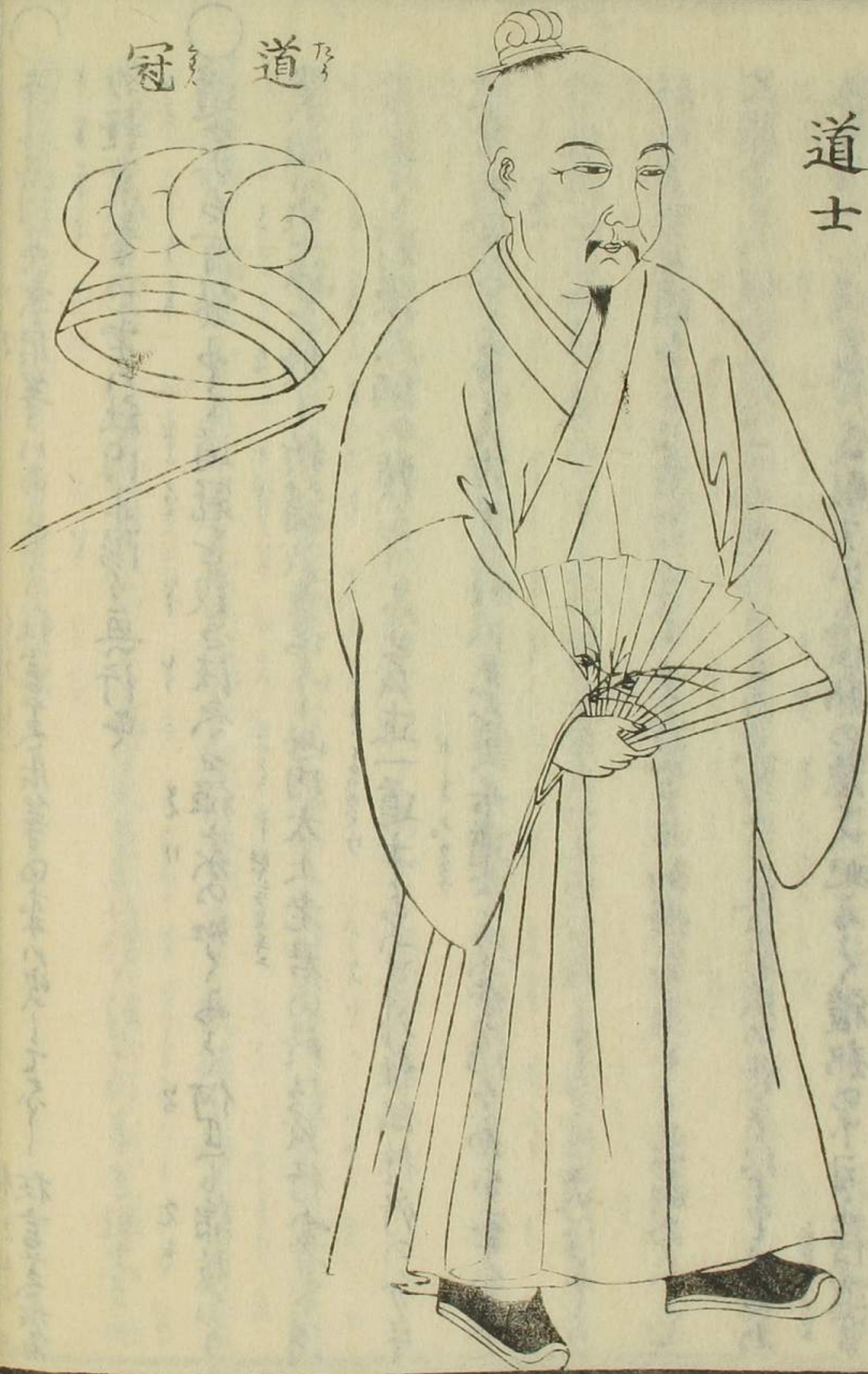
○僧道違犯不如法の者ハ其輕犯事ハ一山の住持とて寺法道法めり
行ハ甚重犯罪あり其其の官不も此れと知縣を府中へ裁断あるを
大罪あり候令住持大和尚たりとも其官不より此れ罪の輕きには是前
ふたり

○道宗成支配すも禮部物惣支配めく禮部の下司み僧道官
僧録司道祿司あり官ありて止成司ふ

僧徒
九三

道士

道冠



○護符等の事ハ儒家を執りせし道家も亦好小道家の奉尊ハ極く三清上

帝を祀ふ三清上帝ハ中央玉清元始天尊存々
上清靈寶天尊九々太清道德天尊道家も郊々寺と同儀也一山あるも

市中に居位をさすも亦社檀越付等此事ハ儒家も知ふま外一道士も

廻り深山に入り法修行を事ありたて俗人たてを裁た杖を突事あり

○且邪と号事仕古々あふりたても且とも當時ゆふたて檀越たての呼ぶ

○江湖ありひみ後夏此事ハ畧節とも在家の知ふ初みあり

清俗紀聞卷之十三畢

每部有圖章須
認印信為真

清俗紀聞跋

向者余之在崎陽也聽政之暇使官
屬近藤守重林貞裕問清高其國之
俗習輒隨筆焉又隨圖焉終成一書其
起稿之始余偶罹疾而百事皆廢及
愈瓜期已迫故未脫稿齎還江戶爾後

劇職不暇翻閱因命臣津田永郁校
訂分為十二卷示諸林祭酒請序其端
且請名書祭酒名以清倍紀間且序而
還之或勸上本公諸同好遂命剞劂
不日而刻成矣澤正甫中伯毅亦序其
端嗚呼雖編輯之名在余彼官屬
等力實為多矣豈可虛其功哉因
備記与此役者姓名于卷末云寬政
己未冬十月中川忠英跋

赤峰脇田順書



大通事

高尾維貞

彭城斐

清河璧

平野祐英

彭城明矩

神代文鳳

穎川良友

彭城昌尊

吉島潜

小通事

寶刻十一半五 未八月 祿

神代干貴

陽忠廉

平井惟德

穎川惟賢

中山保高

彭城以貞

游竜賢

石崎融思

安田素教

畫工

清國蘇州

孟世燾

蔣恆

顧鎮

湖州 費肇陽

杭州 王恩溥

周恆祥

嘉興 任瑞

寬政十一年己未八月新鐫

發兌書目

東京湯島松住町
第四号之地

萬青堂 別所平七

四書集註

十冊

新點素讀本

壹圓

枕山詩鈔

六冊

當時現存大家大沼氏
詩集ナリ

六十錢

皇朝名家絕句

三冊

時序石勝題詠詩

近時盛行ノ絶句類撰ニ倣ヒ
皇朝ノ名詩ヲ弘ク集メテ書リ

三十五錢

慶應十家絕句

二冊

枕山湖山ヲ始メ其他ノ名家
十名ヲ集ム

十五錢

清十家絕句

二冊

錢鏞益米竹蛇其他ノ名家
十名ヲ輯ム

全

書家聯錦

一冊

名語ノ集ニテ書家必携書ニ十錢

萬葉假名梯

一冊

符谷板倉閣
萬葉ノ字義音訓ヲ正セ者ニ廿五錢

平野橋翁著

心學孝行種 三冊

繪入平假名ニテ幼童女子ニモ
分り易ク為ニテ善本ナリ 廿五卷

本居宣長撰

秘本玉之 二冊

皇朝經濟ノ事ヲ大人ヨリ
其公へノ上申書ナリ 三十卷

令集 解 三十六冊

七十五卷

曲亭馬琴翁著

雅俗要文 全

最モ面白キ文意多ク且解シ易ク
為人篇末ニ其字義出所等ヲ釈シ
タル能キ手簡ノ本ナリ 廿五卷

萩原乙彦著

同 二編 全

前編ニ倣フト虽モ文辭旧俗ニ異リ
漢語ヲ上トシ文明開化ノ奇文多ク同
童蒙進學ノ一助ナラン

千字文餘師 全

六卷

天滿宮御傳記 二冊

天滿宮ノ御傳記ヲ繪入ニシテ
平仮名月ニテ童蒙婦女子ニ
能ク管神ノ趣意ヲ知り得
廿五卷

萩原乙彦補編

增補漢語二重字引模本 全

方今御布告新聞紙等ヲ
讀ムニ必用ノ字書ニ 廿五卷

萩原乙彦和辭

八史略俗解 十冊 近刻

大槻東陽撰

訓蒙日本外史 全廿五冊

一帙五冊 五十五卷

長田德隣校正

全唐紙摺合本 十七冊

三冊

萩原乙彦著

東京開化繁昌誌 初編二冊 二編二冊

一編 三十五卷

石川介編

皇朝精華集 二冊

往古王公武將ノ詩ヨリ文學諸
先生ノ來ノ名家ニ至ルマテ都鄙
論セテ博ク採集奇題新詠最モ
廿五卷

小野湖山撰

全 續編 二冊

廿五卷

同

同 續編 二冊

廿五卷

同

同 續編 二冊

廿五卷

同

同 續編 二冊

廿五卷

同

同 續編 二冊

廿五卷

同

同 續編 二冊

廿五卷

同

同 續編 二冊

廿五卷

二萬壽堂藏

開化小学用文中本一冊

廿八

繪入開化新話
一名田舎息子

東京開化藤栗毛

萩原九 開化商賣往來 全 習字本 廿

同 皇朝單語字類 全 同上 六十

同 女大學 全 同 廿

同 二體十字文真州 全 同 廿

卷羨 書法集解 四帖 運筆書法習字手本 壹

高島正清 習文必用 中本 近刻 和漢名家作例文章之復文
初學作文ノ階梯トス

新刻書目便覽 全 戊辰以來新版書目ノ集 廿

八年九月御改正 假名附出版條例並諸罰則 六

福田理軒 著述 順天求合社算學書目

筆算入門二冊 六冊 算學速成十七 全一冊

筆算通書同 六冊 測量集成十卷出來 十五卷

代微積拾級譯解一冊 十冊 談天 六冊

測量新式二冊 十冊 順天堂算譜廿五 二冊

太陽曆俗解 十一卷 二冊

新曆ノ意味ヲ詳カニ説タルモノ
ニテ大ニ世益アリク書ナリ

[Faded text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

東京

書屋

日本橋南一丁目	須原屋茂兵衛
同 二丁目	山城屋佐兵衛
同所	小林新兵衛
芝神明前	和泉屋吉兵衛
同所	岡田屋嘉七
横山町三丁目	和泉屋金右衛門
浅草茅町二丁目	須原屋伊八
下谷御成道	英屋文藏
下谷稻荷町	福田屋勝藏
昌平橋外明神	嶋屋平七

